

# 経済学専攻

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 理論経済学研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 山田正雄    |    |      |     |        |

授業の概要 経済成長理論の基礎

授業の一般目標 新古典派成長モデルを中心に経済成長理論の基礎を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経済成長理論の基礎を理解する。

授業の計画（全体） 講義を中心に、経済成長理論の基礎を学びます。技術進歩が存在しない新古典派成長モデルから出発し、技術進歩が存在する場合や内生的成長モデルに関しても学んでいきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 カルドアの「定型化された事実」
- 第 2 回 項目 集計的生産関数
- 第 3 回 項目 経済成長の基本方程式
- 第 4 回 項目 定常状態と移行過程
- 第 5 回 項目 黄金律
- 第 6 回 項目 動学的非効率性
- 第 7 回 項目 人口成長率の変化
- 第 8 回 項目 技術進歩
- 第 9 回 項目 技術進歩と黄金律
- 第 10 回 項目 技術進歩と動学的非効率性
- 第 11 回 項目 技術進歩率の変化
- 第 12 回 項目 AK モデル
- 第 13 回 項目 移行動学を伴う内生的成長
- 第 14 回 項目 貧困のワナを伴う成長モデル
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 参加姿勢、レポート、出席により評価します。

教科書・参考書 参考書： 内生的経済成長論 I, R. バロー, X. サラ-イ-マーティン, 九州大学出版会, 1997 年

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代経済学研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 寺地伸二    |    |      |     |        |

授業の概要 ある程度の数学的手法を習得していることを前提にして、英文の理論経済学の代表的な研究書および研究論文を読む。

授業の一般目標 英文の理論経済学の代表的な研究書および研究論文を読んで、指定した箇所を各自で発表してもらう。

授業の計画（全体） ある程度の数学的手法を身につけていることを前提として、英文の理論経済学の研究書および学術論文の指定された部分の内容を各自発表する。

成績評価方法（総合） 英文の理論経済学の研究書および学術論文の内容を各自発表してもらい、さらに質問にたいして十分な答え方ができるかどうかで、発表者の理解度をみる。

メッセージ もし受講する予定であれば、開講以前に必ずアポイントメントをとり、私の意見を聞きにくること。

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 制度の経済学研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 植村高久     |    |      |     |        |

授業の概要 現代の制度論の基本的な文献を渉猟し、経済学における制度の扱い方についての概括的理解を得る。

授業の一般目標 制度論経済学の基本的な概念を理解する。制度論的思考法と新古典派的思考法の違いを識別する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：制度や慣習、行動類型など制度論の基本概念を操作できる。 思考・判断の観点：制度論的思考法による問題設定ができる。

授業の計画（全体） 制度論に関する基本的文献を輪読する。

成績評価方法（総合） 輪読における理解度、議論への参加度で評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは授業内で指定する（相談して決める）。

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代日本の労使関係研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 濱島清史        |    |      |     |        |

授業の概要 現代日本の労使関係について、主に労組、経営者団体、政策の戦後の動向を辿っていき、各自の歴史認識を深めることをねらいとする。労使関係には上記以外に日本的労使関係の考察や労務管理なども考えられるが、本講義では政労使三者関係史を中心に概観していくことにする。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。ちなみに、一昨年前期は、高橋伸夫(2004)『虚妄の成果主義』日経 BP .を中心に、他に日本的雇用慣行の基本文献を数本やり、さらに各自の発表を自由課題で行なった。 / 検索キーワード 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使関係、日本的雇用慣行

授業の一般目標 現代日本の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解すること。

授業の計画(全体) ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)か(2)のいずれかを輪読し、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらおう。なお、下記の参考書(5)はテキストとの立場上のバランスをとるために挙げている。それが終わったら、テキスト(3)の1990年以降の「第1概説」部分を毎回輪読していく。発表者にはできれば白書全頁とさらに参考文献を併せて読んできて報告することを期待する。その他の参加者も少なくとも十数年分の「第1概説」を通読して知識を養ってもらおう。経済白書や世銀の年報の数年分の輪読は、他の大学院のゼミでも取り入れられており、とても有意義な方法と認識している。

成績評価方法(総合) レジュメ発表と学期末レポート。

教科書・参考書 教科書：労働運動白書、労働省、大蔵省印刷局；日本の労働組合100年、法政大学大原社会問題研究所【編】、旬報社、1999年；労働組合を創る、労働問題実践シリーズ編集委員会編、大月書店、1990年；・テキスト候補(1)神代和欣・連合総合生活開発研究所編(1995)『戦後50年産業・雇用・労働史』日本労働研究機構。(2)兵藤ツトム(1997)『労働の戦後史』東京大学出版会。(3)(厚生)労働省『労働運動白書』大蔵省印刷局、各年版。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(4)法政大学大原社会問題研究所編(1999)『日本の労働組合100年』旬報社。(5)労働問題実践シリーズ編集委員会編『労働組合を創る』大月書店。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 共に学ばん！

連絡先・オフィスアワー tel: 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 金融経済と貨幣理論研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 兵藤隆         |    |      |     |        |

授業の概要 この講義では、基礎的な金融経済理論および貨幣理論の考察を通じて、今後のわが国の金融システムがどのように変化すべきなのかを理論的・実証的に検証していくことを目的とする。 / 検索キーワード 金融理論、貨幣理論、マネー、Money、金融機関、金融制度、金融システム

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融の歴史：明治期から戦後復興期まで
- 第 3 回 項目 高度成長期の金融システム
- 第 4 回 項目 金融自由化
- 第 5 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (1)
- 第 6 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (2)
- 第 7 回 項目 公的金融と財政投融资制度
- 第 8 回 項目 公的金融と郵便貯金
- 第 9 回 項目 金融の現状
- 第 10 回 項目 貨幣の役割：貨幣理論の基礎
- 第 11 回 項目 貨幣需要
- 第 12 回 項目 利率の期間構造
- 第 13 回 項目 金融仲介機関と情報の非対称性
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

|      |                 |    |      |     |        |
|------|-----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 金融システムとファイナンス研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                 | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 兵藤隆             |    |      |     |        |

授業の概要 この講義では、金融工学(ファイナンス)理論や情報の経済学など、よりアドバンスト(発展的)な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。/検索キーワード 金融工学 ファイナンス 投資決定理論

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
- 第 3 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
- 第 4 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 5 回 項目 統計学の基礎 2
- 第 6 回 項目 平均・分散アプローチ 1
- 第 7 回 項目 平均・分散アプローチ 2
- 第 8 回 項目 CAPM 理論 1
- 第 9 回 項目 CAPM 理論 2
- 第 10 回 項目 APT(価格裁定理論)
- 第 11 回 項目 行動ファイナンス理論
- 第 12 回 項目 デリバティブの概要
- 第 13 回 項目 オプション価格決定理論 1
- 第 14 回 項目 オプション価格決定理論 2
- 第 15 回 項目 予備

メッセージ 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 公共経済研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 藤井大司郎    |    |      |     |        |

授業の概要 公共経済研究 B とともに、公共部門の経済理論に属する緒テーマを幅広く学ぶことを目的とする。この科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する理解を前提としており、ある程度の経済数学的知識（微積分、線形数学の初歩程度）にも p 通じていることが望ましい。また、必要に応じて関連する学術論文（英文）を参照することもあるので、英語読解力も求められる。

授業の一般目標 財政学の理論的基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する基礎知識  
 技能・表現の観点：図式、数学の操作力を駆使できること。

教科書・参考書 教科書：lectures on Public Economics, A.B. Atkinson and J.E. Stiglitz, M c G r a w - H i l l, 1980 年



|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 公共経済研究 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 藤井大司郎    |    |      |     |        |

授業の概要 公共経済研究 A とともに、公共部門の経済理論に属する緒テーマを幅広く学ぶことを目的とする。この科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する理解を前提としており、ある程度の経済数学的知識（微積分、線形数学の初歩程度）にも p 通じていることが望ましい。また、必要に応じて関連する学術論文（英文）を参照することもあるので、英語読解力も求められる。

授業の一般目標 財政学理論の基礎を学ぶ。

教科書・参考書 教科書：lectures on Public Economics, A.B. Atkinson and J.E. Stiglitz, M c G r a w-H i l l, 1980 年

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 計量経済学研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 朝日幸代     |    |      |     |        |

授業の概要 経済理論を現実の経済および社会データを用いて、検証できるために必要な基本となる分析ツールを取り扱う授業である。特に、重回帰モデルの理論とその応用方法について解説し、パソコンを用いた実習形式の授業とする。目的とする分析テーマに合わせて、統計データを収集し、実際に推計を行い、推定結果についての評価までをレポートとして作成する。

授業の一般目標 重回帰分析の基礎的な理論を理解する。経済理論を現実のデータを用いて検証する。計量経済学的手法を用いた研究を分析結果をみて、理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な計量経済学の理論を理解している。データ制約が存在する場合、どのような対処方法で分析可能であるかを理解している。思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。計量経済学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。態度の観点：実習講義として、自らが学ぶことが極めて重要であることから、積極的に粘り強く課題に取り組むことができる。技能・表現の観点：レポートを効果的に作成できる。短時間にPCの扱い方をマスターしながら、統計データを正しく処理することができる。内容、形式ともに十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画（全体） データを用いた統計的手法をいくつか解説した後に、重回帰分析の様々な事例を課題に出しながら講義を進める。重回帰モデルについては係数についての解釈、さらに誤差の分散が等しくないとき、系列相関がある時の問題を扱う。次に多重共線性の問題、ダミー変数の利用方法、同時方程式モデルと計量経済学での識別問題への導入を行う。時間が許せば、分布ラグモデルや期待のモデルについても取り扱う予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 経済データにおける様々な統計的利用
- 第 2 回 項目 レポート作成上の分析事例の解説
- 第 3 回 項目 最小 2 乗法
- 第 4 回 項目 重回帰モデル（ 1 ） 内容 統計量の利用 残差プロット、決定係数（自由度修正済み） 回帰係数の解釈
- 第 5 回 項目 重回帰モデル（ 2 ） 内容 安定性の検定、
- 第 6 回 項目 分散不均一性 内容 分散不均一性の検出 分散不均一性の影響 問題解決方法 1
- 第 7 回 項目 分散不均一性 内容 問題解決方法 2
- 第 8 回 項目 系列相関 内容 DW 検定、自己相関のある誤差項での推定方法
- 第 9 回 項目 系列相関 内容 AR(1) の誤差が OLS 推定量に与える影響、ラグつき変数を含むモデルのケース、その他の検定と対処方法
- 第 10 回 項目 多重共線性 内容 尺度、解決方法
- 第 11 回 項目 ダミー変数 内容 活用方法
- 第 12 回 項目 同時方程式モデル 内容 識別問題、識別の必要十分条件、推定法（ 1 ）
- 第 13 回 項目 同時方程式モデル 内容 推定法（ 2 ）
- 第 14 回 項目 期待のモデル 内容 期待のナイーブモデル、対応型モデル、合理的期待モデル
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 講義中に何回か出す課題のレポート（評価比率 30 %）と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート（評価比率 70 %）によって評価する。

教科書・参考書 教科書：入手する必要があるテキストを第 1 回授業の時に正式に指示をする。 / 参考書：Econometric Analysis 5th ed, William H. Greene, US Imports & PHIPs, 2002 年；入手が望ましい参考文献は講義中に別途紹介する。

メッセージ レポート作成に必要なマイクロソフト word や Excel の知識を持っていること(同様な機能を持つアプリケーションも可)を前提とします。また、計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示し、指導します。様々な課題に粘り強く取り組んでいただきたいと思います。

連絡先・オフィスアワー [asahi@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:asahi@yamaguchi-u.ac.jp)

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 計量経済学研究 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 野村淳一      |    |      |     |        |

授業の概要 計量経済分析の応用範囲は、今日広範囲に広がっており、先端的な分野における分析ツールを短期間に全てカバーすることは不可能である。したがって本講義では受講生の専攻分野でよく用いられる手法に集中し、その理論と応用方法について解説する。

授業の一般目標 計量経済分析の先端的な分野の理論を習得し、現実のデータへ応用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な計量経済学の理論を理解している。 思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 技能・表現の観点：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画（全体） 次の分野から受講生の希望により選択する。 1. 質的変数モデル（アンケート調査分析を含む） 2. パネル・データの分析 3. 単位根・共和分分析 4. ARCH モデル 5. カルマン・フィルター 6. 多変量解析（主成分分析、因子分析、クラスター分析）

成績評価方法（総合） 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。

教科書・参考書 教科書：Econometric Analysis 5th ed, William H. Greene, US Imports & PHIPES, 2002 年；その他に選択分野により適宜テキストを指定する。

メッセージ レポート作成に必要なワープロソフトの知識を持っていることを前提とする。計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示・指導する。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける（講義中に指示）

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 経済応用数学 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 柏木芳美     |    |      |     |        |

授業の概要 受講生の数学的予備知識に配慮しながら，ミクロ経済学の数学的理解に必要な可変関数の微分や行列式や凹関数の最大値問題などについて概説する。応用として，国家公務員試験及び地方公務員試験上級の一部の問題の解説も行う。尚，他に希望があれば相談にのる。

授業の一般目標 ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 偏導関数の計算ができる。 2. 行列式の計算ができる。 3. 無差別曲線，限界代替率などの概念を理解できている。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分の計算 その 1
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分の計算 その 2
- 第 3 回 項目 1 変数関数の最大・最小問題
- 第 4 回 項目 偏微分 その 1
- 第 5 回 項目 偏微分 その 2
- 第 6 回 項目 高階偏微分
- 第 7 回 項目 全微分
- 第 8 回 項目 接平面
- 第 9 回 項目 合成関数の微分 その 1
- 第 10 回 項目 合成関数の微分 その 2
- 第 11 回 項目 行列式の計算 その 1
- 第 12 回 項目 行列式の計算 その 2
- 第 13 回 項目 行列式の計算 その 3
- 第 14 回 項目 陰関数定理と無差別曲線 その 1
- 第 15 回 項目 陰関数定理と無差別曲線 その 2

成績評価方法（総合） 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

教科書・参考書 教科書： 授業開始時点に指示する。

メッセージ 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 経済応用数学 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 柏木芳美     |    |      |     |        |

授業の概要 経済応用数学 A に引き続き，ミクロ経済学の理解に必要な数学の概説を行う。応用として，国家公務員試験及び地方公務員試験上級の一部の問題の解説も行う。

授業の一般目標 ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 条件付き極値問題の意味を理解し，具体的な問題が解ける。 2. 効用最大化問題・支出最小化問題の意味を理解し，具体的な問題が解ける。 3. スルツキー方程式が扱える。 4. 所得項・代替項の意味を理解し，その基本的な性質が扱える。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 条件付極値問題 その 1
- 第 2 回 項目 条件付極値問題 その 2
- 第 3 回 項目 凸集合
- 第 4 回 項目 凸関数，凹関数 その 1
- 第 5 回 項目 凸関数，凹関数 その 2
- 第 6 回 項目 準凹関数
- 第 7 回 項目 効用最大化問題 その 1
- 第 8 回 項目 効用最大化問題 その 2
- 第 9 回 項目 支出最小化問題 その 1
- 第 10 回 項目 支出最小化問題 その 2
- 第 11 回 項目 双対性
- 第 12 回 項目 スルツキー方程式 その 1
- 第 13 回 項目 スルツキー方程式 その 2
- 第 14 回 項目 代替項の性質
- 第 15 回 項目 ギッフェン財，代替財，補完財

成績評価方法（総合） 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

教科書・参考書 教科書： 授業開始時点に指示する。

メッセージ 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

|      |        |    |     |     |        |
|------|--------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 経済政策論A | 区分 | 講義  | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 施 昭雄   |    |     |     |        |

**授業の概要** 五日間の集中講義であるために、予定としては一日に一つのテーマのもとで講義を進めることにする。その五つのテーマとは、1、「南北問題と援助」、2、「中国の人口と食糧問題」、3、「シンガポールの経済発展と経済政策」、4、「マレーシアの経済発展とプミプトラ政策」、5、「台湾の外国人労働者問題」等であり、これらについて詳細に説明するつもりである。各テーマの講義内容は以下の通りである。1、南北問題の発生、Prebisch Report と UNCTAD(国連貿易開発会議) との関係、日本の援助概況等を「南北問題と援助」のテーマの下で説明する。2、中国は13億の人口を抱え、さらに人口が今後も増え続けるなかで経済発展を進めることから生じる様々な問題をどう理解するか。「中国の人口と食糧問題」のテーマのもとで説明する。3、僅か日本の琵琶湖の面積しかない小さな国が、40年の短い期間で先進国の水準まで発展してきた要因と、これまでシンガポールが実施してきた発展のための経済政策について「シンガポールの経済発展と経済政策」のテーマのもとで論述する。4、1969年5月13日に起きた民族間の暴動事件を機に、プミプトラ政策が、実施されたが、その後の経済政策運営について、常に重要な役割を占め、マレーシアの経済に及ぼした影響について、「マレーシアの経済発展とプミプトラ政策」のもとで説明する。5、1991年に台湾は外国人労働者の受入れを開始した。その原因とその後の状況と問題点について、「台湾の外国人労働者問題」のもとで説明する。 / 検索キーワード 経済政策、南北問題、経済援助、人口と労働、地域研究

**授業の一般目標** 本講義の目標は、アジア経済、特に、「世界経済の成長センター」といわれてきた東アジア(東南アジア地域を含む)を対象に、これら地域が、何故にここまで経済発展を行えたかを検討する。それにはこれらの地域の国々(地域)の経済発展過程、とりわけ経済発展の原因、歴史、現状分析、問題点と政策などについて論述し、経済政策がもつ意味の重要性もあわせて説明する。

**授業の計画(全体)** 上記の授業概要の項目において述べたように、全体の授業計画は、五日間の集中講義のため、一日に一つのテーマの下で講義し、分析を行う。詳細はその項目を参照されたい

**成績評価方法(総合)** 出席状況とレポートの内容に依拠し成績を評価する

**教科書・参考書** 参考書：大野健一・桜井宏二郎著；東アジアの開発経済学、有斐閣

**連絡先・オフィスアワー** 施 昭雄(自宅)平成19年4月1日以降は a-y-se@jb3.so-net.ne.jp 但し、平成19年3月末までは ee010174@fukuoka-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 政府と政策 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 仲間瑞樹  |    |      |     |        |

**授業の概要** この講義では主として日本のマクロ経済政策，ミクロ経済政策に携わっている日本の政策立案者（政策当局者）が執筆した英文論文を読む。そして政策立案者が日本経済や財政，そして財政金融，並びに財政金融政策をどのように評価しているかを考察する。読む論文は英文の論文である。注意してほしいことは，英文和訳の講義ではないこと。論文を読み，受講生に内容を発表してもらう。そして論文の中で扱っているテーマについて議論することがメインである。

**授業の一般目標** 政府の政策理論を学ぶ。

**授業の計画（全体）** 発表者に論文の内容を報告してもらい、その後他の受講者・教員からの質疑応答を受けつける。適宜・教員からの補足説明も加える。最後に論文のテーマについて、報告者も含めてディスカッションをする。

**成績評価方法（総合）** 発表と議論の参加度合いから評価する。

**メッセージ** 扱うテキストや論文は初回講義時にお知らせします。またミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の基礎知識を前提とします。

**連絡先・オフィスアワー** nakama73@yamaguchi-u.ac.jp ご不明な点がありましたら、メールで問い合わせてください。



|      |              |    |      |     |        |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 高齢化社会の経済学的研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 植村高久         |    |      |     |        |

授業の概要 日本における高齢化の進展から生じる経済的問題を総合的多面的に考察する。

授業の一般目標 少子高齢化が及ぼす経済的效果について、様々な影響の回路を理解して、包括的・総合的に判断できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の少子高齢化の状況と見通し、その原因について概略説明できる。 思考・判断の観点：少子高齢化の作用について、推論できる。

授業の計画（全体） 資料を講読して、高齢化の作用を解説する。

成績評価方法（総合） 主に演習への参加度によって評価するが、最終レポートを補助的に利用する。

教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 地域経済論研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 齋藤英智    |    |      |     |        |

授業の概要 地域経済に関連する諸理論を学び、地域経済の現代的課題について検討する。 / 検索キーワード 地域経済、都市経済

授業の一般目標 地域経済に関する理論を理解するとともに、地域経済学的アプローチによって地域の現代的課題を考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：地域経済に関する理論についての報告・議論ができる。 思考・判断の観点：理論と現状に基づく問題の所在を述べるができる。 関心・意欲の観点：疑問点を自ら積極的に調査・分析し、報告・議論ができる。

授業の計画（全体） 地域経済に関する経済理論の文献を輪読する。毎回分担報告者がレジュメを作成し報告する。また、報告者は予めその日の報告に関連するトピックを準備し、自ら考察を加えたものを準備する。その日の報告に基づき、全員が参加して地域政策について討論する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業計画の説明・報告担当者の決定
- 第 2 回 項目 地域の課題（1） 内容 報告・討論：都市
- 第 3 回 項目 地域の課題（2） 内容 報告・討論：農山漁村
- 第 4 回 項目 都市集積（1） 内容 報告・討論：都市の集中
- 第 5 回 項目 都市集積（2） 内容 報告・討論：規模の経済
- 第 6 回 項目 都市の成長と衰退（1） 内容 報告・討論：成長モデル
- 第 7 回 項目 都市の成長と衰退（2） 内容 報告・討論：衰退モデル
- 第 8 回 項目 立地（1） 内容 報告・討論：中心地理論
- 第 9 回 項目 立地（2） 内容 報告・討論：産業立地
- 第 10 回 項目 産業連関（1） 内容 報告・討論：産業連関分析
- 第 11 回 項目 産業連関（2） 内容 報告・討論：地域間産業連関
- 第 12 回 項目 空間的相互作用 内容 報告・討論：重力モデル
- 第 13 回 項目 地域政策（1） 内容 報告・討論：地域経済活性化への諸方策
- 第 14 回 項目 地域政策（2） 内容 報告・討論：地域の持続可能性
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 総合討論：地域の持続的発展

成績評価方法（総合） 出席（30%）、報告（50%）、参加姿勢・発言内容など（20%）により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は最初の授業内で指定する。

メッセージ 報告者が提供するトピックでは、資料の収集やデータ分析などを各自で行ってもらおう。ワード、エクセルなどのソフトを利用し、分析できることが望まれる。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |            |    |      |     |        |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 地域社会福祉論研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |            | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 鍋山祥子       |    |      |     |        |

授業の概要 「地域」や「福祉」をキーワードにして、私たちの生活社会のあり方について考える。現在の福祉政策がどのような理念のもとに進められているのか、また、どのような問題点が指摘されているのか、などについて、最近の雑誌論文や最新の文献を読み合わせることによって、議論を進めていく。テーマとなる主な福祉政策は、高齢者福祉政策、医療政策、労働政策、家族政策などである。また、ジェンダー・パースペクティブを有効な方法論として使用する。/ 検索キーワード 地域、福祉、社会学、コミュニティ、ジェンダー

授業の一般目標 生活に福祉政策がどのように関わっているのかを当事者意識を持って考察することができる。福祉政策が社会に与える影響について分析することができる。

授業の計画(全体) 演習形式で授業をおこなう。各自が話し合いによって文献の分担を決め、授業での報告をもとに全員での討論をおこなう。

成績評価方法(総合) 授業への参加度合いや討論の内容など、総合的に判断し評価する。演習形式の授業のため、出席は履修の必要条件である。

教科書・参考書 教科書：読み合わせるテキストとして、“Social Politics”および“Journal of Social Policy”などの雑誌に掲載されている英語論文を考えている。

メッセージ 授業内容を自分の興味関心と結びつけて考察するという姿勢を望みます。

連絡先・オフィスアワー E-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 10:00 - 11:00

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 海運論研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 澤 喜司郎  |    |      |     |        |

授業の概要 国際海運経済学の諸理論について学習します。

授業の一般目標 国際海運経済学の諸理論の理解を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際海運経済学の諸理論を理解する。

授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストに沿って講読と報告の形式で進めます。

成績評価方法（総合） 成績評価は、学期末のレポート（10,000 字以上）によって行います。

教科書・参考書 教科書： 海運国際経済学, 澤喜司郎, 海文堂出版, 2004 年

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 海運論研究B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 澤 喜司郎  |    |      |     |        |

授業の概要 海運論研究 A に続けて、国際海運経済学の諸理論について学習します。この講義は海運論研究 A の単位を修得していることが受講の条件になります。

授業の一般目標 国際海運経済学の諸理論の習得を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際海運経済学の諸理論を習得する。

授業の計画（全体） 講義は、下記のテキスト沿って講読と報告の形式で進めます。

成績評価方法（総合） 成績評価は、学期末のレポート（10,000 字以上）によって行います。

教科書・参考書 教科書： 国際海運経済学, 澤喜司郎, 海文堂出版, 2004 年

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 交通論研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 澤 喜司郎  |    |      |     |        |

授業の概要 交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。

授業の一般目標 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：交通計量経済学の諸手法を習得する。

授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストに沿って講読と報告の形式で進めます。

成績評価方法（総合） 成績評価は、学期末のレポート（10,000 字以上）によって行います。

教科書・参考書 教科書：交通計量経済学（改訂版），澤喜司郎，成山堂書店，2000 年

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 交通論研究B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 澤 喜司郎  |    |      |     |        |

授業の概要 交通論研究Aに続き、交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。なお、本講義の履修には、交通論研究Aを履修してあることが前提条件となります。

授業の一般目標 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：交通計量経済学の諸手法を習得する。

授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストに沿って講読と報告の形式で進めます。

成績評価方法（総合） 成績評価は、学期末のレポート（10,000字以上）によって行います。

教科書・参考書 教科書：交通計量経済学（改訂版），澤喜司郎，成山堂書店，2000年

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 観光経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 齋藤英智   |    |      |     |        |

授業の概要 観光に関連する経済理論を学び、観光の現代的課題について検討する。とりわけ、持続可能な観光のあり方を検討課題とし、エコツーリズムやグリーン・ツーリズムなどの概念を理解することによって、資源の持続性や環境的側面を考慮した観光の持続的発展について考える。 / 検索キーワード 観光経済、持続可能な観光

授業の一般目標 持続可能な観光に関する理論や考え方を理解するとともに、経済学的なアプローチによって観光の現代的課題を考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 持続可能な観光の概念を踏まえた議論ができる。 思考・判断の観点： 観光を取り巻く現状を理解し、観光のあるべき姿に対する意見を述べるができる。 関心・意欲の観点： 自らの疑問点を分析し、報告・討論することができる。

授業の計画（全体） 観光に関する経済理論の文献を輪読する。毎回分担報告者がレジュメを作成し報告する。また、報告者は予めその日の報告に関連するトピックを準備し、自ら考察を加えたものを準備する。その日の報告に基づき、全員が参加して持続可能な観光のあり方について討論する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 ・授業計画の説明 ・報告担当者の決定
- 第 2 回 項目 マス・ツーリズム 内容 報告・討論：これまでの観光形態と持続可能性
- 第 3 回 項目 サステイナブル・ツーリズム 内容 報告・討論：これからの観光形態と持続可能性
- 第 4 回 項目 観光経済理論（1） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（需要面）
- 第 5 回 項目 観光経済理論（2） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（需要面）
- 第 6 回 項目 観光経済理論（3） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（需要面）
- 第 7 回 項目 観光経済理論（4） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（供給面）
- 第 8 回 項目 観光経済理論（5） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（供給面）
- 第 9 回 項目 観光経済理論（6） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（供給面）
- 第 10 回 項目 持続可能な観光（1） 内容 報告・討論：持続可能な観光の概念（経済面）
- 第 11 回 項目 持続可能な観光（2） 内容 報告・討論：持続可能な観光の概念（社会面）
- 第 12 回 項目 持続可能な観光（3） 内容 報告・討論：持続可能な観光の概念（環境面）
- 第 13 回 項目 持続可能な観光の形態（1） 内容 報告・討論：エコツーリズムを中心に
- 第 14 回 項目 持続可能な観光の形態（2） 内容 報告・討論：グリーン・ツーリズムを中心に
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 総合討論：持続可能な観光のあり方

成績評価方法（総合） 出席（30%）、報告（50%）、参加姿勢・発言内容など（20%）により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は最初の授業内で指定する。

メッセージ 報告者が提供するトピックでは、資料の収集やデータ分析などを各自で行ってもらおう。ワード、エクセルなどのソフトを利用し、分析できることが望まれる。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp



|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本経済史研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 木部和昭     |    |      |     |        |

授業の概要 テーマ：明治期の山口県経済 明治時代の日本は、資本主義化や産業革命が進行した時代といわれる。しかし、その全てが日本の全域で均質的に進行していたわけではない。「地方」における資本主義経済の発達や産業革命はどのような状況にあったのか。この授業では、山口県地域に焦点をあて、地方における経済社会の実情について、当時の史料を用いて分析してみたい。 / 検索キーワード 日本経済史、日本近代史、産業革命

授業の一般目標 ・山口県における資本主義経済の浸透状況、産業化の具体相を、全国的動向と比較しながら理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。 ・明治期の史料を通じて歴史を分析する能力を養う。

授業の計画(全体) 『山口県史・史料編 近代4』(明治期の産業・経済編)に掲載された諸史料の講読を行う。具体的には、割り当てられた項目の史料をもとに、受講者に報告を行ってもらいながら、授業を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス(授業の進め方)
- 第 2 回 項目 山口県の経済概況と勸業政策
- 第 3 回 項目 山口県の水産業(水産業振興)
- 第 4 回 項目 山口県の水産業(下関とトロール漁業)
- 第 5 回 項目 山口県の近代捕鯨業
- 第 6 回 項目 山口県の塩業
- 第 7 回 項目 山口県の鉱業(石炭)
- 第 8 回 項目 山口県の在来産業
- 第 9 回 項目 山口県における近代工業(小野田セメント)
- 第 10 回 項目 山口県における近代工業(日本舎密製造)
- 第 11 回 項目 山口県における近代工業(その他諸工業)
- 第 12 回 項目 山口県の金融業
- 第 13 回 項目 産業経済基盤の整備(道路・鉄道)
- 第 14 回 項目 産業経済基盤の整備(港湾・電気等)
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 課題の報告(45%)およびレポート(30%)による。この他、授業への取組み(15%)、出席(10%)。

教科書・参考書 教科書：山口県史・史料編 近代4, 山口県編, 山口県, 2003年; テキストは適宜プリントして配布する。 / 参考書：必要な参考文献は、講義の中で適宜紹介する。

メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 可能世界論研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 正宗聡     |    |      |     |        |

授業の概要 Hneri Bergson の代表的なテキストを読み進めるなかで、「時間」、「自由(意志)」といったテーマについて考える。現実世界の進行する時間のなかで「自由」を観念的に捉え実践的に行使していくことにおいて、「可能世界」という考え方がどのように影響してくるのかを考えてみたい。/ 検索キーワード 真剣に授業に臨むこと。

授業の一般目標 抽象的な内容を自らのことばで言い換えなおす作業を行うことを目標にする。毎回、担当者はレジメを作成し、割り当てられた範囲の箇所を自分のことばでまとめあげることが課す。学部とは違い、単なる和訳の要約であってはならない。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「現実世界」、「可能世界」、「自由」、「時間」に関係する基本的な概念についての知識を増やす。また、著者の言いたいことをできるだけ正確に理解する。 思考・判断の観点：行間に書かれてある著者の隠されたことばを自ら判断し読み解く。 関心・意欲の観点：担当があてられた場合のみならず、毎回、よく下準備をしていくこと。 技能・表現の観点：聞いているものがわかるような発表を行う。

授業の計画(全体) 毎回、演習形式で行う。(1) 講師がその日、購読する箇所について一般的な解説を行う。(2) 担当があつた人は授業までにレジメを作り配り、それに基づいて授業内で発表してもらう。(3) その後、参加者全員で議論する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業についての説明 ベルグソンについての説明
- 第 2 回 項目 演習 1 内容 「自由」について考える。
- 第 3 回 項目 演習 2 内容 「自由」について考える。
- 第 4 回 項目 演習 3 内容 「自由」について考える。
- 第 5 回 項目 演習 4 内容 「自由」について考える。
- 第 6 回 項目 演習 5 内容 「自由」について考える。
- 第 7 回 項目 まとめ 内容 これまでの演習内容をまとめる。
- 第 8 回 項目 演習 6 内容 「時間」について考える。
- 第 9 回 項目 演習 7 内容 「時間」について考える。
- 第 10 回 項目 演習 8 内容 「時間」について考える。
- 第 11 回 項目 演習 9 内容 「時間」について考える。
- 第 12 回 項目 演習 10 内容 「時間」について考える。
- 第 13 回 項目 まとめ 内容 これまでの演習内容をまとめる。
- 第 14 回 項目 発展 1 内容 さらにベルグソンについて学ぶ。
- 第 15 回 項目 発展 2 内容 さらにベルグソンについて学ぶ。

成績評価方法(総合) 授業における発表+授業態度+レポート(1回) なお、レポートの詳細については第1回の授業で説明する。

教科書・参考書 教科書：毎回コピー配布する。/ 参考書：授業で触れることがある。

メッセージ なし

連絡先・オフィスアワー 未定(授業開始時に教室にてお知らせします。)

|      |                              |    |      |     |        |
|------|------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 文化心理学研究                      | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO |    |      |     |        |

授業の概要 人間は自分の個人的な価値観に基づいて、自分の個人的な利便性を追及するために、合理的な経済活動を行っており、社会的な圧力がなければ誰もこのような合理的な個人主義者になるという欧米的な考え方が、全ての文化経済に当てはまると思われてきた。社員はできるだけ自分の能力を発揮できる職場を求めたながら、自分の能力を雇用者に売っているというのが雇用関係の基本だとも主調される。一方では、日本・中国などアジア諸国では、先述した欧米合理個人主義に当てはまらない経済的システムが形成されてきた。近年の文化心理学という実験・社会心理学は、個々人間の独立性・価値観の独立性・合理性を欧米諸国の文化思想(神話)に過ぎないということを実証的に論じ始めた。本授業では、皆さんの経済学的研究との関係を考えながら、このような新しい社会心理学的な実験研究を紹介する。/ 検索キーワード 心理学・文化・集団主義・個人主義・欧米化

授業の一般目標 文化心理学の最新の実験的研究や下記の理論を理解すること 1) 集団主義と個人主義がどのように定義されてきたか 2) 相互依存主義の新しい見解がどのような問題を呈しているか 3) 自己高揚の普遍性についての論争 4) アジア諸国における道徳(あるいはそのなさ) 5) 全体的・分析的思考の理論 これらの研究が経済学的研究にどのように影響するかを考えることにある。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 文化心理学の理論を理解する 思考・判断の観点: 文化心理学の理論を自らの経済学的研究に応用する 技能・表現の観点: どのようにして自分の研究の心理的な前提の検証法

授業の計画(全体) 文化心理学では特に欧米と東洋(特に中国・韓国・日本)との間にある考え方の違いをいくつかの理論的観点から説明してきました。この授業では、各理論を考察してから、主張された違いがどのように他の心理学の分野に及ぶか、また経済学にどのような影響を与えているかについて考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文化心理学の紹介 内容 Richard Shwederなどを参照して文化心理学がなんぞや紹介します。 授業記録 PPT
- 第 2 回 項目 集団主義と個人主義(1/3) 内容 Geert Hofstedeの個人主義対集団主義の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 3 回 項目 集団主義と個人主義(2/3) 内容 Hazel Markusと北山忍の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 4 回 項目 集団主義と個人主義(3/3) 内容 結城正樹の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 5 回 項目 ナレーション(物語)の心理学 内容 言葉を使うことは思考にどのような影響を与えているか 授業記録 PPT
- 第 6 回 項目 自己高揚(自惚れ)の心理学 内容 欧米人は自惚れやであるのに対して、日本人はある種の劣等感をもつことで、反省し自己改善する 授業記録 PPT
- 第 7 回 項目 文化心理学と認知 内容 全体的思想と分析的思想という Richard Nisbettの理論 授業記録 PPT
- 第 8 回 項目 思考の媒体と心理学 内容 自己意識の主要媒体(チャンネル)が欧米と日本では異なっているという私設 授業記録 PPT
- 第 9 回 項目 ホラーの文化心理学 内容 ホラーやタブーについての諸理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 10 回 項目 ホラーと文化心理 内容 実際に昔話を読んで映画を見て 社会におけるタブー対象の影響 授業記録 PPT
- 第 11 回 項目 文化心理学の応用 内容 精神療法と文化心理学 授業記録 PPT
- 第 12 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT

- 第 13 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT
- 第 14 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT
- 第 15 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT

成績評価方法 (総合) 出席・授業参加も重視しながら、文化心理学が自分の研究への影響を考察するレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：パワーポイントスライドをインターネットで配布する / 参考書：社会心理学：アジア的視点から、山口勸編著、放送大学教材、1998 年；木を見る西洋人 森を見る東洋人、ニスベツト, R. E., ダイヤモンド社, 2004 年；(3) 日本人らしさ」の発達社会心理学 自己・社会的比較・文化, 高田 利武, ナカニシヤ出版, 2004 年；文化行動の社会心理学 文化を生きる人間のこころと行動, 金児 暁嗣, 結城 雅樹, 北大路書房, 2005 年；参考書を購入する必要はありませんが、文化心理学をもっと詳しく勉強したい学生にお貸しします。

メッセージ 話し合いながら、欧米文化普遍主義を考え直しましょう。

連絡先・オフィスアワー 083-933-5555 にお電話いただければいつでもどうぞ A 棟の 4 階まで

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 国際メディア研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | マルク・レール   |    |      |     |        |

授業の概要 国際比較に基づいて新聞の歴史的発展、新聞市場の現状や将来性について理論的に分析。

授業の一般目標 媒体論的アプローチによって新聞の特質を分析する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：新聞の歴史的発展とメディア的構造を理解する。 思考・判断の観点：新聞の媒体としての役割について判断ができる。 関心・意欲の観点：新聞に包括的に関心を持つ。 態度の観点：自分の研究分野に新聞を活かす。 技能・表現の観点：専門的なレベルで新聞に関して議論ができる。

授業の計画（全体） 1. 欧米と日本の新聞の歴史的発展。 2. 欧米と日本の新聞市場の現状。 3. 新聞紙面とジャーナリズム。 4. ニュースとニュースデザイン。 5. 新聞の将来。

成績評価方法（総合） 授業の参加度（40％）+レポート（60％）

メッセージ 毎回の授業の具体的な内容は、受講者の関心と専門知識レベルを参考にして調整する。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 国際経済学研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 田淵太一      |    |      |     |        |

授業の概要 テキストを輪読しつつ貿易理論の形成史と現実の世界経済の諸力との関連を理解する。

授業の一般目標 抽象的に理解されがちな貿易理論を，歴史，政治，通貨等の多面的な視角から捉え直す。

授業の計画（全体） テキストを輪読しつつ関連文献を紹介してゆきます。

成績評価方法（総合） 報告・討論等，日常的な活動により評価します。授業への参加度 50 %，受講者の発表 50 %。

教科書・参考書 教科書： China Trade and Empire(1827-1843), Pichon, British Academy, 2006 年

メッセージ 大学院レベルの英語読解力と経済理論・経済史の知識を要求します。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは前期開始後に発表します。

|      |              |    |      |     |        |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 多国籍企業と世界経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 河野真治         |    |      |     |        |

授業の概要 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、M & A、戦略的提携。 / 検索キーワード 直接投資

授業の一般目標 直接投資に関する最新の情報を学ぶこと。

授業の計画(全体) World Investment Report 2007、を読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論(以下同じ)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 授業中のレポートと、討論内容で評価する。

教科書・参考書 教科書: World Investment Report 2007, UNCTAD

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 国際産業研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 河野真治   |    |      |     |        |

授業の概要 いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討するのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となるのは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。 / 検索キーワード 国際産業組織

授業の一般目標 国際間の寡占企業間の競争の実態について学ぶ。

授業の計画(全体) 学生が自分で産業を選び、国際競争の実態について報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論 (以下同じ)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) レポートと討論内容で評価する。



|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | EU 経済研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 豊 嘉哲      |    |      |     |        |

授業の概要 EU にかんする英語文献を読む。その内容の報告した上で、それに対する自分の意見を述べてもらう。中心テーマは次の 2 つ。 ・ Common Agricultural Policy ・ Rural Development

授業の一般目標 EU にかんする知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： テキストを理解する。 思考・判断の観点： テキストの内容に対して自分の意見を述べる。

授業の計画（全体） EU に関する英語文献の輪読。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 輪読

第 3 回 項目 同上

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 授業中の発表で成績評価。欠席は欠格条件。

教科書・参考書 教科書： 第 1 回授業で指示する。

メッセージ 積極的に自分の意見を述べてください。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | EU 経済研究 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 豊 嘉哲      |    |      |     |        |

授業の概要 EU にかんする英語文献を読む。その内容を授業中に発表した上で、自分の見解を述べる。テーマは第 1 回授業で受講者と相談の上決定する。

授業の一般目標 EU にかんする知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストの内容を理解する。 思考・判断の観点：テキストの内容に対して自分の見解を述べる。

授業の計画（全体） EU にかんする英語文献の輪読。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 輪読。以下同じ。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 授業中の発表内容で評価する。欠席は欠格条件。

メッセージ 積極的に自分の意見を述べる学生を歓迎します。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | アジア経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 河村誠治    |    |      |     |        |

授業の概要 アジアとくに中国、台湾、韓国、日本など東アジアの開発独裁や官僚主導型発展という特質と、世界的潮流ともなってきたインドなどに見られる市場化による発展という二つの対極軸を想定し、両者を重ね合わせる経済発展が可能なものか、そして新たな矛盾の発生と解消について、院生の東アジア経済の関心領域において、院生とともに研究していく。

授業の一般目標 単なる諸論文の解釈でなく、それをもとに新たな論文・レポートを書き上げるスキルと知識、そしてその応用を身につける。ものを書くにも一定のスキルと知識、そしてその応用が不可欠であるということに気づくことを目標とする。

授業の計画(全体) アジア経済研究の基本的姿勢や枠組みを教えた後、アジア経済に関心のあるテーマを受講生自らが定め、それを報告し、ディスカッションしていく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アジアの定義 内容 一元的アジアか多元的アジアか
- 第 2 回 項目 アジアの経済発展 内容 データ分析
- 第 3 回 項目 アジアとくに東アジアの経済発展のメカニズム
- 第 4 回 項目 東アジアの工業化とポスト工業化など
- 第 5 回 項目 中国の経済発展と課題(1) 内容 1978 年前
- 第 6 回 項目 中国の経済発展と課題(2) 内容 1978 年以降
- 第 7 回 項目 台湾の経済発展と課題
- 第 8 回 項目 香港の経済発展と課題
- 第 9 回 項目 韓国の経済発展と課題
- 第 10 回 項目 インドの経済発展と課題(1) 内容 とくにハイテク産業の役割
- 第 11 回 項目 インドの経済発展と課題(2) 内容 とくにハイテク産業の限界
- 第 12 回 項目 院生研究テーマ・レポート報告・検討
- 第 13 回 項目
- 第 14 回 項目
- 第 15 回 項目

成績評価方法(総合) ディスカッションと何某かのレポート。

教科書・参考書 参考書: 東アジアへの視点 2005 春季特別号第 15 巻 2 号 特別報告 東アジア経済の趨勢と展望, 財団法人国際東アジア研究センター, 財団法人国際東アジア研究センター, 2005 年

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東アジア経済研究B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 尹春志       |    |      |     |        |

授業の概要 この講義では、現在、東アジアの焦点となっている自由貿易協定・経済連携協定の動きを、この地域の経済構造と政治力学の観点から理解することを目的とする。

授業の一般目標 現在の東アジアの政治経済力学を理解する視点を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：東アジアの経済構造、国際政治構造について理解する。 思考・判断の観点：日本と東アジアの今後の関係を展望するための視点を養う。

授業の計画（全体）東アジアの経済構造に関する理解からはじめ、それが日本を中心とした自由貿易協定戦略にどのように反映されているのかを検討する。次に、中国やASEAN、そして米国などの動向に注目した分析を行う。これらの課題をもとに参加者の討論を行いたい。

成績評価方法（総合）出席および討論への参加によって評価するが、受講者の理解度を勘案してレポートを課すことも考えている。

教科書・参考書 教科書：必要に応じて指示、配布する。 / 参考書：必要に応じて指示する。

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東アジア社会経済研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 李海峰         |    |      |     |        |

授業の概要 中国の市場経済発展と東アジア社会経済の構造変化を中心に分析し、検討する。 / 検索キーワード 社会経済の構造変化、消費生活の変貌、大衆消費社会、研究方法、

授業の一般目標 中国の市場経済発展と東アジア社会経済の構造変化の研究分析を通して、経済、経営理論、研究方法を習得してもらう、

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 東アジア社会経済の構造変化
- 第 2 回 項目 外資、技術、経営システムの導入
- 第 3 回 項目 市場経済の発展と消費水準の上昇
- 第 4 回 項目 経済政策と消費社会の変化
- 第 5 回 項目 生活水準の向上と階層間格差の拡大
- 第 6 回 項目 消費市場の拡大と商業環境の変化
- 第 7 回 項目 情報環境の発達と消費者行動意識
- 第 8 回 項目 大衆消費社会の形成
- 第 9 回 項目 都市・農村間の格差拡大
- 第 10 回 項目 大量消費と東アジアの環境
- 第 11 回 項目 社会主義市場経済について
- 第 12 回 項目 研究方法の探索
- 第 13 回 項目 社会調査方法
- 第 14 回 項目 アンケートの設計
- 第 15 回 項目 統計的分析手法

教科書・参考書 教科書：第一回目の講義の際に指示する、 / 参考書：第一回目の講義の際に指示する、

メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 東アジア社会経済研究B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 李海峰         |    |      |     |        |

授業の概要 東アジアにおける開発と経済発展、地域格差、階層間格差を中心に理論と実証方法で検討する。 / 検索キーワード 東アジアにおける開発、経済発展と格差の拡大、理論と実証、

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国の市場経済 発展と東アジア の構造変化
- 第 2 回 項目 地域開発の課題
- 第 3 回 項目 経済成長と地域 格差
- 第 4 回 項目 政府の所得分配 政策と格差の拡大
- 第 5 回 項目 都市と農村の生活水準の変化
- 第 6 回 項目 地域間、階層間 格差の拡大
- 第 7 回 項目 人間開発と貧困
- 第 8 回 項目 人間開発とジェンダー
- 第 9 回 項目 農村開発と農業 生産性の向上
- 第 10 回 項目 社会開発と貧困 の解消
- 第 11 回 項目 地域経済圏形成 の課題
- 第 12 回 項目 社会主義市場経済について
- 第 13 回 項目 研究方法の探索
- 第 14 回 項目 理論と実証方法
- 第 15 回 項目 社会調査と分析 方法

メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 韓国経済論研究 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 横田伸子      |    |      |     |        |

授業の概要 1997 年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をどのように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れる。  
 / 検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー

授業の一般目標 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点： 1 . テキストである社会科学専門書の内容を批判的に理解できる。  
 技能・表現の観点： 1 . 客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。

授業の計画 ( 全体 ) 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。報告を中心に討論を行う。

成績評価方法 ( 総合 ) 1 . 報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。後期に 4 回以上欠席した場合、単位は与えない。

教科書・参考書 教科書：テキストは適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けない。E-mail: ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp ,  
 電話: 083-933-5559

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 陳建平    |    |      |     |        |

授業の概要 改革開放 20 年、中国が大きな変貌を遂げた。その中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握し、21 世紀の中国経済の展望について考える。

授業の一般目標 今日の中国経済の成長と社会主義計画経済時代の経済発展との関連性について正しく理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国経済の現状や課題について深く理解していること。

授業の計画（全体） 文献資料等を講読する。

成績評価方法（総合） 報告とレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは受講者と相談の上決める。

メッセージ 文献資料の多くが中国語であるため、中国語の理解力が求められる。



|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国産業政策研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 陳建平      |    |      |     |        |

授業の概要 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。

授業の一般目標 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。

授業の計画(全体) 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 50% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 50% 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：中国語資料を使うことがあるので、中国語の読解能力を有することが前提。

メッセージ 無断欠席しないこと。

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国近現代文化の研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 齊藤匡史        |    |      |     |        |

授業の概要 本科目は中国近代を社会、文化の側面から考察し、中国「近代」を捉えようとするものである。具体的には租界都市「上海」の成立と発展をつぶさにたどり、その社会、文化を検証しつつ、今日的な視点からその位置づけを再考する。/ 検索キーワード 中国「近代」の特質 租界都市 上海

授業の一般目標 中国「近代」社会文化の特性を理解し、今日の中国理解の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・今日の中国が歩んだ「近代」について理解を深める ・文献を読みこなす中国語能力を持つ 思考・判断の観点： 現代中国、今日の中国との関連を理解することができる 関心・意欲の観点： 参考となる文献や資料を収集することができる 態度の観点： 担当した課題を責任を持って発表できる

授業の計画（全体） 講義形式と文献輪読、文献翻訳を組み合わせる授業を行う

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国近代史概説（ 1 ） 内容 講義形式
- 第 2 回 項目 中国近代史概説（ 2 ） 内容 講義形式
- 第 3 回 項目 参考文献の輪読（ 1 ） 内容 演習
- 第 4 回 項目 参考文献の輪読（ 2 ） 内容 演習
- 第 5 回 項目 中文資料の講読（ 1 ） 内容 演習
- 第 6 回 項目 中文資料の講読（ 2 ） 内容 演習
- 第 7 回 項目 中文資料の講読（ 3 ） 内容 演習
- 第 8 回 項目 民国期から解放までの上海（ 1 ） 内容 講義形式
- 第 9 回 項目 民国期から解放までの上海（ 2 ） 内容 講義形式
- 第 10 回 項目 参考文献の輪読（ 1 ） 内容 演習
- 第 11 回 項目 参考文献の輪読（ 2 ） 内容 演習
- 第 12 回 項目 中文資料の講読（ 1 ） 内容 演習
- 第 13 回 項目 中文資料の講読（ 2 ） 内容 演習
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 講義形式
- 第 15 回 項目 レポート提出

成績評価方法（総合） 授業への貢献度、レポート、発表等総合的に評価する

教科書・参考書 教科書： プリント配布 / 参考書： 適宜、講義の中で紹介する

メッセージ 中国語文献を精読するので、一定の中国語能力が必要である。中国語を母語とする学生は受講できない

|      |             |    |     |     |        |
|------|-------------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 中国近現代文化の研究B | 区分 | 講義  | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 齊藤匡史        |    |     |     |        |

授業の概要 本科目は中国現代を社会、文化の側面から考察し、中国「現代」を検証の中から再構築しようとするものである。具体的には上海の革命後の歩んだ道のりをたどり、その社会、文化の検証の中から、中国「現代」の本質を探る。/検索キーワード 改革開放と上海

授業の一般目標 中国現代社会文化の特性を理解し、今日の中国理解の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・今日の中国が歩んだ現代史について理解を深める ・文献を読みこなす中国語能力を持つ 思考・判断の観点： 建国後と改革開放後の社会との関連を理解することができる 関心・意欲の観点： 参考となる文献や資料を収集することができる 態度の観点： 担当した課題を責任を持って発表できる

授業の計画(全体) 講義形式と文献輪読、文献翻訳を組み合わせる授業を行う

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国現代史概説(1) 内容 講義
- 第 2 回 項目 中国現代史概説(2) 内容 講義
- 第 3 回 項目 参考文献の輪読(1) 内容 演習形式
- 第 4 回 項目 参考文献の輪読(2) 内容 演習形式
- 第 5 回 項目 中文資料の講読(1) 内容 演習形式
- 第 6 回 項目 中文資料の講読(2) 内容 演習形式
- 第 7 回 項目 中文資料の講読(3) 内容 演習形式
- 第 8 回 項目 建国から改革開放までの上海 内容 講義
- 第 9 回 項目 改革開放以後の上海 内容 講義
- 第 10 回 項目 参考文献の輪読(1) 内容 演習形式
- 第 11 回 項目 参考文献の輪読(2) 内容 演習形式
- 第 12 回 項目 中文資料の講読(1) 内容 演習形式
- 第 13 回 項目 中文資料の講読(2) 内容 演習形式
- 第 14 回 項目 今日と未来の上海 内容 講義
- 第 15 回 項目 レポート提出

成績評価方法(総合) 授業への貢献度、レポート、発表等総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する / 参考書：適宜、講義の中で紹介する

メッセージ 中国語文献を精読するので、一定の中国語能力が必要である。中国語を母語とする学生は受講できない

連絡先・オフィスアワー saito@yamaguchi-u.ac.jp

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 台湾経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 陳禮俊    |    |      |     |        |

授業の概要 戦後台湾は目覚ましい経済発展を成し遂げている。特に 1980 年代の初頭から、台湾、韓国、香港、シンガポールなどの 4 カ国・地域はアジア NIE s の姿で、世界経済の舞台に登場して以来、それぞれの経済発展と政治の動きは世界の人々の注目を集めた。そしてアジア NIE s の内、台湾の工業化、都市化による経済成長のパターンは「発展途上国の模範」といわれているが、発展途上諸国の工業化における経済政策に大きな示唆を示している。しかし、18 世紀産業革命以降、欧米先進工業諸国は急激な技術革新及び工業化の成果を享受しながら、自然環境変化による莫大な被害を経験してきた。この背景に 1960 年代後半から、環境保全運動は盛んに行なわれているが、この時期はちょうどアジア NIE s 工業化の離陸期であり、欧米先進諸国から工業化による経済豊かさの情報のみを取り入れ、環境問題をほぼ無視した状態で工業化、都市化を進んできた。その影響はそれぞれの国・地域によって、多少時間のずれはあるが、1980 年代を中心にアジア諸国の環境問題は浮上しているが、台湾も例外ではない。

授業の一般目標 本授業では戦前、戦後台湾経済発展の軌跡を辿りながら、台湾の工業化及び都市化が特徴を纏め、それに伴う環境・エネルギー問題を中心に分析し、従来の新古典派などの成長理論と異なる視点をを用いて、新たな開発経済学の研究領域を模索する。そして授業のねらいは「環境に優しい経済発展」のモデルを考察することにした。

授業の計画（全体）（1）戦前、戦後台湾の経済発展過程の考察（2）戦前、戦後台湾の工業化、都市化の考察（3）工業化、都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察（4）諸学派の「成長理論」及び「台湾モデル」の考察

成績評価方法（総合）成績評価は基本的に、出席（40%）、報告（60%）で行う。ただし、合格基準点に達していない受講者に対して、救済措置として課題レポートを要求する場合がある。

教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定せず、授業中に随時プリントを配布する。/ 参考書：台湾の経済：典型 NIES の光と影、隅谷三喜男、劉進慶、?照彦著、東京大学出版会、1992 年； 開発経済学：経済学と現代アジア（第 2 版）、渡辺利夫著、日本評論社、1996 年； 台湾経済の構造と展開：台湾は「開発独裁」のモデルか、石田浩著、大月書店、1999 年； 現代台湾経済分析：開発経済学からのアプローチ、朝元照雄著、勁草書房、1996 年； 台湾経済論：経済発展と構造転換、施昭雄、朝元照雄編著、勁草書房、1999 年； 1 隅谷三喜男・劉進慶等『台湾の経済－典型 NIES の光と影－』東京大学出版 会、1992 年 2 月 2 劉進慶『NIES の構造と問題点（2）－戦後台湾経済の発展過程－』、本 多健吉編著 3 渡辺利夫著『開発経済学－経済学と現代アジア』日本評論社、1986 年 5 月 4 石田浩著『台湾経済の構造と展開－台湾「開発独裁」のモデルか－』大 月書店、1999 年 3 月 5 朝元照雄『現代台湾経済分析－開発経済学からのアプローチ』、勁草書 房、1996 年 3 月 6 施昭雄・朝元照雄著『台湾経済論－経済発展と構造転換－』勁草書房、 1999 年 4 月 7 その他、授業の内容合わせて案内する。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 C226 室 電 話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 華僑経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 陳禮俊    |    |      |     |        |

授業の概要 アジアを中心に居を構えている華人は、その居住国での総人口に占める割合は少ないにもかかわらず、経済面では圧倒的な支配力を持っている。華人企業の多くは様々な分野に跨るコングロマリットにまで成長している。特に近年、華人企業は対外投資や企業買収を活性化させるなどの方法で、その授業をグローバルに展開し、アジア経済、そして国際経済の発展にますます大きな役割を果たすようになってきている。このことは華人が既に無視できない経済勢力にまで成長し、華人経済抜きではアジア、そして国際経済を語れなくなったことを示唆しているが、経済の頂点にたつ華人社会は現在新たな事業を展開しながら、国際社会への更なる貢献を模索しているところである。

授業の一般目標 本授業はアジアにおける華僑の経済活動を中心に分析しながら、アジアにおける開発途上国の環境問題を視野に取入れ、従来欧米先進諸国が主導してきた「東洋経済」、「環境保全」の限界と問題点を指摘し、東洋的、特に中国社会における「老荘思想」、そして日本の「和道」から出発し、東洋社会に適した経済発展のアプローチと環境意識を考案することにしたい。その目的は、「老荘思想」をもつ「華人ネットワーク」と「和道」を論ずる日本社会をリンクさせ、東洋独自のアプローチで、新たなアジア経済秩序作りと地球規模の環境問題解決に向けた提案を考案し、理論を構築することにしたい。

授業の計画(全体) (1)華僑経済発展過程の考察 (2)アジアにおける華僑経済活動の現状 (3)アジアにおける工業化、都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察 (4)華僑経済の位置付け及びその展望 (5)地球規模の環境問題解決における華人の役割、可能性及びその展望

成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に、出席(40%)、報告(60%)で行う。ただし、合格基準点に達していない受講者に対して、救済措置として課題レポートを要求する場合がある。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 C226 室 電話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 政治理論研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 渡邊幹雄     |    |      |     |        |

授業の概要 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち 抜いた 1 つの政治的イデオロギーであり、 Kommunismus 亡き後、その指導的イデオロギーとしての地位を確 固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本においても、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされており、リベラリズムの現狀的地位が安泰なわけでは ない。 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリ ズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦 点を明らかにし て、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

授業の計画 ( 全体 ) リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、 さ まざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 リベラリズム前史 ( 1 )
- 第 2 回 項目 同上 ( 2 )
- 第 3 回 項目 同上 ( 3 )
- 第 4 回 項目 リベラリズムと その哲学的基礎 ( 1 ) 内容 J・S・ミルと J・ロールズを
- 第 5 回 項目 同上 ( 2 )
- 第 6 回 項目 同上 ( 3 )
- 第 7 回 項目 リベラリズムの さまざまな形態 ( 1 ) 内容 リバタリアニズム
- 第 8 回 項目 同上 ( 2 ) 内容 社民主義
- 第 9 回 項目 同上 ( 3 ) 内容 卓越主義
- 第 10 回 項目 政治的リベラリズムとポストモダン・リベラリズム ( 1 ) 内容 J・ロールズと R・ロー ティを 中心に
- 第 11 回 項目 同上 ( 2 )
- 第 12 回 項目 同上 ( 3 )
- 第 13 回 項目 リベラリズムに 対するさ まざま な批判 ( 1 ) 内容 共同体論・保守主義
- 第 14 回 項目 同上 ( 2 ) 内容 共和主義
- 第 15 回 項目 同上 ( 3 ) 内容 フェミニズム・多文化主義

成績評価方法 ( 総合 ) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断し て評 価する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。英語を苦手とす る学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲 学的議論に参加できる語彙力が求められる ので、市販されている哲学書など には目を通しておいていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 政治理論研究 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 渡邊幹雄     |    |      |     |        |

授業の概要 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち 抜いた 1 つの政治的イデオロギーであり、 Kommunismus 亡き後、その指導的イデオロギーとしての地位を確 固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本においても、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされており、リベラリズムの現狀的地位が安泰なわけでは ない。 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリ ズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦 点を明らかにし て、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

授業の計画 ( 全体 ) リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、 さ まざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 リベラリズム前 史 ( 1 )
- 第 2 回 項目 同上 ( 2 )
- 第 3 回 項目 同上 ( 3 )
- 第 4 回 項目 リベラリズムと その哲学的基礎 ( 1 ) 内容 J・S・ミルと J・ロールズを
- 第 5 回 項目 同上 ( 2 )
- 第 6 回 項目 同上 ( 3 )
- 第 7 回 項目 リベラリズムの さまざまな形態 ( 1 ) 内容 リバタリアニズ ム
- 第 8 回 項目 同上 ( 2 ) 内容 社民主義
- 第 9 回 項目 同上 ( 3 ) 内容 卓越主義
- 第 10 回 項目 政治的リベラリ ズムとポストモ ダン・リベラリ ズム ( 1 ) 内容 J・ロールズと R・ロー ティを 中心に
- 第 11 回 項目 同上 ( 2 )
- 第 12 回 項目 同上 ( 3 )
- 第 13 回 項目 リベラリズムに 対するさまざま な批判 ( 1 ) 内容 共同体論・保守 主義
- 第 14 回 項目 同上 ( 2 ) 内容 共和主義
- 第 15 回 項目 同上 ( 3 ) 内容 フェミニズム・ 多文化主義

成績評価方法 ( 総合 ) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断し て評 価する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。 英語を苦手とす る学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲 学的議論に参加できる語彙力が求められる ので、市販されている哲学書など には目を通しておいていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 憲法研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 立山紘毅  |    |      |     |        |

授業の概要 日本国憲法を中心に、その歴史と根本原理、諸外国との比較研究を行う。ただし、細目は受講生と協議の上決定する。

授業の一般目標 憲法を頂点とする法体系全般について、より深い専門的な理解を探求する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本国憲法及び諸外国憲法に関する知識 思考・判断の観点：具体的な事件における憲法問題の「発見」 関心・意欲の観点：狭く法律学の枠にとどまらず、社会全般の事象に対する幅広く深い関心 態度の観点：自ら問題を提起し、解決への道を図る姿勢 技能・表現の観点：上記の諸点を的確な日本語で表現し、違う意見の持ち主と理性的に討論する能力

授業の計画（全体） 憲法問題は多岐にわたるため、受講生と協議し、指導の幅もそれに左右される。



|      |       |    |     |     |        |
|------|-------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 憲法研究B | 区分 | 講義  | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 立山紘毅  |    |     |     |        |

授業の概要 日本国憲法を中心に、その歴史と根本原理、諸外国との比較研究を行う。ただし、細目は受講生と協議の上決定する。

授業の一般目標 憲法を頂点とする法体系全般について、より深い専門的な理解を探求する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本国憲法及び諸外国憲法に関する知識 思考・判断の観点：具体的な事件における憲法問題の「発見」 関心・意欲の観点：狭く法律学の枠にとどまらず、社会全般の事象に対する幅広く深い関心 態度の観点：自ら問題を提起し、解決への道を図る姿勢 技能・表現の観点：上記の諸点を的確な日本語で表現し、違う意見の持ち主と理性的に討論する能力

授業の計画（全体） 憲法問題は多岐にわたるため、受講生と協議し、指導の幅もそれに左右される。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 行政法研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 上杉信敬   |    |      |     |        |

授業の概要 行政をめぐる法の諸問題について考察する。行政についての法には、基本原理、組織法、作用法、救済法などの分野があるが、そのいずれに焦点を当てるかおよび諸外国のものにするかわが国の問題を行うかなどについては参加者の要望も聞いたうえで具体化する。/ 検索キーワード 行政 行政処分 法治主義 救済法

授業の一般目標 行政をめぐる法の問題について、ある部分に焦点をあてかなり突っ込んだ探求をすること。

成績評価方法 (総合) 報告、レポート提出など総合的に評価して決める。

教科書・参考書 教科書：開講時に領域、テーマなどを協議して決める。日本のものを使用する以外に、外国のものを使用することも考えられる。/ 参考書：必要におうじて指示する。

連絡先・オフィスアワー 内線5 5 8 8

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 行政法研究B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 上杉信敬   |    |      |     |        |

授業の概要 行政法をめぐる諸問題。総論的な原理論もしくは組織法の分野に関するもの、作用法の領域法あるいは救済法についてなどが考えられる。いずれも受講生の意見も踏まえて具体化する。 / 検索キーワード 行政 法治主義 行政争訟

授業の一般目標 行政とそれをめぐる法の諸問題について、そのいずれかの領域に焦点を当てて深めること。

成績評価方法 (総合) 報告、レポート提出などを総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に領域やテーマを協議して決める。日本語のものを使うか外国語のものを使うかについても協議して決める。 / 参考書：必要に応じてそのつど指示する。

連絡先・オフィスアワー 内線5 5 8 8

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代行政法研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 石 龍潭    |    |      |     |        |

授業の概要 日本の行政をめぐる状況は、一方では新自由主義の下で“ 小さな政府 ”論と、他方における “ 地方分権 ” という、二つの潮流のただ中にある。 この講義では、こうした状況を踏まえながら、具体的な問題を素材にして行政法学における地方自治と地方分権を考えていく。

授業の一般目標 具体的な事例に対して、行政法学の見地から説明・分析する知識や能力を身につけてもらいたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深める。  
思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係（特に地方自治・地方分権）の事例や判例を取り上げて、講義を進めていきたいと考えている。取り上げる事例や判例は、受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、レポート等による。

教科書・参考書 教科書： 受講生の要望を聞いてから決める。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 絶えず、行政をめぐる情報に注意を向けて欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 応用行政法研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 石 龍潭    |    |      |     |        |

授業の概要 「現代行政法」での問題意識をさらに発展させ、より具体的な問題点を検討する。

授業の一般目標 具体的な事例に対して、行政法学の見地から説明・分析する知識や能力を身につけてもらいたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深める。  
 思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係の事例や判例を取り上げて、講義を進めていきたいと考えている。取り上げる事例や判例は、受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、レポート等による。

教科書・参考書 教科書： 受講生の要望を聞いてから決める。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

|      |       |    |     |     |        |
|------|-------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 税法研究A | 区分 | 講義  | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 澤田 正  |    |     |     |        |

授業の概要 法人税法、国税通則法などの基本知識を予習していることを前提として、ケーススタディ、判例研究を通じて、税法的な思考に慣れ、応用力を習得することを目指します。税法が始めての人は、法人税法、国税通則法等の理解の前提となる会計学、民法、行政法などの基礎知識を含め、相当程度の予習が必要です。

授業の一般目標 実践的な文献やケーススタディ、判例研究を通じて、税法のより広く深い理解を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法の枠組みと基本知識に習熟していること 思考・判断の観点：税法の枠組みに沿った法的思考ができること 態度の観点：いろいろな立場からの意見構築ができること 技能・表現の観点：論理的で説得的な意見の構築ができること。分かりやすい簡潔で論理的な文章が書けること。

授業の計画（全体） 毎回、判例、論文、ケース等について、担当者によるレポートとディスカッションを行います。比較的分かりやすいテーマからはじめますが、初学者には相当な予習が必要です。

成績評価方法（総合） 出席状況、受講態度、期末レポート等を総合的に評価します。

教科書・参考書 参考書：税務大学校講本（税務大学校 HP よりダウンロード可能）による予習を前提として、授業を進めます。インターネット上（財務省・国税庁）にも利用できる資料がかなりありますので適宜紹介します。

メッセージ 税法の基本的な知識を持ち、理解があることを前提として授業を進めます。初学者の人は、相当程度の予習がないとついていけません。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）月曜日 10 時 30 分～12 時、水曜日 10 時 30 分～12 時、

|      |       |    |     |     |        |
|------|-------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 税法研究B | 区分 | 講義  | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 澤田 正  |    |     |     |        |

授業の概要 法人税法、国税通則法などの基本知識を予習していることを前提として、ケーススタディ、判例研究を通じて、税法的な思考に慣れ、応用力を習得することを目指します。税法が始めての人は、法人税法、国税通則法等の理解の前提となる会计学、民法、行政法などの基礎知識を含め、相当程度の予習が必要です。

授業の一般目標 実践的な文献やケーススタディ、判例研究を通じて、税法のより広く深い理解を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法の枠組みと基本知識に習熟していること 思考・判断の観点：税法の枠組みに沿った法的思考ができること 態度の観点：いろいろな立場からの意見構築ができること 技能・表現の観点：論理的で説得的な意見の構築ができること。分かりやすい簡潔で論理的な文章が書けること。

授業の計画（全体） 毎回、担当者によるレポートとディスカッションを行います。比較的分かりやすいテーマからはじめますが、初学者には相当な予習が必要です。

成績評価方法（総合） 出席状況、受講態度、期末レポート等を総合的に評価します。

教科書・参考書 参考書：税務大学校講本（税務大学校 HP よりダウンロード可能）による予習を前提として、授業を進めます。インターネット上（財務省・国税庁）にも利用できる資料がかなりありますので適宜紹介します。

メッセージ 税法の基本的な知識を持ち、理解があることを前提として授業を進めます。初学者の人は、相当程度の予習がないとついていけません。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）月曜日 10 時 30 分～12 時、水曜日 10 時 30 分～12 時、

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民法研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 平中貫一  |    |      |     |        |

授業の概要 契約の正義 / 検索キーワード 契約

授業の一般目標 契約の正義を探求する。

授業の計画(全体) 1 契約の歴史 2 アリストテレスの契約論 1 3 アリストテレスの契約論 2 4  
 トマス主義の契約論 1 5 トマス主義の契約論 2 6 関係的契約論 7 ゴードリーとマクニール 8  
 現代契約法 9 契約の哲学 1 0 契約の正義 1 1 交換的正義論 1 2 正義とは何か



|      |       |    |     |     |        |
|------|-------|----|-----|-----|--------|
| 開設科目 | 民法研究B | 区分 | 講義  | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 平中貫一  |    |     |     |        |

授業の概要 不法行為の正義 / 検索キーワード 不法行為

授業の一般目標 不法行為の正義を探求する。

授業の計画(全体) 1 不法行為の歴史 2 旧約聖書の世界 3 アクイリア法 4 グラティアヌスの過失論 5 ジャン・ドマの過失論 6 ナポレオン法典の成立 7 無過失責任論 8 保険による浸食 9 不法行為の再評価 10 不法行為の哲学 11 矯正的正義論 12 現代的正義論

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民法研究C | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 三間地光宏 |    |      |     |        |

授業の概要 民法に関する判例・裁判例を検討する。

授業の一般目標 判例・裁判例を分析する能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：判例・裁判例を読んで理解できるようになること。 思考・判断の観点：判例・裁判例を分析・検討する能力を身につけること。 関心・意欲の観点：報告を担当する場合には関連する判例や文献を十分調べてくること。 態度の観点：報告があたっていない場合でも積極的に発言すること。

授業の計画（全体） 毎回報告者にひとつの判例を選んで報告してもらう。

成績評価方法（総合） 平常点による。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民法研究D | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 三間地光宏 |    |      |     |        |

授業の概要 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討。

授業の到達目標 / その他の観点： 報告を担当する場合には準備をしっかりと行う。報告が当たっていない場合でもきちんと予習をする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（1）
- 第 2 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（2）
- 第 3 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（3）
- 第 4 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（4）
- 第 5 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（5）
- 第 6 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（6）
- 第 7 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（7）
- 第 8 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（8）
- 第 9 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（9）
- 第 10 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（10）
- 第 11 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（11）
- 第 12 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（12）
- 第 13 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（13）
- 第 14 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（14）
- 第 15 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（15）

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民法研究 E | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 油納健一   |    |      |     |        |

**授業の概要** 民法が対象とする多くの法律問題を解決するためには、民法典上の規定を解釈しかつ適用するという作業が必要である。しかし、日本民法典は明治に施行された法律であるためいくつかの規定が時代に適しにくくなっていること、あるいは複雑な現代社会においては起草者が予想していなかった法律問題も生じていることから、判例は今日ますます重要になってきていると言えよう。そこで、今日の民法上の法律問題を解決し、かつ今日の民法を知るためには、判例の検討が必要と考えられることから、この授業では、日本民法典(民法の規定)と従来の判例・学説を踏まえた上で最近の判例を検討しようと思う。

**授業の一般目標** 法学の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

**授業の計画(全体)** 具体的には、つぎのような方法で授業を進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、報告者は、当該判決の事実と判決内容を報告する。(2) つぎに、その事件で争点となっている問題点を把握し、この問題を解決するために必要な民法典の条文や従来の判例・学説について報告する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈を検討しながら報告する。以上の(1)・(2)・(3)の中では、受講生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。

**成績評価方法(総合)** 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他の受講生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

**教科書・参考書** 教科書：適宜指示する。 / 参考書：適宜指示する。

**メッセージ** 大学院生として恥ずかしくない報告と討論をしてもらいます。

**連絡先・オフィスアワー** yuno@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 民法研究F | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 油納健一  |    |      |     |        |

授業の概要 民法が対象とする多くの法律問題を解決するためには、民法典上の規定を解釈しかつ適用するという作業が必要である。しかし、日本民法典は明治に施行された法律であるためいくつかの規定が時代に適しにくくなっていること、あるいは複雑な現代社会においては起草者が予想していなかった法律問題も生じていることから、判例は今日ますます重要になってきていると言えよう。そこで、今日の民法上の法律問題を解決し、かつ今日の民法を知るためには、判例の検討が必要と考えられることから、この授業では、日本民法典(民法の規定)と従来の判例・学説を踏まえた上で最近の判例を検討しようと思う。

授業の一般目標 法学の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

授業の計画(全体) 具体的には、つぎのような方法で授業を進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、報告者は、当該判決の事実と判決内容を報告する。(2) つぎに、その事件で争点となっている問題点を把握し、この問題を解決するために必要な民法典の条文や従来の判例・学説について報告する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈を検討しながら報告する。以上の(1)・(2)・(3)の中では、受講生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。

成績評価方法(総合) 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他の受講生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。/ 参考書：適宜指示する。

メッセージ 大学院生として恥ずかしくない報告と討論をしてもらいます。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 刑事法研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 安里全勝   |    |      |     |        |

授業の概要 刑法の重要問題を考察していく。総論と各論から重要な判例を考察していく。

授業の一般目標 刑法理論の具体的事案への適用を見ていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法総論、各論の基本的問題を考察し、それぞれの学問的体系を理解して貰う。そして、刑法理論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを理解して貰う。

思考・判断の観点： 法的思考の観点から、刑法理論が具体的事案にどのように適用されていくかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法総論、各論の重要問題を考察する。それぞれ重要な判例を考察していく。

成績評価方法（総合） レポート、授業での発表等を総合して評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論講義案, 安里全勝著, 成文堂, 2005 年 / 参考書： 参考書については授業の時に指摘する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 刑事法研究B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 安里全勝   |    |      |     |        |

授業の概要 財産犯の重要問題を考察していく。まず、財産犯の基本的問題である保護法益、不法領得の意思について考察する。そして、財産犯の各類型について考察していく。窃盗罪、強盗罪、詐欺罪、恐喝罪、横領罪、クレジットカード犯罪、コンピュータ犯罪について考察していく。

授業の一般目標 財産犯の基本的問題と、財産犯の各類型を考察し、それぞれの犯罪がどのような内容を持つかを理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財産犯の基本問題と、財産犯の個々の犯罪がどのような内容であるかを理解して貰う。 思考・判断の観点：法的思考の観点から、財産犯の基本的問題と、各犯罪類型がどのような内容を持ち、刑法理論がそれらの事案解決にどのように適用されているかを理解して貰う。

授業の計画（全体） 財産犯についての判例を考察していく。また、個々の事案を考察する際には関連する論文をも見ていくことにする。

成績評価方法（総合） レポートと、授業での発表、授業出席状況等によって総合的に評価していく。

教科書・参考書 教科書：経済犯罪の研究第1巻，神山敏雄著，成文堂，1991年；参考書については授業の時にその都度指摘する。

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 企業法研究 C | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 中村 美紀子  |    |      |     |        |

授業の概要 本講義では、学部において 2005 年改正商法前のいわゆる会社法を学んできた受講生を対象に、新・会社法のテキストを講読しつつ、重要判例の報告にもとづいて会社法制度全般について考察する。 / 検索キーワード 会社法・商法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 会社法の諸制度を機能的に理解し、日々変化している企業のあり方や会社を取り巻く社会状況を踏まえ、適正な会社法制度のあり方を探究する。

授業の計画（全体） 講義開始時に履修者と相談して決める。

成績評価方法（総合） (1) 割り当て箇所の報告，(2) レジユメの作成，(3) 討論への参加の度合い，について自主性（各 15 % × 3）と発展性の観点（各 15 % × 3）から評価する。

教科書・参考書 教科書：「テキストブック会社法」，末永敏和 [ 編著 ]，中央経済社，2006 年 / 参考書：会社法判例百選，江頭憲治郎他 [ 編 ]，有斐閣，2006 年

メッセージ 2007 年六法必携。受講者は、会社法関連のテーマ・判例を中心に、自己の関心・問題意識から、とくに本講義で検討したい点をいくつか考えておくこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：研究室 C 棟 209，オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。



|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 企業法研究 D | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 中村 美紀子  |    |      |     |        |

授業の概要 本講義では、学部において 2005 年改正商法前のいわゆる会社法を学んできた受講生を対象に、新・会社法のテキストを講読しつつ、重要判例の報告にもとづいて会社法制度全般について考察する / 検索キーワード 会社法・商法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 会社法の諸制度を機能的に理解し、日々変化している企業のあり方や会社を取り巻く社会状況を踏まえ、適正な会社法制度のあり方を探究する。

授業の計画（全体） 講義開始時に履修者と相談して決める。

成績評価方法（総合） (1) 割り当て箇所の報告，(2) レジユメの作成，(3) 討論への参加の度合い，について自主性（各 15 % × 3）と発展性の観点（各 15 % × 3）から評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストブック会社法，末永敏和 [ 編著 ]，中央経済社，2006 年 / 参考書：会社法判例百選，江頭憲治郎他 [ 編 ]，有斐閣，2006 年

メッセージ 2007 年六法必携。受講者は、会社法関連のテーマ・判例を中心に、自己の関心・問題意識から、とくに本講義で検討したい点をいくつか考えておくこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C 棟 209，オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 経済法研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 土生 英里 |    |      |     |        |

授業の概要 モノやサービスの輸出入、知的所有権から紛争解決まで、国際取引のルールを概観し、経済のグローバル化が国内法構造に及ぼす影響を検証する。 / 検索キーワード グローバリゼーション、国際取引、国際貿易

授業の一般目標 経済がグローバル化するにつれて、国境を越えた様々な取引を規律するには国内法だけでは対応できない時代である。そのため、様々な国際間の合意や協定が国内法化され、適用されており、国際経済法と呼称されている。ここではとくに国際経済法の中核を占める国際貿易ルールについて、その種類、適用対象、内容、効果を概観する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際貿易の主要なルールを理解する 思考・判断の観点： 経済のグローバル化が国内法に及ぼす影響を認識する 関心・意欲の観点： 具体的な企業行動にかかわる国際経済法の構造を理解する

授業の計画(全体) 第1週 ガイダンス 第2週 国際経済法の概要 第3週 国際経済法発展の軌跡 第4週 商品貿易と無差別原則 第5週 商品貿易と自由化 第6週 ダumping防止措置 第7週 補助金相殺措置 第8週 セーフガード措置 第9週 原産地規則 第10週 農業貿易と繊維貿易 第11週 サービス貿易 第12週 知的所有権の構造 第13週 政府調達と地域統合 第14週 紛争解決手続き 第15週 試験

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 企業の国際化と国際取引
- 第2回 項目 国際経済法の概要 内容 国際経済法の意義と特色
- 第3回 項目 国際経済法発展の軌跡 内容 保護貿易主義とブロック経済、国際経済法の歴史
- 第4回 項目 商品貿易と無差別原則 内容 最恵国待遇原則
- 第5回 項目 商品貿易と自由化 内容 内国民待遇原則
- 第6回 項目 ダumping防止措置 内容 ダumping防止の意義と効果
- 第7回 項目 補助金相殺措置 内容 補助金の性質と相殺措置
- 第8回 項目 セーフガード措置 内容 GATT セーフガード規定と WTO セーフガード協定
- 第9回 項目 原産地規則 内容 原産地規則の概要
- 第10回 項目 農業貿易と繊維貿易 内容 WTO 農業協定と WTO 繊維協定
- 第11回 項目 サービス貿易 内容 WTO サービス貿易協定と分野別サービス交渉の実態
- 第12回 項目 知的所有権の構造 内容 知的所有権と GATT/WTO および TRIPS 協定
- 第13回 項目 政府調達と地域統合 内容 WTO 政府調達協定と地域統合の実際
- 第14回 項目 紛争解決手続き 内容 WTO 紛争解決手続きと適用
- 第15回 項目 試験 内容 論述式

成績評価方法(総合) 出席と授業への参加・発言を重視します。成績評価は上記に論述式の試験の結果を加えたものとします。

教科書・参考書 教科書：ゼミナール「国際経済法入門」、小室程夫、日本経済新聞社、2003年 / 参考書：世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO、外務省経済局監修、日本経済問題研究所、1997年

メッセージ 内容的に非常に膨大な領域をカバーします。テキストの事前の復習が鍵となります。質問は随時受け付けます。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F ( A410 ) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 雇用関係法研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 柳澤旭       |    |      |     |        |

授業の概要 本講義は、労働法の領域の中でも、集团的労使関係の法以外の部分（個別的労働関係の法および雇用保障関係の法）を対象とするものである。近年なされてきたこの領域についての法改正の問題を中心に、検討をし、今日の雇用関係法の問題状況を受講生に理解してもらおう。 / 検索キーワード 雇用、法。

メッセージ 毎回きちんと出席し、きちんとした報告と活発な議論を期待する。

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 雇用関係法研究 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 柳澤旭       |    |      |     |        |

授業の概要 労働法と社会保障法の関係について具体的問題領域を対象に問題点を検討する。

メッセージ 各自の研究目的に沿って対象領域を検討する予定です。

|      |            |    |      |     |        |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 知的財産権法研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |            | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 木村友久       |    |      |     |        |

授業の概要 知価社会の到来により、商品化過程に介在する知的財産の価値が再認識されている。この科目では、研究開発あるいは商品製造過程で求められる知的財産に関する総合的知識の修得とスキル形成を行う。知的財産は、「製品等の開発製造過程で創作される知的財産」「営業上の信用が化体されている知的財産」「思想または感情の創作物に関わる知的財産」の三類型に区分される。知的財産権論では、学習者にこれらの全体像を認識させるとともに、特に発明の同一性判断を起点とする知識の深化と実践的態度形成に重点を置き、実際の開発製造現場で技術情報等の取得から戦略的判断に至る系統的な知的財産対応能力の形成を目指す内容となっている。即ち、特許発明の同一性判断・特許情報および特許管理・パテントマップ作成モジュールを設定することにより、受講者が特許侵害各論で部分的な法律解釈に偏ることなく、客体情報や技術等の推移を踏まえた一貫した実践的対応が可能となるようにしている。

授業の一般目標 この科目を受講し、以下のような実力が身に付くと、この科目の目指す学習目標に到達したと考えられる。(1) 研究開発や商品製造部門で、知的財産の全体像から業務上直接的に関係する事項を選択し、当該事項を業務に適用して初動段階で適切な知的財産対応を行うことができる。ここの、知的財産対応には、自己あるいは所属部門で完結した対応を行うだけでなく、状況に応じて企業内の権利化部門や侵害訴訟対応部門等と効果的な連携を図る能力も含まれる。(2) 自己あるいは所属部門の業務に合わせて、特許等の知的財産権情報検索を適切に行い基本的なパテントマップを作成することができる。(3) 特許発明の技術的範囲について、的確な解釈を行うことができる。(4) パテントマップや特許発明の技術的範囲同一性判断等を手がかりに、技術開発動向の把握および研究開発の方向付けを行うことができる。(5) 特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解した上で、特許発明技術的範囲同一性判断を行い、法務部門と連携して訴訟対応に必要な資料をまとめることができる。(6) 所属部門の業務に合わせた、ソフトウェア、デザイン、ノウハウを含む知的財産管理を適切に行うことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解する。思考・判断の観点：自己あるいは所属部門で完結した対応を行うだけでなく、状況に応じて企業内の権利化部門や侵害訴訟対応部門等と効果的な連携を図る。技能・表現の観点：(1) 研究開発や商品製造部門で、知的財産の全体像から業務上直接的に関係する事項を選択し、当該事項を業務に適用して初動段階で適切な知的財産対応を行うことができる。(2) 自己あるいは所属部門の業務に合わせて、特許等の知的財産権情報検索を適切に行い基本的なパテントマップを作成することができる。(3) 特許発明の技術的範囲について、的確な解釈を行うことができる。(4) パテントマップや特許発明の技術的範囲同一性判断等を手がかりに、技術開発動向の把握および研究開発の方向付けを行うことができる。(5) 特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解した上で、法務部門と連携して訴訟対応に必要な資料をまとめることができる。(6) 所属部門の業務に合わせた、ソフトウェア、デザイン、ノウハウを含む知的財産管理を適切に行うことができる。

授業の計画(全体) 講義では、基礎的な知識や判例を具体的な事例とともに解説する。なお、特許情報の検索ないしパテントマップ制作実習では、特許庁が提供する特許電子図書館と山口大学が運用する特許電子図書館を併用して最終的に実習レポート提出を行う。最後の総合演習は、テーマを設定した発表形式でディスカッションを実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 知的財産概論 内容 1 知的財産制度の全体像とそれらに共通する基本理念を理解し、研究開発あるいは商品製造部門で起こり得る事象を、知的財産制度に当てはめながら初歩的な対応をすることができる。2 新聞等の情報から知的財産領域における今日的課題を抽出し、その内容と背景を要約することができる。3 企業規模あるいは業種毎に、いくつかの代表的な知的財産戦略を理解する。

- 第 2 回 項目 特許発明の同一性判断 内容 1 発明の技術的範囲同一性判断について、法律上及び研究開発上の意義を理解する。 2 発明の技術的範囲同一性判断手法を理解し、判断に利用する参酌資料の収集と整理を行うことができる。 3 参酌資料を利用して、代表的な技術分野について初歩的な発明の技術的範囲同一性判断を行うことができる。 4 他社の特許発明を回避するための基本的な方策を立案することができる。
- 第 3 回 項目 特許情報および特許管理 内容 1 実体的特許要件を理解し、所属部門に関連する技術領域について発明特許化の可能性や特許発明について無効理由包含の有無を報告することができる。 2 手続的特許要件を理解し、所属部門における特許管理を行い、社内知的財産部門等と手続きに関し適切な連携を取ることができる。 3 特許要件の知識を基に、特許情報解釈能力を深化することができる。 特許等データベースの全体像と基本的検索方法を理解し、自立的に特許情報検索を行うことができる。
- 第 4 回 項目 パテントマップ 内容 1 特許電子図書館検索において、所属部門の研究領域に合わせてテーマ設定を行い必要な情報の検索をすることができる。 2 特許電子図書館から取得した情報を加工し、いくつかの異なる観点からパテントマップを作成することができる。 3 各自が作成したパテントマップを持ち寄り、研究開発の方向付けや開発内容について優先順位を付与することができる。
- 第 5 回 項目 特許侵害各論 I 内容 1 直接侵害概念について法的根拠と具体的な事案解決手法を理解する。 2 主要な技術領域毎に、特許発明の技術的範囲同一性判断に重点を置いて、事案解決に向けた戦略立案を行うことができる。 3 均等論の現状と理論形成に至る歴史的経緯を理解し、個別事案中に均等概念を含めた特許発明の技術的範囲同一性判断を組み込むことができる。 特許侵害訴訟（直接侵害部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 6 回 項目 特許侵害各論 II 内容 1 間接侵害概念について法的根拠と具体的な事案解決手法を理解する。 2 従来から判例実務上の蓄積がある間接侵害条項（特許法 101 条 1 項、3 項）について、確立された取り扱いを理解したうえで個別事案に適用することができる。 3 平成 14 年法律改正で追加された主観的要件を加味する条項（特許法 101 条 2 項、4 項）について、制定経緯を理解し比較法的検討を加えることで個別事案への適用を試みることができる。 4 直接侵害概念と合わせて、侵害訴訟全般の基本的攻防について論理的に戦略を立てて実行することができる。 5 特許侵害訴訟（間接侵害部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 7 回 項目 特許侵害各論 III 内容 1 国内用尽概念を理解し、侵害訴訟中で当該概念を利用した理論構成を行うことができる。 2 修理補修の各種態様と用尽概念適用の可否を対応させて判断し、研究開発や商品製造現場における各種メンテナンスに対する法的対応を行うことができる。 3 国際的用尽概念を理解し、商品の輸出入において知的財産の観点から起こりうる検討課題を報告することができる。 4 特許侵害訴訟（用尽論部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 8 回 項目 特許侵害各論 内容 1 特許権の制約および利用抵触関係について、研究開発あるいは商品製造過程で発生する事案を整理して適用することができる。 2 約定実施権の基本的性格を理解する。 3 法定通常実施権に共通する性格を理解し、特に先使用にもとづく法定通常実施権と職務発明にもとづく法定通常実施権について、研究開発あるいは商品製造過程で発生する事案を整理して適用することができる。 4 特許侵害訴訟（特許権の各種制約および利用抵触関係部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 9 回 項目 ソフトウェアの総合的な保護 内容 1 ソフトウェアの著作権法による保護について、歴史的な経緯を含めて理解する。 2 ソフトウェアの特許法による現実的な保護について、歴史的な経緯を含めて理解する。 3 ソフトウェアの各種特許表現手法を理解し、所属する研究開発あるいは商品製造部門で生産したソフトウェアを効果的に特許化することができる。 特許法・

著作権法等の複数の法律を利用して、所属する研究開発あるいは商品製造部門で生産したソフトウェアを総合的に保護することができる。

第 10 回 項目 デザインの総合的な保護 内容 1 意匠法によるデザイン保護の基本を理解する。 2 意匠法にもとづいて基礎的な意匠の類否判断を行うことができる。 3 不正競争防止法による商品形態模倣行為概念を歴史的推移も含めて理解し、意匠法と併せて所属する研究開発あるいは商品製造部門における総合的なデザイン保護手法を提案することができる。 4 著作権法における商業デザイン保護の可能性と限界を理解する。

第 11 回 項目 不正競争行為 内容 1 不正競争行為防止法に基づく不正競争行為の全体像を理解する。 2 民法も含めたノウハウ保護法制の全体像を理解する。 3 営業秘密の不正取得行為と法律上の手当を理解し、所属部門の営業秘密管理も含めた実務対応を行うことができる。 4 技術的制限手段の解除等行為と法律上の手当を理解し、所属部門において該当事案が発生した場合に適切な対応を行うことができる。

第 12 回 項目 総合演習 I 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 13 回 項目 総合演習 II 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 14 回 項目 総合演習 III 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 15 回 項目 総合演習 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

成績評価方法 (総合) ケーススタディレポートあるいは実習レポート、期末試験あるいは期末レポートの結果を元に成績評価を行う。それぞれの占める比率は、ケーススタディレポートあるいは実習レポート、期末試験あるいは期末レポート、クラスへの貢献度を合計して成績を評価する。それぞれの占める比率は、ケーススタディレポートあるいは実習レポート 45%、期末試験あるいは期末レポート 40%、クラスへの貢献度(ディスカッションへの参加など) 15%。

教科書・参考書 教科書：大学と研究機関のための知的財産教本, 山口大学知的財産本部監修, EME 出版, 2004 年 / 参考書：書いてみよう特許明細書・出してみよう特許出願, 特許庁編, 特許庁, 2003 年; 研究開発活かそう社会に, 特許庁編, 特許庁, 2003 年

メッセージ ・講義中に指定した資料や判例は、一通り目を通してください。 ・パテントマップ作成等は学生自身の専門領域で作成するので、予め電子図書館等で概要を検索してください。 ・授業内のディスカッションに積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室電話番号 0836-85-9909 緊急連絡先 090-7391-4578 電子メール t-kimura@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 外国文献研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 宮崎充保     |    |      |     |        |

授業の概要 この授業は、2つの目的があります。社会科学的(主に経済)側面から外国語で書かれた文献を研究することとそこに使われている言語(英語)を的確に把握することです。その文献を通してさらに自分の興味の分野の視野を広げることです。そのためには、自分の視点からしっかり文献が読めなければなりません。訳読とは違います。翻訳は翻訳の専門家に任せておけばよいのです。自分の視点との同一と相違を読み取り、それを自己表現として表現するだけのことを扱います。専門書を読むには、専門知識が半分、言語知識が半分必要です。そして、それを正確に把握し理解しなければなりません。それをさらにわかりやすく他人に伝えることも必要になります。この授業ではそうしたことを以下の目標をもって実践して行きます。/ 検索キーワード sociology, economics, globalization, risk, tradition, family, democracy

授業の一般目標 ・段落を追いながら、段落がどのような構造をもっているか把握する。Topic Sentence-Supporting Sentences-Conclusion の構造分解ができる。 ・それぞれの段落の中から、key words; key phrases; key sentences を求める。 ・Key として求めた情報を階層的に配列することで、アウトラインを作る。 ・アウトラインを一目見ると、その段落の情報構造が一目でわかる。 ・作ったアウトラインをもとに、一人1章ずつプレゼンテーションを行う。(英語でも日本語でもよい。) ・プレゼンテーションをしながら、オーディアンスに問題を投げかけ、授業参加者と議論する。 ・英語で summary を書く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 文構造の把握力。語彙力 辞書をしっかり活用できる。思考・判断の観点: key words; key phrases; key sentences の抽出ができる。Key に基づいて、検索・収集した情報を階層的に配列できる。関心・意欲の観点: 英語を読んで“うんざりしない”。英語を通して何かを学ぼうと言う態度や意欲を持つ。読んだ材料をもとに、問題意識を持てる。態度の観点: なおざりな仕事をしない。知識と知恵に対して貪欲な態度を持つ。技能・表現の観点: いかに正確に効率よく読んだ内容をまとめられるかを工夫する。それを、ハンドアウト(英語のアウトライン)とプレゼンテーションで他人に伝達する。

授業の計画(全体) イントロダクションを3回予定して、1.和訳をせずに内容を理解するにはどういう読み方をしたらよいか 2.段落構成は一般的にどうなっているか 3.アウトラインはどう作成するか を説明したら、1~3を実践して英語でハンドアウトを作成して、プレゼンテーションを行う。1人につき、2コマを宛てる。プレゼンテーションには関連した議論の材料をかならず用意する。プレゼンテーションが終わったところでサマリーを書く。授業では、折々にフィードバックが必要となるので、ここで示す週単位の進捗とは異なる可能性が大いにある。また、授業の効率性を考えて授業内容の順序を変えることがある。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction 1 内容 How to read English
- 第 2 回 項目 Introduction 2 内容 How is the paragraph composed?
- 第 3 回 項目 Introduction 3 内容 The writing of an outline in English
- 第 4 回 項目 Chapter 1 Globalization 1 内容 Presentation
- 第 5 回 項目 Chapter 1 Globalization 2 内容 Discussion Assessment
- 第 6 回 項目 Chapter 2 Risk 1 内容 Presentation
- 第 7 回 項目 Chapter 2 Risk 2 内容 Discussion Assessment
- 第 8 回 項目 Chapter 3 Tradition 1 内容 Presentation
- 第 9 回 項目 Chapter 3 Tradition 2 内容 Discussion Assessment
- 第 10 回 項目 Chapter 4 Family 1 内容 Presentation
- 第 11 回 項目 Chapter 4 Family 2 内容 Discussion Assessment
- 第 12 回 項目 Chapter 5 Democracy 1 内容 Presentation



第 13 回 項目 Chapter 5 Democracy 2 内容 Discussion Assessment

第 14 回 項目 Summary Writing 内容 How to write a summary based on your outline

第 15 回 項目 Overview 内容 Why RUNAWAY WORLD?

成績評価方法 (総合) ・出席は欠格条件とする。(自分の順番のときに発表できないときは欠席とする。)  
欠席は 3 回を超えると不合格となる。 ・アウトラインを作成してハンドアウトを書く。 ・プレゼンテーションで他人への伝達がどれほどできるか。 ・アウトラインをもとにサマリーを書く。

教科書・参考書 教科書: Runaway World, Anthony Giddens, Routledge, 2000 年;  
[http://news.bbc.co.uk/1/hi/english/static/events/reith\\_99/default.htm](http://news.bbc.co.uk/1/hi/english/static/events/reith_99/default.htm) にアクセスすれば、テキストが得られる。 / 参考書: Anthony Giddens の他の著書

メッセージ アウトラインをしっかりと作ってください。そして、説得力のある自己主張/自己表現をしてください。

連絡先・オフィスアワー [mmiy@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:mmiy@yamaguchi-u.ac.jp)

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 外国文献研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 鍋山祥子     |    |      |     |        |

授業の概要 英語で書かれた文献を読み、書かれている内容について議論をおこない、理解を深める。 / 検索キーワード ワークライフバランス・ケア

授業の一般目標 英語論文を読むことに慣れ、書かれている内容についての理解を深める。英語論文の形式に慣れる。

授業の計画(全体) 論文集から毎回一章ずつ読み、担当者によるレジュメ報告の後、内容について議論をおこなう。

成績評価方法(総合) 演習形式で授業をおこなうため、参加度合い、知識の習得度合いなどを総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: work-life-balance もしくは、care 関連の論文をこちらで提示し、各自、興味のあるものについて順番に報告してもらう。

メッセージ テーマについて興味のある方の受講を求めます。

連絡先・オフィスアワー 鍋山研究室 ( C210 ) E-mail:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 外国文献研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 吉川 信將    |    |      |     |        |

授業の概要 英語で書かれた概説書を読む(受講者にどんどん割り当てて、日本語訳していきます)ことを通して、米国会社法の概要を学習する。

授業の一般目標 現代は企業社会といわれており、その中心的存在である企業の構成・活動等を規律するうえで重要な役割を果たすのが会社法である。日本では、新会社法が平成18年から施行されたが、これは米国会社法の示唆を受けたものとなっている。本演習では概説書の講読を通して日本会社法へ多大な影響を与えた米国会社法の概要について理解を深めることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 米国会社法の概要を理解し、日本法へ与えた影響や今後の課題等を検討する際に、自分なりの手がかりがつかめるようになる。 関心・意欲の観点: 各回の講読範囲を確実に予習し、該当範囲の日本会社法と比較検討する力を身につける。

授業の計画(全体) 英語で書かれた概説書を読むことを通して、米国会社法についての概要を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 The Corporation in Perspective
- 第 3 回 項目 Selection of the Business Form for a Venture
- 第 4 回 項目 Formation of Corporations
- 第 5 回 項目 The Limited Role of Ulara Vires
- 第 6 回 項目 Preincorporation Transactions
- 第 7 回 項目 "Piercing the Corporate Veil" and Related Problems
- 第 8 回 項目 Financing the Corporation (1)
- 第 9 回 項目 Financing the Corporation (2)
- 第 10 回 項目 The Distribution of Powers within a Corporation
- 第 11 回 項目 Shares and Shareholders (1)
- 第 12 回 項目 Shares and Shareholders (2)
- 第 13 回 項目 Directors
- 第 14 回 項目 Officers
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 授業における報告・発表内容、授業への参加姿勢及び出席状況を総合的に判断して評価する

教科書・参考書 教科書: West 社の「The Law of Corporation」を予定しているが、開講時に受講者と協議のうえ最終決定する。

メッセージ 学部で学んだ日本会社法に対する理解を深めることに役立つものと思います。受講者は全員が各回の授業で講読(日本語訳していきます)する範囲を事前に読んでいることが前提となります。時間に限りがあり、教科書の全部を読み通すことは難しいかも知れませんが、受講者の意欲に期待します。

連絡先・オフィスアワー C 棟 2 2 4 研究室(新年度のオフィスアワーは開講時に案内します。)

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 植村高久  |    |      |     |        |

授業の概要 各自の研究テーマに即して既存研究を渉猟し、内容を獲得する。

授業の一般目標 研究テーマ関連の主要既存研究について概要をまとめることができ、それぞれの相対的な位置づけと分類ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 主要な既存研究についてその概要を述べることができる。 思考・判断の観点： 既存研究の枠組みや成果を自ら対象の分析に利用できる。 関心・意欲の観点： 既存研究を通じて自己の研究テーマを詳細に検討し、関心の焦点を述べるができる。 態度の観点： 既存研究の内容を客観的に記述することができる。 技能・表現の観点： 既存研究を読解し、自分の言葉で要約できる技能を身につけている。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマに則して、既存研究のリストを作成し、それを輪番で要約・報告します。

成績評価方法（総合） 報告の内容を中心に、既存研究を扱う技法の獲得程度により評価。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 寺地伸二  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 山田正雄  |    |      |     |        |

授業の概要 経済理論の基礎を学ぶ

授業の一般目標 経済理論の基礎を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経済理論の基礎を身につける。

授業の計画（全体） 文献を読むことにより、経済理論を学んでいきます。

成績評価方法（総合） 参加姿勢、報告、出席により評価します。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 野村淳一  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 柏木芳美  |    |      |     |        |

授業の概要 学生の希望に応じてテーマを決める。ここに書くのはミクロ経済学を対象とした場合の内容である。演習 IA と演習 IB で、D. W. Katzner 著、Static Demand Theory を輪読する。演習 IA では 1 変数及び多変数関数と線型代数をざっと復習し、スルツキー方程式を中心とした消費者理論を勉強する。

授業の一般目標 消費者理論で使われる数学を理解し応用できること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 1 変数及び多変数関数の微分が応用できる。 2. 線型代数が応用できる。 3. 効用関数の数学的性質を利用できる。 4. スルツキー方程式を応用できる。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に数理的な関心を持つ。

授業の計画（全体） 前半では 1 変数関数及び多変数関数の微分と線型代数の基本の復習をする。後半で、需要関数の数学的性質を調べ、スルツキー方程式について学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分の復習 その 1 内容 1 変数関数の微分の復習
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分の復習 その 2 内容 1 変数関数の微分の復習
- 第 3 回 項目 多変数関数の微分の復習 その 1 内容 多変数関数の微分の復習
- 第 4 回 項目 多変数関数の微分の復習 その 2 内容 多変数関数の微分の復習
- 第 5 回 項目 多変数関数の微分の復習 その 3 内容 多変数関数の微分の復習
- 第 6 回 項目 線型代数の復習 その 1 内容 線型代数の復習
- 第 7 回 項目 線型代数の復習 その 2 内容 線型代数の復習
- 第 8 回 項目 線型代数の復習 その 3 内容 線型代数の復習
- 第 9 回 項目 線型代数の復習 その 4 内容 線型代数の復習
- 第 10 回 項目 選好，無差別曲線 内容 無差別曲線
- 第 11 回 項目 分離性 内容 分離性
- 第 12 回 項目 効用最大化，支出最小化 内容 効用最大化，支出最小化
- 第 13 回 項目 需要関数 内容 需要関数
- 第 14 回 項目 スルツキー方程式 その 1 内容 スルツキー方程式
- 第 15 回 項目 スルツキー方程式 その 1 内容 スルツキー方程式

成績評価方法（総合） 発表の出来具合を見て判断する。

教科書・参考書 教科書： Static Demand Theory, D. W. Katzner, Macmillan, 1970 年

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 馬田哲次  |    |      |     |        |

授業の概要 各自の研究テーマに沿って研究指導を行う。

成績評価方法 (総合) 出席と発表を総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 塚田広人  |    |      |     |        |

授業の概要（記入時点でゼミ所属学生は未定。） 所属学生に応じて修士論文執筆に向けた基礎文献と研究テーマに沿った文献の学習を行う。 / 検索キーワード 効率、公正、慈恵（友愛）

授業の一般目標 修士論文執筆にふさわしい基礎学力と専門分野の学力を身につける。

教科書・参考書 参考書：塚田広人 『社会システムとして西條経済』成文堂、1998 年

連絡先・オフィスアワー ht@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 1 時半－ 3 時（会議等で不在の場合あり。）他の時間でも在室時はいつでも可。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 兵藤隆   |    |      |     |        |

授業の概要 開講予定なし

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 藤井大司郎 |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 仲間瑞樹  |    |      |     |        |

授業の概要 この演習では、自身が修士論文で扱いたいトピックについて、論文・参考文献を利用しながら、発表をしてもらう。発表後、参加者及び教員から質疑応答を受けつけ、修士論文作成にいかしてゆく。

授業の一般目標 参加者の関心あるテーマについて理解を深め、またコメント力・質問力をつけること。

成績評価方法 (総合) 参加・発表・質疑応答からなる総合評価。

教科書・参考書 教科書：テキストを利用しない。 / 参考書：参考書を利用しない。

メッセージ この講義は、自身の修士論文テーマ、及びその関連事項の発表と討論が主です。できるだけ自身の論文だけでなく、他者の論文テーマにも関心を持ってください。

連絡先・オフィスアワー 何かご質問があれば、nakama73@yamaguchi-u.ac.jp までどうぞ。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 鍋山祥子  |    |      |     |        |

授業の概要 各自の研究テーマに沿った研究を進める。そのための指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の研究テーマに沿った研究に関して、基礎知識を習得し、学界の動向をおさえる。また、研究テーマの精緻化をおこなう。

成績評価方法 (総合) 研究の進行具合を総合的に評価する。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 木部和昭  |    |      |     |        |

授業の概要 本年度は開講しない

授業の一般目標 本年度は開講しない

授業の計画（全体） 開講なし

成績評価方法（総合） 開講しない

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 古賀大介  |    |      |     |        |

授業の概要 欧米経済史・金融史を主たるテーマとする経済学研究科学生の指導を行う

授業の一般目標 修士学位審査論文に必要な知識と技能を身につけることを目標とする

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、計画を調整する。



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 濱島清史  |    |      |     |        |

**授業の概要** 修士論文作成に向けて基礎固めを行なう。具体的には、労働経済、成果主義、女性労働、人事労務管理、キャリア形成などの文献を輪読していく。それだけでなく、毎月、どのような文献を読んだか、報告させる。一日英文 30 ページ、日本語文献と合わせて一日 100 ページ読破していくことが目標である。(ちなみに東京大学の故広松渉教授は学生に一日百ページ読めば良い研究者になれるといいつつ、本人は一日千ページ読んでいたという。) / 検索キーワード 成果主義、女性労働、キャリア形成

**授業の一般目標** 修士論文に向けた基本文献を読破し、基礎力を身に付ける。概要でも触れたが、一日英文 30 ページ、日本語文献と合わせて一日 100 ページ読破していけるような読解力を修得してもらいたい。文献読破力も一種の技能であって、訓練しなければなかなか身につかないものである。

**授業の計画(全体)** 授業としては輪読が中心となる(概要参照)。月に一回は毎月新しく読んだ文献・論文の報告を行なう。報告は口頭だけでも場合により構わないが、メモ程度のものは用意することになる。できれば内容を要約したノートを作成していったほうが良いだろう。春休み、夏休み、冬休みと修士論文作成へ向けたレポートも作成してもらう予定である。

**成績評価方法(総合)** ゼミでの発表とレポートによる。

**教科書・参考書** 教科書：受講生と話し合いの上決める。 / 参考書：適宜指摘する。

**メッセージ** 博士課程希望と聞いているので、教員として就職することを目標として、そのためには何をなすべきか、ターゲットを決めて実行に移すこと。

**連絡先・オフィスアワー** hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 齋藤英智  |    |      |     |        |

授業の概要 地域経済に関する問題意識を明確にし、修士論文のテーマに関連する文献・資料を収集し、論文作成の方法論、ならびに論点を検討する。

授業の一般目標 授業を通じて修士論文のテーマ、ねらい、論点、方法、構成を固める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域経済に関する理論、先行研究についての議論ができる。 思考・判断の観点： 理論、先行研究に基づく自らの問題意識を明確にできる。 関心・意欲の観点： 疑問点を自ら積極的に調査・分析し、報告・議論ができる。

授業の計画（全体） 修士論文論の枠組みを検討する。先行研究の検討を中心として、収集した資料・文献等の概要を毎回報告する。報告に基づき、修士論文の構成を検討し、最終的にテーマを明確にする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究計画 内容 修士論文構想の報告
- 第 2 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 3 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 4 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 5 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 6 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 7 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 8 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 9 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 10 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 11 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 12 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 13 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 14 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 15 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討

成績評価方法（総合） 授業への参加態度：50 %、報告・発言内容：50 %により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。最初の授業において指示する。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 田淵太一  |    |      |     |        |

授業の概要 受講生の修士論文作成までの研究指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成までの研究指導

授業の計画（全体） 受講生の研究報告を主体とする

成績評価方法（総合） 研究報告の内容で評価する

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 澤喜司郎  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 河野真治  |    |      |     |        |

授業の概要 世界経済や多国籍企業の最新の理論について学ぶ。同時に学生の修士論文テーマについて、個人報告とそれについて討論する。

授業の一般目標 修士論文作成に必要な基礎理論を学ぶ。また最近の学会動向についても把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済と多国籍企業についての、世界的な研究動向を理解する。  
思考・判断の観点：経済学的思考方法を身につける。

授業の計画（全体）世界経済と多国籍企業についての最新の研究成果を読む。個人報告は月1回程度行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 学生レポート

第 2 回 項目 以下同じ

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合）レポート内容と討論への参加状況で評価する。

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA   | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | マルク・レール |    |      |     |        |

授業の概要 現在のマスメディアのさまざまな現象を分析する。 / 検索キーワード マスメディア

授業の一般目標 マスメディアの仕組み等を批判的に理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： マスメディアの仕組みを知る。 思考・判断の観点： マスメディアの可能性問題点について判断する。 関心・意欲の観点： マスメディアを積極的に調査する。 態度の観点： マスメディアの正体を見抜く。

授業の計画（全体） 毎回、特定のマスメディアについて議論する。

成績評価方法（総合） 授業参加（欠格条件）、レポート（100%）

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 豊嘉哲   |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 松井範惇  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 尹春志   |    |      |     |        |

授業の概要 東アジア経済について参加者の関心に応じて報告討論を行う

授業の一般目標 参加者の個別研究に資する。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマに則して報告と討論を行う。

成績評価方法（総合） 報告内容と討論の参加度で判断する

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 横田伸子  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 陳禮俊   |    |      |     |        |

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体） 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。（1）環境、自然資源と経済（2）経済主体間の関係としての環境問題（3）公共財としての環境（4）環境価値の計測手法（5）公害裁判 - 賠償責任の経済学（6）日本の環境政策（7）環境政策の評価基準（8）環境課徴金、環境税及び排出許可証取引（9）地球規模の環境問題（10）地球環境保全の取り組み

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

教科書・参考書 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年 / 参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 陳建平   |    |      |     |        |

授業の概要 中国経済に関する研究

授業の一般目標 中国経済の特定の分野について深い知識をゆする。

授業の計画（全体） 文献と資料の精読および研究発表を通じて進めていく。

教科書・参考書 教科書：受講者と相談して決める。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 李海峰   |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 渡邊幹雄  |    |      |     |        |

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画(全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法(総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 立山紘毅  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 平中貫一  |    |      |     |        |

授業の概要 判例契約法を学ぶ。



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 三間地光宏 |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 油納健一  |    |      |     |        |

授業の概要 \* 最高裁判決を素材に“ 民法実務 ”を学習する。

授業の一般目標 民法の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

授業の計画(全体) 具体的には、つぎのような方法で授業を進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、報告者は、当該判決の事実と判決内容を報告する。(2) つぎに、その事件で争点となっている問題点を把握し、この問題を解決するために必要な民法典の条文や従来判例・学説について報告する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈を検討しながら報告する。以上の(1)・(2)・(3)の中では、受講生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。

成績評価方法(総合) 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。/ 参考書：適宜指示する。

メッセージ 大学院生として恥ずかしくない報告と討論をしてもらいます。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 安里全勝  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 中村美紀子 |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 吉川 信將 |    |      |     |        |

授業の概要 受講生自身が決めたテーマに基づく研究発表をベースとし、参加者間での討議を行う。

授業の一般目標 自主的にテーマを設定し、積極的に研究発表を行う姿勢を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の設定したテーマについて、それが経済社会や企業実務に与える影響や関連を分析し、学説・判例をもあわせて検討する姿勢・思考法を身につける。 関心・意欲の観点：自分が設定した研究のテーマだけでなく、それに関連する問題及び他の参加者の発表課題に関しても関心を持ち、討議に参加する姿勢を身につける。

授業の計画（全体） 受講者の設定したテーマに基づき、1回から数回に分けて発表を行い、参加者間で討議することを繰り返す。必要に応じて時事問題を取り上げ検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 個別発表・討論
- 第 3 回 項目 個別発表・討論
- 第 4 回 項目 個別発表・討論
- 第 5 回 項目 個別発表・討論
- 第 6 回 項目 個別発表・討論
- 第 7 回 項目 個別発表・討論
- 第 8 回 項目 個別発表・討論
- 第 9 回 項目 個別発表・討論
- 第 10 回 項目 個別発表・討論
- 第 11 回 項目 個別発表・討論
- 第 12 回 項目 個別発表・討論
- 第 13 回 項目 個別発表・討論
- 第 14 回 項目 個別発表・討論
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） どの程度真剣に研究し、それをまとめあげて発表できるかということを重視し、演習における討議への参加姿勢を加味して判断する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない予定ですが、開講時に受講者と協議します。 / 参考書：必要な参考資料については適宜指示します。

メッセージ 参加者には、企業法に関して、自分が決めたテーマに基づく研究発表を積極的に行っていただきます。また、時事問題に関しても可能な限り取り上げ検討していきたいと思いをします。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室（オフィスアワーは開講時に案内します。）

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 柳澤旭   |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 上杉信敬  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 澤田 正  |    |      |     |        |

**授業の概要** 税法をテーマとした修士論文作成をゴールとする各自のプロジェクトと考える。各自はプロセスにおいて計画－実行－チェックのセルフマネジメントサイクルを積極的かつ効果的に回し続ける一方、チームとしてのゼミメンバーの協働作業により、論文の質的向上を図っていく。ゼミでは、これらのプロジェクトのプロセスにおいて受講生に役立つ演習を実施し、必要な支援、アドバイスを行う。/ 検索キーワード プロジェクト、セルフマネジメント、セルフモチベーション、セルフチェック、チームによる協働

**授業の一般目標** 修士論文のテーマを見つけ、論文の構想を練り、資料を集め、執筆スケジュールを考え、文章化し、期日までに仕上げる一連のプロセスを受講生が自らきっちりと着実に管理し、チェックしていくというセルフマネジメントによってスムーズに目標達成すること。

**授業の計画（全体）** 受講者のタイムマネジメントに沿った計画と演習内容を双方向で議論し、立案し、受講生がそれを着実に実施し、実施状況、成果を自己評価していき、スムーズな目標達成につなげる。その過程でゼミメンバーによるチームとしての協働作業をできるだけ加えていく。これらのプロセスを通じて、修士に求められる税法の知識や能力の十分な獲得を目指す。

**メッセージ** 自ら進んで、どんどん計画し、実践し、プロジェクトのプロセスを進めていくことを期待します。そのための相談や議論については支援を惜しみません。

**連絡先・オフィスアワー**（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）月曜日 10 時 30 分～12 時、水曜日 10 時 30 分～12 時、



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 石 龍潭  |    |      |     |        |

授業の概要 「現代行政法研究」及び「応用行政法研究」での問題意識をさらに発展させ、行政法に関するより具体的な問題点を検討していく。 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。 したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、演習への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 行政法における重要な学説や判例の理解を深めることを一般目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法における重要な制度の理解を深める。 思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係の事例や判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる事例や判例は、参加者と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、報告等による。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 河村誠治  |    |      |     |        |

授業の概要 世界とりわけわが国を含む東アジアにおける、地域経済や各種産業の動向などを視野に入れた、単なる遊び（需要者サイドの本能的ニーズやウォンツ）の領域を超えたところの、観光経済研究。

授業の一般目標 今後各自が積極的に取り組める「テーマ」を見つける。

授業の計画（全体） 受講者の全体的状況を見、最終的に決定。自由なテーマ報告。

成績評価方法（総合） 研究意欲とレベル。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 朝日幸代  |    |      |     |        |

**授業の概要** 本講義の目的は、観光および地域経済に関する研究に必要な文献調査を進める中で、研究に必要な統計データや統計手法を学ぶとともに、修士論文作成に必要な情報収集を定期的に報告し、その内容に基づいて、受講生の研究内容を明確にしていくことにある。また、研究テーマに応じて統計調査を行う場合は、その方法を検討するなど、研究のための実践的な考え方・そのための能力を養うことにある。

**授業の一般目標** 修士論文作成に必要な文献調査を行った結果を、研究テーマに合わせて、適切にとりまとめし、報告する。これらによって、研究内容を精査し、修士論文作成のための研究方法を明確にしていくことである。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：観光、地域分析、環境分析に必要な手法や内容に対する知識を持ち、理解している。 思考・判断の観点：受講生の修士論文の内容に合わせて、様々な研究手法、分析方法の選択を行うことができる。 関心・意欲の観点：幅広い視野から研究内容を検討し、新しい知識を積極的に入手する意欲が高いこと。 技能・表現の観点：数量分析を行った結果を、理解をしながら取りまとめ、わかりやすく解説ができる。

**成績評価方法 (総合)** 文献調査における報告を積極的に行い、ゼミの中で修士論文のテーマに関する内容をより精査できる議論を行うことなどを、総合的に評価する。

**教科書・参考書** 教科書：講義開始時に紹介する。 / 参考書：講義開始時に紹介する。

**連絡先・オフィスアワー** asahi@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 宮崎充保  |    |      |     |        |

授業の概要 卒論あるいは新しい問題による修士論文へ向けてのウォームアップとする。 1. 問題発掘 2. 発掘された問題の輪郭化 3. 関連論文・研究書の研究開始 / 検索キーワード ハンドアウト、プレゼンテーション、議論、トピック展開

授業の一般目標 以下の順序で研究手順を学ぶ。 1. アウトラインによるプレゼンテーション (ハンドアウト作成) 2. プレゼンテーションを基にした議論 3. 議論を含めた小エッセーを書く 4. 小エッセーを基にした議論と次へのトピック展開

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ・先行論文・研究書の概要が述べられる。 思考・判断の観点: ・上記の概要に対して議論や自分の考えをブレンストームする。 関心・意欲の観点: ・さまざまなソースを求めて、自分の考えを展開する。 態度の観点: ・持続する学習と思考を見に付ける。 技能・表現の観点: ・文章表現法を学ぶ。

授業の計画 (全体) インTRODククションから始まり、読みを中心にして問題発掘をし、それをアウトラインでのハンドアウト、プレゼンテーション、議論、議論の後のアウトラインの文章化 (小エッセー)、小エッセーに基づく議論、そして、トピックの更なる展開を求めて、スパイラルに繰り返し、焦点を絞り込む。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 INTRODUCTION
- 第 2 回 項目 議論 1 内容 問題発掘への道
- 第 3 回 項目 議論 2 内容 問題をアウトラインで説明
- 第 4 回 項目 議論 3 内容 問題を小エッセーで説明
- 第 5 回 項目 議論 4 内容 トピック展開
- 第 6 回 項目 以後、第 2 週からの議論 1 - 4 のスパイラルの繰り返し
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) クラスでのパフォーマンス (ハンドアウト、プレゼンテーション、議論、小エッセー、トピック展開) を重視する。

メッセージ たくさん読み、大いに考え、自己表現をする。

連絡先・オフィスアワー 本年度は国際センター長室に連絡ください。 tel. 933-5980 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

|      |                              |    |      |     |        |
|------|------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA                        | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO |    |      |     |        |
|      |                              |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 土生 英里 |    |      |     |        |

授業の概要 モノやサービスの輸出入、知的所有権から紛争解決まで、国際取引のルールを概観し、経済のグローバル化が国内法構造に及ぼす影響を検証する。 / 検索キーワード グローバリゼーション、国際取引、国際貿易

授業の一般目標 経済がグローバル化するにつれて、国境を越えた様々な取引を規律するには国内法だけでは対応できない時代である。そのため、様々な国際間の合意や協定が国内法化され、適用されており、国際経済法と呼称されている。ここではとくに国際経済法の中核を占める国際貿易ルールについて、その種類、適用対象、内容、効果を検証する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際貿易の主要なルールとその背景を理解する 思考・判断の観点： 経済のグローバル化が国内法に及ぼす影響を分析できる 関心・意欲の観点： 具体的な企業行動にかかわる国際経済法の構造を理解する

授業の計画（全体） 第1週 ガイダンス 第2週 基本書購読 第3週 基本書購読 第4週 基本書購読 第5週 基本書購読 第6週 基本書購読 第7週 基本書購読 第8週 基本書購読 第9週 基本書購読 第10週 基本書購読 第11週 基本書購読 第12週 基本書購読 第13週 基本書購読 第14週 基本書購読 第15週 レポート

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 前期演習の進め方と 担当項目の割り当て
- 第2回 項目 基本書購読 内容 WTO 体制の検証
- 第3回 項目 基本書購読 内容 WTO の成立と発展
- 第4回 項目 基本書購読 内容 WTO 紛争解決手続き
- 第5回 項目 基本書購読 内容 WTO と国際法秩序
- 第6回 項目 基本書購読 内容 WTO 紛争解決手続きの機能
- 第7回 項目 基本書購読 内容 WTO/GATT 紛争解決手続きと国際交渉
- 第8回 項目 基本書購読 内容 WTO 小委員会の機能
- 第9回 項目 基本書購読 内容 WTO 紛争解決機関の機能と効果
- 第10回 項目 基本書購読 内容 WTO 紛争解決手続き - ケース・スタディ
- 第11回 項目 基本書購読 内容 国際司法裁判所の機能の限界
- 第12回 項目 基本書購読 内容 非通商問題と WTO
- 第13回 項目 基本書購読 内容 WTO 体制と機能変化
- 第14回 項目 基本書購読 内容 WTO 規律拡大の将来展望
- 第15回 項目 レポート

成績評価方法（総合） 出席と授業への参加・発言を重視します。成績評価は上記にレポートの結果を加えたものとします。

教科書・参考書 教科書： WTO 体制の法構造, 小寺 彰, 東京大学出版会, 2000 年; 適宜プリントを配布する / 参考書： 世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO, 外務省経済局監修, 日本経済問題研究所, 1997 年

メッセージ 内容的に非常に膨大な領域をカバーします。テキストの事前の復習が鍵となります。質問は随時受け付けます。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F ( A410 ) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 植村高久  |    |      |     |        |

授業の概要 各自の研究テーマに即して既存研究を渉猟し、内容を獲得する。

授業の一般目標 研究テーマ関連の主要既存研究について概要をまとめることができ、それぞれの相対的な位置づけと分類ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 主要な既存研究についてその概要を述べるができる。 思考・判断の観点： 既存研究の枠組みや成果を自ら対象の分析に利用できる。 関心・意欲の観点： 既存研究を通じて自己の研究テーマを詳細に検討し、関心の焦点を述べるができる。 態度の観点： 既存研究の内容を客観的に記述することができる。 技能・表現の観点： 既存研究を読解し、自分の言葉で要約できる技能を身につけている。

授業の計画（全体） 自の研究テーマに則して、既存研究のリストを作成し、それを輪番で要約・報告します。

成績評価方法（総合） 報告の内容を中心に、既存研究を扱う技法の獲得程度により評価。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 寺地伸二  |    |      |     |        |



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 山田正雄  |    |      |     |        |

授業の概要 経済理論の基礎を学ぶ

授業の一般目標 経済理論の基礎を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経済理論の基礎を身につける。

授業の計画（全体） 文献を読むことにより、経済理論を学んでいきます。

成績評価方法（総合） 参加姿勢、報告、出席により評価します。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 野村淳一  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 柏木芳美  |    |      |     |        |

授業の概要 学生の希望に応じてテーマを決める。ここに書くのはミクロ経済学をテーマとした場合である。演習 IA に引き続き, D. W. Katzner 著, *Static Demand Theory* の輪読を行う。内容は, 効用関数に関する同次性, 分離性, オスカーのカミソリ, 効用最大化定理の応用などである。

授業の一般目標 効用最大化問題で用いられた理論を他の経済現象に応用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 効用関数の同次性, 分離性の理解 2. 効用最大化問題で用いられた理論の応用 思考・判断の観点: 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点: 1. 日常生活の中の経済現象に数理的な関心を持つ。

授業の計画(全体) 効用最大化問題で用いられた理論を他の経済現象に応用すること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 効用最大化問題の復習 その 1 内容 効用最大化問題の復習
- 第 2 回 項目 効用最大化問題の復習 その 2
- 第 3 回 項目 同次性 その 1 内容 効用関数の同次性
- 第 4 回 項目 同次性 その 2
- 第 5 回 項目 分離性 その 1 内容 効用関数の分離性
- 第 6 回 項目 分離性 その 2
- 第 7 回 項目 古典的効用関数
- 第 8 回 項目 オスカーのカミソリ その 1 内容 境界における最大
- 第 9 回 項目 オスカーのカミソリ その 2
- 第 10 回 項目 オスカーのカミソリ その 3
- 第 11 回 項目 Nonintegrability 1 内容 Nonintegrability
- 第 12 回 項目 Nonintegrability 2
- 第 13 回 項目 レジャーと雇用への応用
- 第 14 回 項目 嗜好と質の変化
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 発表の出来具合を見て判断する。

教科書・参考書 教科書: *Static Demand Theory*, D. W. Katzner, Macmillan, 1970 年

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 馬田哲次  |    |      |     |        |

授業の概要 各自の研究テーマに沿って研究指導を行う。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 塚田広人  |    |      |     |        |

授業の概要（記入時点でゼミ所属学生は未定。） 所属学生に応じて修士論文執筆に向けた基礎文献と研究テーマに沿った文献の学習を行う。 / 検索キーワード 効率、公正、慈恵（友愛）

授業の一般目標 修士論文執筆にふさわしい基礎学力と専門分野の学力を身につける。

教科書・参考書 参考書：塚田広人 『社会システムとして西條経済』成文堂、1998 年

連絡先・オフィスアワー ht@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 1 時半－ 3 時（会議等で不在の場合あり。）他の時間でも在室時はいつでも可。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 兵藤隆   |    |      |     |        |

授業の概要 開講予定なし

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 藤井大司郎 |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 仲間瑞樹  |    |      |     |        |

授業の概要 前期に引き続き、自身の修士論文とその関連テーマに関する発表を行う。

授業の一般目標 発表・質疑応答だけでなく、修士論文の作成方法もあわせて学びとること。

成績評価方法 (総合) 参加・質疑応答・発表から総合的に評価。

教科書・参考書 教科書：教科書を利用しない。 / 参考書：参考書を利用しない。



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 鍋山祥子  |    |      |     |        |

授業の概要 各自の研究テーマに沿った研究を進める。そのための指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の研究テーマに沿った研究に関して、基礎知識を習得し、学界の動向をおさえる。また、研究テーマの精緻化をおこなう。

成績評価方法 (総合) 研究の進行具合を総合的に評価する。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 木部和昭  |    |      |     |        |

授業の概要 本年度は開講しない

授業の一般目標 本年度は開講しない

授業の計画（全体） 開講なし

成績評価方法（総合） 開講しない

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 古賀大介  |    |      |     |        |

授業の概要 前期に引き続き、欧米経済史・金融史を主たるテーマとする経済学研究科学生の指導を行う。

授業の一般目標 修士学位審査論文に必要な知識と技能を身につけることを目標とする

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、計画を調整する

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 濱島清史  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 齋藤英智  |    |      |     |        |

授業の概要 地域経済に関する問題意識を明確にし、修士論文のテーマに関連する文献・資料を収集し、修士論文のねらい、方法、論点、構成を検討する。併せて、論文のオリジナリティについても検討する。

授業の一般目標 修士論文作成へ向けて、テーマ、ねらい、論点、方法、構成、および、論文のオリジナリティを固める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域経済に関する理論、先行研究についての議論ができる。 思考・判断の観点： 理論、先行研究に基づく問題意識、オリジナリティを明確にできる。 関心・意欲の観点： 疑問点を自ら積極的に調査・分析し、報告・議論ができる。

授業の計画（全体） 修士論文論の枠組みを検討する。また、収集した資料・文献の概要、および分析結果の報告を毎回行う。研究報告に基づき、修士論文のオリジナリティを検討し展開していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 2 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 3 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 4 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 5 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 6 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 7 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 8 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 9 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 10 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 11 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 12 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 13 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 14 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 15 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告

成績評価方法（総合） 授業への参加態度：50 %、報告・発言内容：50 %により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。最初の授業において指示する。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 田淵太一  |    |      |     |        |

授業の概要 受講生の修士論文作成までの研究指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成までの研究指導

授業の計画（全体） 受講生の研究報告を主体とする

成績評価方法（総合） 研究報告の内容で評価する

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 澤喜司郎  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 河野真治  |    |      |     |        |

授業の概要 世界経済や多国籍企業の最新の理論について学ぶ。同時に学生の修士論文テーマについて、個人報告とそれについて討論する。

授業の一般目標 修士論文作成に必要な基礎理論を学ぶ。また最近の学会動向についても把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済と多国籍企業についての、世界的な研究動向を理解する。  
思考・判断の観点：経済学的思考方法を身につける。

授業の計画（全体）世界経済と多国籍企業についての最新の研究成果を読む。個人報告は月1回程度行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 学生レポート

第 2 回 項目 以下同じ

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合）レポート内容と討論への参加状況で評価する。



|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB   | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | マルク・レール |    |      |     |        |

授業の概要 現在のマスメディアのさまざまな現象を分析する。 / 検索キーワード マスメディア

授業の一般目標 マスメディアの仕組み等を批判的に理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： マスメディアの仕組みを知る。 思考・判断の観点： マスメディアの可能性問題点について判断する。 関心・意欲の観点： マスメディアを積極的に調査する。 態度の観点： マスメディアの正体を見抜く。

授業の計画（全体） 毎回、特定のマスメディアについて議論する。

成績評価方法（総合） 授業参加（欠格条件）、レポート（100%）

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 豊嘉哲   |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 松井範惇  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 尹春志   |    |      |     |        |

授業の概要 東アジアに関する各自の研究テーマに則して報告と討論を行う。

授業の一般目標 各自の研究テーマの発展に資する。

授業の計画（全体） 毎回出席者の報告と討論で授業を行う。

成績評価方法（総合） 報告の内容と参加度で判断する。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 横田伸子  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 陳禮俊   |    |      |     |        |

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体） 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。（1）環境、自然資源と経済（2）経済主体間の関係としての環境問題（3）公共財としての環境（4）環境価値の計測手法（5）公害裁判 - 賠償責任の経済学（6）日本の環境政策（7）環境政策の評価基準（8）環境課徴金、環境税及び排出許可証取引（9）地球規模の環境問題（10）地球環境保全の取り組み

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

教科書・参考書 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年 / 参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 陳建平   |    |      |     |        |

授業の概要 中国経済に関する研究

授業の一般目標 中国経済の特定の分野について深い知識をゆする。

成績評価方法 (総合) 文献と資料の精読および研究発表を通じて進めていく。

教科書・参考書 教科書：受講者と相談して決める。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 李海峰   |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 渡邊幹雄  |    |      |     |        |

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画(全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法(総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 立山紘毅  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 平中貫一  |    |      |     |        |

授業の概要 判例不法行為法を学ぶ。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 三間地光宏 |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 油納健一  |    |      |     |        |

授業の概要 \* 最高裁判決を素材に“ 民法実務 ”を学習する。

授業の一般目標 民法の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

授業の計画(全体) 具体的には、つぎのような方法で授業を進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、報告者は、当該判決の事実と判決内容を報告する。(2) つぎに、その事件で争点となっている問題点を把握し、この問題を解決するために必要な民法典の条文や従来判例・学説について報告する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈を検討しながら報告する。以上の(1)・(2)・(3)の中では、受講生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。

成績評価方法(総合) 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。/ 参考書：適宜指示する。

メッセージ 大学院生として恥ずかしくない報告と討論をしてもらいます。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 安里全勝  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 中村美紀子 |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 吉川 信將 |    |      |     |        |

授業の概要 受講生自身が決めたテーマに基づく研究発表をベースとし、参加者間での討議を行う。

授業の一般目標 自主的にテーマを設定し、積極的に研究発表を行う姿勢を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の設定したテーマについて、それが経済社会や企業実務に与える影響や関連を分析し、学説・判例をもあわせて検討する姿勢・思考法を身につける。 関心・意欲の観点：自分が設定した研究のテーマだけでなく、それに関連する問題及び他の参加者の発表課題に関しても関心を持ち、討議に参加する姿勢を身につける。

授業の計画（全体） 受講者の設定したテーマに基づき、1回から数回に分けて発表を行い、参加者間で討議することを繰り返す。必要に応じて時事問題を取り上げ検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 個別発表・討論
- 第 3 回 項目 個別発表・討論
- 第 4 回 項目 個別発表・討論
- 第 5 回 項目 個別発表・討論
- 第 6 回 項目 個別発表・討論
- 第 7 回 項目 個別発表・討論
- 第 8 回 項目 個別発表・討論
- 第 9 回 項目 個別発表・討論
- 第 10 回 項目 個別発表・討論
- 第 11 回 項目 個別発表・討論
- 第 12 回 項目 個別発表・討論
- 第 13 回 項目 個別発表・討論
- 第 14 回 項目 個別発表・討論
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） どの程度真剣に研究し、それをまとめあげて発表できるかということを重視し、演習における討議への参加姿勢を加味して判断する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない予定ですが、開講時に受講者と協議します。 / 参考書：必要な参考資料については適宜指示します。

メッセージ 参加者には、企業法に関して、自分が決めたテーマに基づく研究発表を積極的に行っていただきます。また、時事問題に関しても可能な限り取り上げ検討していきたいと思いをします。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室（オフィスアワーは開講時に案内します。）



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 柳澤旭   |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 澤田 正  |    |      |     |        |

**授業の概要** 税法をテーマとした修士論文作成をゴールとする各自のプロジェクトと考える。各自はプロセスにおいて計画－実行－チェックのセルフマネジメントサイクルを積極的かつ効果的に回し続ける一方、チームとしてのゼミメンバーの協働作業により、論文の質的向上を図っていく。ゼミでは、これらのプロジェクトのプロセスにおいて受講生に役立つ演習を実施し、必要な支援、アドバイスを行う。/ 検索キーワード プロジェクト、セルフマネジメント、セルフモチベーション、セルフチェック、チームによる協働

**授業の一般目標** 修士論文のテーマを見つけ、論文の構想を練り、資料を集め、執筆スケジュールを考え、文章化し、期日までに仕上げる一連のプロセスを受講生が自らきっちりと着実に管理し、チェックしていくというセルフマネジメントによってスムーズに目標達成すること。

**授業の計画（全体）** 受講者のタイムマネジメントに沿った計画と演習内容を双方向で議論し、立案し、受講生がそれを着実に実施し、実施状況、成果を自己評価していき、スムーズな目標達成につなげる。このプロセスを通じて、修士に求められる税法の知識や能力の十分な獲得を目指す。

**メッセージ** 自ら進んで、どんどん企画し、プロセスを進めていくことを期待します。そのための相談や議論については支援を惜しみません。

**連絡先・オフィスアワー**（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）月曜日 10 時 30 分～12 時、水曜日 10 時 30 分～12 時、

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 石 龍潭  |    |      |     |        |

授業の概要 「現代行政法研究」及び「応用行政法研究」での問題意識をさらに発展させ、行政法に関するより具体的な問題点を検討していく。 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。 したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、演習への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 行政法における重要な学説や判例の理解を深めることを一般目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法における重要な制度の理解を深める。 思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係の事例や判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる事例や判例は、参加者と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、報告等による。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 河村誠治  |    |      |     |        |

授業の概要 世界とりわけわが国を含む東アジアにおける、地域経済や各種産業の動向などを視野に入れた、単なる遊び（需要者サイドの本能的ニーズやウォンツ）の領域を超えたところの、観光経済研究。

授業の一般目標 自立（自分で考え行動）的に、多くを読み、多くを書き、簡明に話す。

授業の計画（全体） 受講者の全体的プレゼンテーション。

成績評価方法（総合） 研究意欲とレベル。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 上杉信敬  |    |      |     |        |

連絡先・オフィスアワー 内線 5 5 8 8 ( C 2 0 3 号室 )

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 宮崎充保  |    |      |     |        |

授業の概要 前期で行う「演習 IA」の続きをし、同時に思考のための視野を広げることを行う。 / 検索キーワード 「演習 IA」と同じ

授業の一般目標 「演習 IA」と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「演習 IA」と同じ 思考・判断の観点：「演習 IA」と同じ 関心・意欲の観点：「演習 IA」と同じ 態度の観点：「演習 IA」と同じ 技能・表現の観点：「演習 IA」と同じ

授業の計画（全体） 「演習 IA」と同じ

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 「演習 IA」と同じ

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 「演習 IA」と同じ

メッセージ 「演習 IA」と同じ

連絡先・オフィスアワー tel. 933-5980 email: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

|      |                              |    |      |     |        |
|------|------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB                        | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO |    |      |     |        |
|      |                              |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 朝日幸代  |    |      |     |        |

授業の概要 本講義の目的は、観光および地域経済に関する研究に必要な文献調査を進める中で、研究に必要な統計データや統計手法を学ぶとともに、修士論文作成に必要な情報収集を定期的に報告し、その内容に基づいて、受講生の研究内容を明確にしていくことにある。また、研究テーマに応じて統計調査を行う場合は、その方法を検討するなど、研究のための実践的な考え方・そのための能力を養うことにある。研究成果を報告し、今後の研究の方向性を検討する。

授業の一般目標 修士論文作成に必要な文献調査を行った結果を、研究テーマに合わせて、適切にとりまとめし、報告する。これらによって、研究内容を精査し、修士論文作成のための研究方法を明確にしていくことである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光、地域分析、環境分析に必要な手法や内容に対する知識を持ち、理解している。 思考・判断の観点：受講生の修士論文の内容に合わせて、様々な研究手法、分析方法の選択を行うことができる。 関心・意欲の観点：幅広い視野から研究内容を検討し、新しい知識を積極的に入手する意欲が高いこと。 態度の観点：数量分析を行った結果を、理解をしながら取りまとめ、わかりやすく解説ができる

成績評価方法 (総合) 文献調査における報告を積極的に行い、ゼミの中で修士論文のテーマに関する内容をより精査できる議論を行うことなどを、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：講義開始時に紹介する。 / 参考書：講義開始時に紹介する。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 土生 英里 |    |      |     |        |

授業の概要 モノやサービスの輸出入、知的所有権から紛争解決まで、国際取引のルールを概観し、経済のグローバル化が国内法構造に及ぼす影響を検証する。 / 検索キーワード グローバリゼーション、国際取引、国際貿易

授業の一般目標 経済がグローバル化するにつれて、国境を越えた様々な取引を規律するには国内法だけでは対応できない時代である。そのため、様々な国際間の合意や協定が国内法化され、適用されており、国際経済法と呼称されている。ここではとくに国際経済法の中核を占める国際貿易ルールについて、その種類、適用対象、内容、効果を検証する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際貿易の主要なルールとその背景を理解する 思考・判断の観点： 経済のグローバル化が国内法に及ぼす影響を分析できる 関心・意欲の観点： 具体的な企業行動にかかわる国際経済法の構造を理解する

授業の計画(全体) 第1週 ガイダンス 第2週 演習 第3週 演習 第4週 演習 第5週 演習 第6週 演習 第7週 演習 第8週 演習 第9週 演習 第10週 演習 第11週 演習 第12週 演習 第13週 演習 第14週 演習 第15週 レポート

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 後期演習の進め方と 担当項目の割り当て
- 第 2 回 項目 演習 内容 WTO 体制の検証
- 第 3 回 項目 演習 内容 WTO の成立と発展
- 第 4 回 項目 演習 内容 WTO 紛争解決手続き
- 第 5 回 項目 演習 内容 WTO と国際法秩序
- 第 6 回 項目 演習 内容 WTO 紛争解決手続きの機能
- 第 7 回 項目 演習 内容 WTO/GATT 紛争解決手続きと国際交渉
- 第 8 回 項目 演習 内容 WTO 小委員会の機能
- 第 9 回 項目 演習 内容 WTO 紛争解決機関の機能と効果
- 第 10 回 項目 演習 内容 WTO 紛争解決手続き - ケース・スタディ
- 第 11 回 項目 演習 内容 国際司法裁判所の機能の限界
- 第 12 回 項目 演習 内容 非通商問題と WTO
- 第 13 回 項目 演習 内容 WTO 体制と機能変化
- 第 14 回 項目 演習 内容 WTO 規律拡大の将来展望
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 出席と授業への参加・発言を重視します。成績評価は上記にレポートの結果を加えたものとします。

教科書・参考書 教科書： WTO 体制の法構造, 小寺 彰, 東京大学出版会, 2000 年; 適宜プリントを配布する / 参考書： 世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO, 外務省経済局監修, 日本経済問題研究所, 1997 年

メッセージ 内容的に非常に膨大な領域をカバーします。テキストの事前の復習が鍵となります。質問は随時受け付けます。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F ( A410 ) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 植村高久   |    |      |     |        |

授業の概要 各自の研究テーマを深め、様々な分析と記述の手法を習得して、修士論文作成に役立てる。

授業の一般目標 各自の研究テーマを焦点化し、修士論文の問題構成として具体化するとともに、その作成に必要な技法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：既存研究および研究対象に関するデータに関して、正確に理解し記述できる。 思考・判断の観点：対象に即して適切な分析手段を選択でき、その結果を正しく判断できる。 関心・意欲の観点：研究テーマを焦点化し、修士論文の構成に具体化できる。 態度の観点：客観的に分析できる姿勢を持ち、説得力のある議論が展開できる。 技能・表現の観点：既存研究・データ分析に必要な分析と記述の技法を持つ。

授業の計画（全体） 各自のテーマに従って、修士論文の各部分を構成し、内容を拡充していく。

成績評価方法（総合） 修士論文作成に関わる関心の具体化とそれに必要な諸技法の習得状況で評価する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 仲間瑞樹   |    |      |     |        |

授業の概要 現在作成している修士論文の進捗状況・課題を毎回報告し、参加者と質疑応答を繰り返す。

授業の一般目標 毎回の報告、参加者との質疑応答によって、自身の修士論文で足りない点、改善すべき点を見つけ出すこと。そしてそれらを修士論文に反映させること。

成績評価方法 (総合) 参加・発表・質疑応答から総合的に評価。

教科書・参考書 教科書：教科書を利用しない。 / 参考書：参考書を利用しない。

メッセージ 作成中の修士論文を、しっかりとした内容に仕上げるための演習であることに注意してください。

連絡先・オフィスアワー 何かご質問がありましたら nakama73@yamaguchi-u.ac.jp までどうぞ。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 鍋山祥子   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の作成に関する指導をおこなう。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

成績評価方法 (総合) 修士論文の作成過程を総合的に評価する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 木部和昭   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文指導

授業の一般目標 修士論文を作成に向けた資料収集・分析を行う。

授業の計画(全体) 修士論文指導

成績評価方法(総合) 修士論文への取り組み(30%)と修士論文の内容(70%)

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 松井範惇   |    |      |     |        |

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 河野真治   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文作成のための、調査研究をする。

授業の一般目標 修士論文を書くこと。

授業の計画（全体） 修士論文の中間報告。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 学生の報告

第 2 回 項目 以下同じ

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 修士論文の中間報告の内容で評価する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 李海峰    |    |      |     |        |
|      |        |    |      |     |        |



|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 朝日幸代   |    |      |     |        |

授業の概要 本講義の目的は、観光および地域経済に関する研究の修士論文作成に必要な分析や情報収集を取り入れ内容を定期的に報告し、その内容に基づいて、研究内容を精査にしていくことにある。また、研究内容に応じて、学術研究の方法を理解し、論文を構成できる能力を養うことにある。

授業の一般目標 修士論文作成することにより、学術研究の方法を理解し、論文を構成できる能力を養うことである。独自に検証し、その結果を導きだせる方法論を理解し、考察できることを、修士論文として取りまとめることが本講義の目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文作成に必要な文献調査を行った結果を、研究テーマに合わせて、適切にとりまとめをし、報告する。これらによって、研究内容を精査し、修士論文作成のための研究方法を明確にしていくことである。 思考・判断の観点： 観光、地域分析、環境分析に必要な手法や内容に対する知識を持ち、理解している。受講生の修士論文の内容に合わせて、様々な研究手法、分析方法の選択を行うことができる。 関心・意欲の観点： 幅広い視野から研究内容を検討し、新しい知識を積極的に入手する意欲が高いこと。 技能・表現の観点： 数量分析を行った結果を、理解をしながら取りまとめ、わかりやすく解説ができる

成績評価方法 (総合) 文献調査における報告や分析結果報告を積極的に行い、修士論文作成を積極的に取り組みことなどを、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： 講義開始時に紹介する。 / 参考書： 講義開始時に紹介する。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 宮崎充保   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文へ向けて、これまでの研究と演習の成果を絞り込む。 / 検索キーワード 一点へ収斂

授業の一般目標 アウトライン、議論、小エッセー、議論とトピック展開のサイクルを繰り返しながら、提起している問題の論理展開を絞り込む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： これまでの研究と演習を知識化し、問題論述の焦点化。 思考・判断の観点： 自己の論述法に従い、要・不要の思考、資料をふるいわけ。 関心・意欲の観点： 思考の深化を図るための絶えざるインプット。 技能・表現の観点： 客観的な文章による論述展開。

授業の計画（全体） 修士論文執筆へ向かう。 そのために執筆のための必要な材料を調える。 アウトライン、プレゼンテーション、議論、小エッセー、プレゼンテーション、議論、トピックの連続的発展を目指す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 議論 1 論点マップ
- 第 2 回 項目 議論 2 ロードマップ作成
- 第 3 回 項目 議論 3 アウトライン プレゼンテーション
- 第 4 回 項目 議論 4 小エッセー プレゼンテーション
- 第 5 回 項目 議論 5 トピック展開
- 第 6 回 項目 以後は、サイクリックに議論 1 - 5 を繰り返す
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） ハンドアウト作成（アウトライン） プレゼンテーション 小エッセー これらに投げられる思考の収斂を見る。

メッセージ 余分な資料や思考を削り落とす。

連絡先・オフィスアワー tel. 933-5980 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 植村高久   |    |      |     |        |

授業の概要 各自の研究テーマを深め、様々な分析と記述の手法を習得して、修士論文作成に役立てる。

授業の一般目標 各自の研究テーマを焦点化し、修士論文の問題構成として具体化するとともに、その作成に必要な技法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：既存研究および研究対象に関するデータに関して、正確に理解し記述できる。 思考・判断の観点：対象に即して適切な分析手段を選択でき、その結果を正しく判断できる。 関心・意欲の観点：研究テーマを焦点化し、修士論文の構成に具体化できる。 態度の観点：客観的に分析できる姿勢を持ち、説得力のある議論が展開できる。 技能・表現の観点：既存研究・データ分析に必要な分析と記述の技法を持つ。

授業の計画（全体） 各自のテーマに従って、修士論文の各部分を構成し、内容を拡充していく。

成績評価方法（総合） 修士論文作成に関わる関心の具体化とそれに必要な諸技法の習得状況で評価する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 仲間瑞樹   |    |      |     |        |

授業の概要 前期に続き、修士論文の進捗状況を発表する。

授業の一般目標 自身の論文のプレゼンテーションを繰り返すことにより、修士論文の強調点、弱点を把握し、論文に反映させること。

成績評価方法 (総合) 参加・発表・質疑応答から評価。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 鍋山祥子   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の作成に関する指導をおこなう。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

成績評価方法 (総合) 修士論文の作成過程を総合的に評価する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 木部和昭   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文指導を行う。

授業の一般目標 修士論文を作成する。

授業の計画(全体) 修士論文指導

成績評価方法(総合) 修士論文への取り組み(30%)と修士論文の内容(70%)

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 河野真治   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文作成のための調査研究をする。

授業の一般目標 修士論文を書く。

授業の計画（全体） 修士論文の中間報告を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 修士論文中間報告

第 2 回 項目 以下同じ

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 中間報告の内容で評価する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 松井範惇   |    |      |     |        |
|      |        |    |      |     |        |



|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 李海峰    |    |      |     |        |
|      |        |    |      |     |        |

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 朝日幸代   |    |      |     |        |

**授業の概要** 本講義の目的は、観光および地域経済に関する研究の修士論文作成に必要な分析や情報収集を取り入れ内容を定期的に報告し、その内容に基づいて、研究内容を精査にしていくことにある。また、研究内容に応じて、学術研究の方法を理解し、論文を構成できる能力を養うことにある。最終的に修士論文を完成させ、その内容を講義でプレゼンテーションする。

**授業の一般目標** 修士論文を作成することにより、学術研究の方法を理解し、論文を構成できる能力を養うことである。独自に検証し、その結果を導きだせる方法論を理解し、考察できることを、修士論文として取りまとめることが本講義の目標である。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 修士論文作成に必要な文献調査を行った結果を、研究テーマに合わせて、適切にとりまとめをし、報告する。これらによって、研究内容を精査し、修士論文作成のための研究方法を明確にしていくことである。 **思考・判断の観点：** 観光、地域分析、環境分析に必要な手法や内容に対する知識を持ち、理解している。受講生の修士論文の内容に合わせて、様々な研究手法、分析方法の選択を行うことができる。 **関心・意欲の観点：** 幅広い視野から研究内容を検討し、新しい知識を積極的に入手する意欲が高いこと。 **技能・表現の観点：** 数量分析を行った結果を、理解をしながら取りまとめ、わかりやすく解説ができる

**成績評価方法 (総合)** 文献調査における報告や分析結果報告を積極的に行い、修士論文作成を積極的に取り組むこと。学術論文の出発点となる修士論文を既存研究論文の水準に達したのものになったかも含め、総合的に評価する。

**教科書・参考書** 教科書：講義開始時に紹介する。 / 参考書：講義開始時に紹介する。

**連絡先・オフィスアワー** asahi@yamaguchi-u.ac.jp

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 宮崎充保   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の執筆開始 小エッセーの積み重ねを再統合して、改めて、章立てをして議論を重ねながら、小エッセーを組み込み、論文を仕上げる。 / 検索キーワード 「演習 IIA」と同じ

授業の一般目標 文章による論展開 論展開を埋める新たな渉読

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「演習 IIA」と同じ 思考・判断の観点：「演習 IIA」と同じ  
関心・意欲の観点：「演習 IIA」と同じ 技能・表現の観点：「演習 IIA」と同じ

授業の計画（全体） 「演習 IIA」と同じ

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 「演習 IIA」と同じ

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 「演習 IIA」と同じ

メッセージ 「演習 IIA」と同じ

連絡先・オフィスアワー tel. 933-5980 email: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

|      |                         |    |      |     |        |
|------|-------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Advanced Microeconomics | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | NGUYEN HUU PHUC         |    |      |     |        |

**授業の概要** The purpose of the class is to help the students to understand the connections between contemporary microeconomics and practical problems, and to show the students how economic models can yield answers to practical problems. Finally, they can apply what they learned to their own master theses. / **検索キーワード** microeconomics, applied microeconomics, business microeconomics

**授業の一般目標** 1. To understand the applied theory of microeconomics. 2. To express your academic opinions about economic events using the theory of microeconomics.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 1. To understand the necessary mathematics in order to apply the theory of microeconomics. 2. To understand the connections between contemporary microeconomics and practical problems **思考・判断の観点:** To express your academic opinions about economic events using the theory of microeconomics.

**授業の計画 (全体)** The class will be proceeded along with the textbook.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 Demand Functions
- 第 3 回 項目 Modeling Consumer Behavior
- 第 4 回 項目 Channels of Distribution and the Problem of Double Marginalization
- 第 5 回 項目 Price Discrimination
- 第 6 回 項目 Averages and Margins
- 第 7 回 項目 Technology and Cost Minimization
- 第 8 回 項目 Multiperiod Production and Cost
- 第 9 回 項目 Competitive Firms and Perfect Competition
- 第 10 回 項目 Market Efficiency
- 第 11 回 項目 Taxes and Subsidies
- 第 12 回 項目 Externalities and Public Goods
- 第 13 回 項目 Incentives & Porter 's Five Forces
- 第 14 回 項目 Transaction Cost Economics and Theory of the Firm
- 第 15 回 項目 Economics and Organizational Behavior

**成績評価方法 (総合)** The evaluation will be made based on 1) homeworks and, 2) the contribution to the class.

**教科書・参考書** 教科書: Microeconomics for Managers, David M. Kreps, W W Norton & Co Inc, 2003 年

**メッセージ** I hope all of you will enjoy the class!

**連絡先・オフィスアワー** phuc@yamaguchi-u.ac.jp

|      |                           |    |      |     |        |
|------|---------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Mathematics for Economics | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | Yoshimi Kashiwagi (柏木 芳美) |    |      |     |        |

**授業の概要** This course is to introduce students mathematics used in microeconomics. By using mathematics, things in economics will become clear and we can handle them theoretically. Actually microeconomics has been developed by mathematics. The goal of this course is to understand the mathematics which is used in solving the utility maximizing problem and the expenditure minimizing problem. The starting point depends on your knowledge of mathematics. We will begin by checking it. Topics include: basic mathematics, differentiation of functions of one variable, differentiation of functions of several variables, determinant, quasiconcave functions, Lagrangian method.

**授業の一般目標** To understand Mathematics using in Microeconomics.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点** : 1. Can use basic mathematics. 2. Can calculate derivatives of functions. 3. Understand the basic properties of determinants and can calculate concrete determinants. 4. Understand the meaning of utility maximization problems and expenditure minimization problems, and can solve them. **思考・判断の観点** : 1. Can study economic problems using mathematics. **関心・意欲の観点** : 1. Have interest concerning economic phenomena around us.

**授業の計画 (全体)** Preliminary test, review of fundamentals, basics of differentiation, elasticity, local maxima and local minima, utility maximization problem, expenditure minimization problem.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Preliminary test
- 第 2 回 項目 The objective of this lecture
- 第 3 回 項目 Review of fundamentals 1
- 第 4 回 項目 Review of fundamentals 2
- 第 5 回 項目 Review of fundamentals 3
- 第 6 回 項目 Derivatives
- 第 7 回 項目 Increasing and decreasing
- 第 8 回 項目 Elasticity
- 第 9 回 項目 Local maxima and local minima
- 第 10 回 項目 Global maxima and global minima
- 第 11 回 項目 Partial derivatives 1
- 第 12 回 項目 Partial derivatives 2
- 第 13 回 項目 Simultaneous equations
- 第 14 回 項目 Utility maximization problem
- 第 15 回 項目 Expenditure minimization problem

**成績評価方法 (総合)** Checking assignments.

**教科書・参考書** 教科書 : Use prints

**メッセージ** Have to solve exercises given in each lecture.

**連絡先・オフィスアワー** E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, Tel:933-5595, Office:C213. If you have any question, visit my office at any time.

|      |                         |    |      |     |        |
|------|-------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Advanced Macroeconomics | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 山田正雄                    |    |      |     |        |

授業の概要 Introduction to macroeconomics

授業の一般目標 This course is designed to understand the basic concept and framework of macroeconomics.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To understand the basic concept and framework of macroeconomics.

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Data of Macroeconomics
- 第 2 回 項目 Keynesian Cross
- 第 3 回 項目 Multiplier
- 第 4 回 項目 IS Curve
- 第 5 回 項目 Money Market
- 第 6 回 項目 LM Curve
- 第 7 回 項目 IS-LM Model
- 第 8 回 項目 Monetary and Fiscal Policy
- 第 9 回 項目 Shocks in the IS-LM Model
- 第 10 回 項目 Real Exchange Rate and Net Exports
- 第 11 回 項目 Mundell-Fleming Model
- 第 12 回 項目 Small Open Economy Under Floating Exchange Rates
- 第 13 回 項目 Fixed Exchange Rate System
- 第 14 回 項目 Small Open Economy Under Fixed Exchange Rates
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書: Macroeconomics, Fifth Edition, N. G. Mankiw, Worth Publishers, 2002 年

|      |                  |    |      |     |        |
|------|------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Public Economics | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                  | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 寺地伸二             |    |      |     |        |

**授業の概要** This course will set out the basic framework for the analysis of policies, programs, projects, regulations, and other government interventions. One needs to know whether the benefits (revenues) of all policy consequences exceed the costs (expenditures). The analysis tries to consider all of the costs and benefits to society as a whole. The objective is to facilitate more efficient allocation of society's resources. Where markets work well, individual self-interest leads to an efficient allocation of resources. Consequently, programs of government intervention move the market away from a competitive equilibrium, creating distortions in the market as economic resources are reallocated. In perfectly competitive markets there are no externalities. Externalities are present in a market if the actions of either consumers or producers lead to costs or benefits that are not reflected in the price of the product in the market. Where markets fail, there is a rationale for government intervention. One must be able to demonstrate the superior efficiency of a particular intervention relative to the alternatives. For this purpose, we use public economic theory.

**授業の一般目標** This course will be devoted to a discussion of the main conceptual issues involved in public economics.

**授業の計画(全体)** This course will set out the basic framework for the analysis of policies, programs, projects, regulations, and other government interventions.

|      |                         |    |      |     |        |
|------|-------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Cost - Benefit Analysis | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 山下訓                     |    |      |     |        |

**授業の概要** This course is intended for a student with a basic understanding of elementary economics who wish to learn how to conduct a social cost-benefit analysis. The term social benefit-cost analysis refer to the appraisal of a private or public project from a public interest viewpoint. Our class concerns itself mainly with the economic benefits and costs of projects, although it touches on the question of economic impact. The questions addressed are whether the benefits of the project exceed the costs or not.

**教科書・参考書** 参考書： Benefit-Cost-Analysis Financial and Economic Appraisal using Spreadsheets  
Harry F.Campbell and Richard P.C.Brown The University of Queensland Cambridge University Press

**連絡先・オフィスアワー** yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518



|      |                     |    |      |     |        |
|------|---------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Economic Statistics | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                     | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 野村淳一                |    |      |     |        |

**授業の概要** Simulation models have been widely used in the design of public policy. For example, simulation models could answer questions like the following: (1) What is the impact of an increase in the federal budget deficit on the level of interest rates and the rate of inflation? (2) How does the trade deficit affect the level of employment and the bargaining position of labor unions? (3) What is the relationship between the quantity of money, say M1, and the level of economic activity? This course focuses upon econometric simulation models. Therefore we explain how to estimate a single equation model at first. For most economic decision or choice problems, we want to know the relationships between economic variables, which are suggested by economic theory. These are called economic models. These economic models involve questions concerning the signs and magnitudes of unknown and unobservable parameters, such as price elasticities and multipliers.

**授業の一般目標** One of our goals is to give you some idea of how we introduce parameters into an economic model and how we estimate them. Then we discuss the construction, evaluation, and analysis of simultaneous equation models and their use in policy analysis and forecasting. At the end of this course we will construct our own simulation models and evaluate their dynamic behavior.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 基本的な統計学の理論を理解している。 **思考・判断の観点：** 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 **統計学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。** **技能・表現の観点：** 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 **統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。**

**授業の計画（全体）** 1. Single Equation Models 2. Simultaneous Equations Models 3. Dynamic Behavior of Simulation Models

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Statistical model 内容 Statistical model
- 第 2 回 項目 Econometric estimates 内容 The Least Squares Principle
- 第 3 回 項目 Statistical inference (1) 内容 R2
- 第 4 回 項目 Statistical inference (2) 内容 F test
- 第 5 回 項目 Statistical inference (3) 内容 t tests
- 第 6 回 項目 Some notes for econometric estimates (1) 内容 seasonality, trends, dummy variables
- 第 7 回 項目 Some notes for econometric estimates (2) 内容 Heteroskedasticity
- 第 8 回 項目 Some notes for econometric estimates (3) 内容 Autocorrelation
- 第 9 回 項目 Simultaneous equations models (1) 内容 Simultaneous equations models
- 第 10 回 項目 Simultaneous equations models (2) 内容 IS-LM models
- 第 11 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (1) 内容 Dynamic behavior of simulation models
- 第 12 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (2) 内容 Stability
- 第 13 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (3) 内容 Multipliers and dynamic response (1)
- 第 14 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (4) 内容 Multipliers and dynamic response (2)
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

**成績評価方法（総合）** 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。

**教科書・参考書** 教科書：“Basic Econometrics, 4th Edition, with EViews 3.1 Student Version software”, “Gujarati, Damodar N.”, McGraw-Hill Higher Education Publishing, 2002 年

**連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける（講義中に指示）

|      |                 |    |      |     |        |
|------|-----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Decision Making | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                 | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 成富敬             |    |      |     |        |

**授業の概要** Decisions today are probably more complex and difficult than at any time in the past. To improve our decision making abilities, we should consider both how these decisions are made and how they should be made. In this course we will focus on; 1. decision-making process 2. decision models 3. mathematical models

**授業の一般目標** To improve our decision making abilities.

**授業の計画 (全体)** 1. decision-making process 2. decision models 3. mathematical models

**成績評価方法 (総合)** Exercises: 50 % Attendance: 50 %

|      |                    |    |      |     |        |
|------|--------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Program Evaluation | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                    | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 馬田哲次               |    |      |     |        |

**授業の概要** This lecture is program evaluation in action. More specifically, the lecture applies the theory-driven evaluation approach to address the following three steps. 1. Systematically identifying stakeholder's needs. 2. Selecting Evaluation options best suited to particular needs. 3. Putting the selected approach into action

**授業の一般目標** 1. To understand the basic concepts and conceptual framework of program evaluation.  
2. To understand how program evaluation can be used to assist stakeholders as they plan programs.  
3. To understand evaluation approach and methods.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 1. To explain the basic concepts and conceptual framework of program evaluation. 2. To explain evaluation approaches and method. **思考・判断の観点:** 1. To apply the method of program evaluation to concrete programs.

**授業の計画 (全体)** A Student makes a presentation of the topics of the textbook and we discuss them.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 Ethical Issues in Program Evaluation
- 第 3 回 項目 Needs Assessment
- 第 4 回 項目 Qualitative Methods in Evaluation
- 第 5 回 項目 Formative and Process Evaluation
- 第 6 回 項目 Single System Research Designs
- 第 7 回 項目 Goal attainment Scaling
- 第 8 回 項目 Client Satisfaction
- 第 9 回 項目 Group Research Designs
- 第 10 回 項目 Cost-Effectiveness and Cost Analysis Designs
- 第 11 回 項目 Measurement Tools and Strategies
- 第 12 回 項目 Illustrations of Instruments
- 第 13 回 項目 Data Analysis
- 第 14 回 項目 Pragmatic Issues
- 第 15 回 項目 Writing Evaluation Proposals, Reports, and Journal Articles

**成績評価方法 (総合)** Students have to attend the class, make presentations and submit some reports.

**教科書・参考書** 教科書: Program Evaluation, David Royse, THOMSON, 2006 年

**連絡先・オフィスアワー** umada@yamaguchi-u.ac.jp

|      |                             |    |      |     |        |
|------|-----------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Statistical Decision Making | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | HASHIMOTO, Hiroshi          |    |      |     |        |

**授業の概要** Decision making using statistical techniques and stochastic models will be treated. Problems of decision making under uncertainty are difficult to solve, but they are interesting and important in their real application. First mathematical preliminaries and basic results are given shortly. Then some useful methods in advanced statistics and operations research are introduced and discussed by using practical examples.

**授業の一般目標** The objectives of this class are to increase understanding of the principles of statistical problem solving and to study the statistical methods and probability models required in the decision making process.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** To understand basic probability theory and probability concepts  
**技能・表現の観点:** To evaluate decision trees    **その他の観点:** To manipulate mathematical models

**授業の計画 (全体)** まず、必要な数学的準備をして、基礎的な概念やモデルを紹介し、主要な手法と例題を取り上げる。

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Probability Concepts: Introduction
- 第 2 回 項目 Basic Concepts
- 第 3 回 項目 Probability Axioms
- 第 4 回 項目 Marginal, Conditional, and Joint Probabilities
- 第 5 回 項目 The Additive and Multiplicative Laws
- 第 6 回 項目 Independent and Dependent Events
- 第 7 回 項目 Bayes' Theorem
- 第 8 回 項目 Decision Theory: Introduction
- 第 9 回 項目 Criteria for Decision Making
- 第 10 回 項目 The Minimax Regret Criterion
- 第 11 回 項目 A Basic Decision Problem
- 第 12 回 項目 Decision Trees
- 第 13 回 項目 How to Evaluate Decision Trees
- 第 14 回 項目 Additional Information
- 第 15 回 項目 The Value of Information

**成績評価方法 (総合)** 出席およびレポートによる。

**教科書・参考書** 教科書: We will not use a textbook.

**連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

|      |                       |    |      |     |        |
|------|-----------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Development Economics | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 濱島清史                  |    |      |     |        |

**授業の概要** ・ Outline : in this course , we 'll study the evolution of development economics by picking up some representative articles of it . ・ The development economics is the area of study that deals with how to develop developing countries and the economic mechanism of so-called the third world . /  
**検索キーワード** Early Development Economics , The Resurgence of the Neo-classical Economics , The East Asian Miracle and the Myth of East Asian Miracle , The Asian Financial Crisis and the Social Policy of Asia , the Political Economy of Development .

**授業の一般目標** ・ Aim : by studying the evolution of development economics by picking up some representative articles of it , to understand how it has evolved and to know the contents .

**授業の計画 ( 全体 )** ・ Reading lists ・ Notice : we 'll proceed in the following order , I II V III . ・ Because is overview , we can get a perspective of the Development Economics . contains recent hot topics of the development economics in Asian region . Through I and II we can learn the original style of the development economics and its essence deeply . V is the very important theme of the development economics . Although III and are also important to understand the development economics III is related with the import substitute industrialization , is the main thinking of the development economics and is related with the early development economics and the recent thinking of East Asian Miracle , I think we had better read the other subjects first .

**成績評価方法 ( 総合 )** presentation and report

**教科書・参考書 教科書** : ・ I . Early Development Economics : the Balanced Growth vs. the Unbalanced Growth (Nurkse vs. Hirschman) ・ Nurkse , Ragnar(1952)“ Some International Aspects of the Problem of Economic Development ” , American Economic Review , May1952 . ・ Hirschman , Albert O.(1958)The Strategy of Economic Development , New Haven: Yale University Press . (Chap. 3 and 4 ) ・ II . Early Development Economics : Lewis Model ・ Lewis , W. Arthur(1954)“ Economic Development with Unlimited Supplies of Labour ” , Manchester School of Economics and Social Science , Vol.22 No.2 , 1954 . ・ III . Early Development Economics : Prebisch Singer thesis ・ Prebisch , Raul(1959)“ Commercial Policy in the Countries ” , American Economic Review , May1959 . ・ Singer , H.W.(1950)“ The Distribution of Gains Between Investing and Borrowing Countries ” , American Economic Review , May1959 . ・ . The Resurgence of the Neo-classical Economics ・ Schultz , Theodore W.(1987)“ Tensions between Economics and Politics in Dealing with Agriculture ” , in Meier , Gerald M.(ed.1987)Pioneers in Development Second Series , Washington : the World Bank Oxford University Press . ・ Myint(1987)“ The Neoclassical Resurgence in Development Economics : Its Strength and Limitations ” , in Meier , Gerald M.(ed.1987)Pioneers in Development Second Series , Washington : the World Bank Oxford University Press . ・ V . The Export Oriented Industrialization ・ Balassa , Bela(1971)“ Trade Policies in Developing Countries ” , American Economic Review . Vol.61 No.2 , 1971 . ・ Sachs , Jeffrey D.(1985)“ External Debt and Macroeconomic Performance in Latin America and East Asia ” , Brookings Papers on Economic Activity , 1985-2 . ・ cf . Krueger , Anne O.(1974)“ The Political Economy of the Rent-Seeking Society ” , American Economic Review , Vol.64 No.3(June) . ) ・ . The East Asian Miracle and the Myth of East Asian Miracle ・ The World Bank(1993)The East Asian Miracle Economic Growth and Public Policy , Washington : the World Bank Oxford University Press . ・ Krugman , Paul(1994)“ The Myth of Asia 's Miracle ” , Foreign Affairs , November/December1994 . ・ cf . Amsden , Alice H.(1994)“ Why Isn 't the World Experimenting with the East Asian Model to Develop ? : Review of The East Asian Miracle ” , World Development,Vol.22 , No.4 . pp.627-633 , 1994 . ・ . The Asian Financial Crisis and the Social Policy of Asia . ・ Lee , Eddy(1998)The Asian Financial Crisis The

Challenge for Social Policy , Geneva : ILO .  
• Betcherman , Gordon and Ismal , Rizwanul(2001)East Asian Labor Markets and Economic Crisis Impacts , Responses and Lessons , Washington : the World Bank and ILO .  
• World Bank(1998)East Asia : the Road to Recovery , Washington : the World Bank .  
• Stiglitz , Joseph E.(2001)“ From Miracle to Crisis to Recovery : Lessons from Four Decades of East Asian Experience ”in Meier,Gerald M. and Stiglitz,Joseph E. (ed.2001)Rethinking East Asian Miracle , Washington : the World Bank .  
• . Frontiers of Development Economics the Future in perspective .  
• Meier , Gerald M.(2001)“ The Old Generation of Development Economics ”in Meier , Gerald M. and Stiglitz , Joseph E.(ed.)(2001)Frontiers of Development Economics the Future in perspective ,: the World Bank .  
• cf . Hirschman , Albert O.()“ The Rise and Decline of Development Economics ”in Hirschman , Albert O.(1981)Essays in Trespassing : Economics and Politics and Beyond , Cambridge : Cambridge University Press .

メッセージ Useful knowledge , please !

連絡先・オフィスアワー hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

|  |  |    |      |     |        |
|--|--|----|------|-----|--------|
| 開設科目   | Postwar Japanese International:<br>An Overview | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生   |  | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官   | 今津武  |    |      |     |        |
| <p><b>授業の概要</b> After World War II, the Japanese Government and Japanese nationals made huge efforts to recover from the destruction of the war, and Japanese people have had the earnest desire to rejoin the international society and contribute to global prosperity as a “ Peaceful Country ”. To realize this wish, the Japanese Government has taken the policy to establish friendly and close relations with all countries in the World as the main plank of our diplomacy. Furthermore, we started providing Aid toward developing countries from the early post-war years of recovery. And at present, International Aid has been always very important axis of Japan ’s international politics. Under these circumstances, understanding the history, policy and practice of Japan ’s ODA would be useful to get valuable insights into Japan ’s Post-war international politics. / 検索キーワード International Cooperation, Official Development Assistance(ODA)</p> <p><b>授業の一般目標</b> After studying the outline of history, policy and practice of Japan ’s ODA, students are requested to consider and examine how to develop the future relationship between Japan and her/his country using Japan ’s ODA and to prepare a proposal paper on it.</p> <p><b>授業の到達目標 / 知識・理解の観点:</b> Students will evaluate Japanese international cooperation policy considering the past relations between Japan and developing countries established by using mainly ODA. <b>思考・判断の観点:</b> Students will consider the future direction of Japan ’s international policy from the point of view of developing countries. <b>関心・意欲の観点:</b> Students in this course come from developing countries and almost of them are government officials in respective countries. So they will be expected to play a important roll for the development of each country. They must learn concrete approach to Japan ’s ODA for using it effectively and efficiently for the development of their own countries.</p> <p><b>授業の計画 ( 全体 )</b> Through the series of lectures, students will deepen their general understandings of Japan ’s ODA. Moreover students are requested to put together their thoughts and present them to the other members of the class, and to participate in discussions on each presentation. Finally, students should prepare their proposals on how to use the instrument of Japan ’s ODA to promote their own countries social and economic development, and to establish friendly relations between both countries.</p> <p><b>授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 項目 Guidance 内容 ・ the Course Plan ・ Professor’s Experiences Related with International Cooperation</p> <p>第 2 回 項目 The New Structure of International Politics after World War II 内容 ・ The Relationship between Old-world and New Independent Countries ・ East-West Cold War Structure etc.</p> <p>第 3 回 項目 History of Japan’ ODA and its Political Meanings 内容 ・ Japan’s Reintegration to International Community ・ War Reparation and Trade Promotion Policy ・ Long Way to Top Donor in the world</p> <p>第 4 回 項目 The Current Trend of International Cooperation and Japan’s Involvement 内容 ・ Millennium Development Goals ・ International Support to Africa ・ The War against Global Terrorism (Poverty Reduction)</p> <p>第 5 回 項目 The View of Students 内容 ・ Evaluation and Criticism to Japan’s ODA ・ Students are requested to prepare the papers on the issue and present them to the class</p> <p>第 6 回 項目 Japan’s ODA Policy 内容 ・ ODA Charter ・ Medium-Term Policy on ODA</p> |  |    |      |     |        |

- 第 7 回 項目 The Framework of Japan's Economic Development Cooperation 内容 ・ The Role of ODA and Private Sector ・ Implementation Structure of ODA and its Budget
- 第 8 回 項目 A Foreigner's View 内容 Japan's International Relations and ODA
- 第 9 回 項目 The Implementation Mechanism of ODA (I) 内容 ・ Financial Cooperation (Grant Aid and Yen Loan)
- 第 10 回 項目 The Implementation Mechanism of ODA (II) 内容 ・ Technical Cooperation
- 第 11 回 項目 The Challenges of Developing Countries 内容 ・ Poverty Reduction ・ Human Security ・ Pro-poor Development
- 第 12 回 項目 The Development Agenda of Student's Home Country 内容 ・ Students are requested to prepare the papers on the issue and present them to the class
- 第 13 回 項目 The Development Agenda of Student's Home Country 内容 ・ The Preparation of Appropriate Plan Using Japan's Cooperation for the Challenges Identified in 12th Class
- 第 14 回 項目 Presentation of the Project Prepared in 13th Class 内容 ・ Students are requested Project Paper and present them to the class
- 第 15 回 項目 Summary of Lecture or Occasional Date 内容 ・ Evaluation of the Class by Students

**成績評価方法 (総合)** Judging the achievement level of each assignment such as presentations in the class and prepared papers. The attendance in the class will also be considered for final grading.

**教科書・参考書** 教科書： Handouts delivered by lecturer / 参考書： Yen for Development, Edited by Shafiqul Islam, Council on Foreign Relations Press, 1991 年； Aid-Understanding International Development Cooperation, J. Degnbol-Martinussen & P. Engberg-Pedersen, Zed Books, 2005 年； The Elusive Quest for Growth, William Easterly, The MIT Press, 2002 年； The End of Poverty, Jeffrey Sachs, Penguin Books, 2005 年； At the class, I will recommend concerned books on the subject if it was necessary.

**連絡先・オフィスアワー** E-mail： imazu@yamaguchi-u.ac.jp Room： Faculty of Economics C-Block 2nd Floor (C-218) Office Hours： Friday 1:30pm to 4:30pm



|      |                                      |    |      |     |        |
|------|--------------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Public Administration and Management | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                                      | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 土生 英里                                |    |      |     |        |

**授業の概要** The aim of this seminar is to continue deepening understanding of general feature of public administration.

**授業の一般目標** By taking this seminar, it is expected to understand the general feature of public administration including historical development of various concepts until arriving to the most recent development in this field

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** Understand the basic theories and concepts of Public Administration **思考・判断の観点:** To be able to do analysis concerning determined feature of the public administration.

**授業の計画 (全体)** 1st. week guidance 2nd. week to 14th. week seminar 15th. day report

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 guidance
- 第 2 回 項目 class work
- 第 3 回 項目 class work
- 第 4 回 項目 class work
- 第 5 回 項目 class work
- 第 6 回 項目 class work
- 第 7 回 項目 class work
- 第 8 回 項目 class work
- 第 9 回 項目 class work
- 第 10 回 項目 class work
- 第 11 回 項目 class work
- 第 12 回 項目 class work
- 第 13 回 項目 class work
- 第 14 回 項目 class work
- 第 15 回 項目 report

**成績評価方法 (総合)** Evaluation will be made emphasising on presence at the classroom, participation and report.

**教科書・参考書 教科書:** Printed materials will be given at ad hoc basis.

**連絡先・オフィスアワー** 研究室:経済学部 A 棟 4F ( A410 ) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp **オフィスアワー:** 平日随時

|      |                                       |    |      |     |        |
|------|---------------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Postwar Japanese Economy: An Overview | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                                       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 中村 保                                  |    |      |     |        |

**授業の概要** The first aim of this course is to acquaint students the nature and causes of the postwar economic development, which is sometimes referred to a “ miracle, ” and of the recent serious slump, which is now called a “ lost decade, ” in Japan. This course will also discuss the problems the Japanese economy faces now and the possible solutions for them. / 検索キーワード Economic Growth and Developments in Japan, IS-LM Model, Business Cycles in Japan, Economic Policies

**授業の一般目標** The goals of this course are threefold. 1) Understanding the nature and causes of the development and growth of the postwar Japanese economy, 2) Applying the intermediate macroeconomic theories to analyze the Japanese economy, 3) Evaluating the costs and benefits of the actual Japanese macroeconomic and industrial policies.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 1) Basic knowledges about the prewar and postwar developments of the Japanese economy. 2) Industrial, economic and international trade structures about Japan 3) Actual monetary, fiscal and industrial policies by Japanese government 4) Several hypotheses to explain “unique” economic characteristics in Japan **思考・判断の観点:** 1) Applying the intermediate macroeconomic theories to understand the actual development of Japanese economy 2) Evaluating the costs and benefits of economic policies in long-run as well as in short-run

**授業の計画 (全体)** First, the course will overview the growth and developments of postwar Japanese economy paying a little attention to prewar Japanese economy. Second, several important topics will be discussed, which includes International Trade and International Finance, Public Finance and Fiscal Policies, Financial Markets and Monetary Policy. Finally, if time permits, the course will also discuss the problems for current Japanese economy.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 Economic Growth and Business Cycles 1
- 第 3 回 項目 Economic Growth and Business Cycles 2
- 第 4 回 項目 Economic Growth and Business Cycles 3
- 第 5 回 項目 Bubble Economy
- 第 6 回 項目 Financial Crisis and Bad Loan Problems
- 第 7 回 項目 International Finance
- 第 8 回 項目 International Trade
- 第 9 回 項目 Public Finance
- 第 10 回 項目 Fiscal Policies
- 第 11 回 項目 Financial Markets
- 第 12 回 項目 Monetary Policy
- 第 13 回 項目 Labor Market
- 第 14 回 項目 Social Security System
- 第 15 回 項目 Final Exam

**成績評価方法 (総合)** Two homework assignments 40 % (20 % each) Final exam 60 %

**教科書・参考書** 教科書: Instead of using a particular textbook, the lecture notes, which show the essences of the topics, will be distributed. / 参考書: The Japanese Economy, 2nd Edition, David Flath, Oxford University Press, 2005 年

**メッセージ** Hopefully, you will learn a lot from the Japanese experiences. Get involved in class and study together!

**連絡先・オフィスアワー** Email: nakamura@econ.kobe-u.ac.jp Office hours: Right after class or by email appointment

|      |                  |    |      |     |        |
|------|------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Academic Writing | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                  | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | Timothy Takemoto |    |      |     |        |

**授業の概要** This course is to provide participants with experience of writing papers in English. As subject matter for the class we will consider and discuss defining characteristics and differences between European and Japanese culture. Participants will also be encouraged to present and write about their own research. / 検索キーワード Style, Grammar, Corrections, Presentation, Precis, Japanese Culture

**授業の一般目標** 1) To know the rules regarding the style of academic presentations. 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 1) To know the rules regarding the style of academic presentations.

**技能・表現の観点:** 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

**授業の計画 (全体)** 1) Lexical and Grammatical Register Students will be encouraged to become aware of the differences between formal (academic) and informal (conversational) vocabulary and grammar. Emphasis will be placed in raising students' awareness of the register of the lexicon and grammatical structures used in academic writing. 2) Academic Grammatical Constructions Students will be introduced and trained in the use of typical academic grammatical forms, in particular: the passive voice, compound sentences, and structures for making hypotheses, asserting conclusions and refuting arguments. 3) Abstracts and Pr & eacute;cis The methods and rules for producing pr & eacute;cis and abstracts of ones own and others work will be taught with emphasis placed on developing students' ability to condense, paraphrase and synopsisise work in their own research field. 4) Structure and Organisation The structure and organisation of academic presentations, journal papers will be introduced with reference to cultural norms and international standards. Students will be required to present their own research in a format applicable for presentation and publication according to recognised academic structural norms. 4) Plagiarism, References and Citation Students will be advised as to the rules concerning the use, and abuse, of references to other academic works, including standards for citation, references and bibliographies. Students will also be guided in the use of search techniques and databases for the retrieval of pertinent bibliographic material. 5) Correction and Amendment Standards and techniques for the correction and amendment of academic texts will be introduced via reciprocal feedback and mock ' peer review '. Students will be required to present their own research and to provide constructive comment on the work of others. 6) Formal Presentation Students will be required to give a formal presentation to their peers and to a wider public via the World Wide Web. The use of information processing technology, such as Microsoft PowerPoint will be discussed.

**成績評価方法 (総合)** Participants will be evaluated by reference to participation in class and frequent written submissions and a final presentation.

**メッセージ** Please bear in mind that you will be required to submit your writing weekly via email.

**連絡先・オフィスアワー** mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp homepage: <http://www.nihonbunka.com>

|      |            |    |      |     |        |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Seminar IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |            | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 仲間瑞樹       |    |      |     |        |

**授業の概要** Students who attend this Seminar present his or her research area every class. After presenting, we take time to question and discuss.

**授業の一般目標** To explain what you want to research in Master dissertation.

**成績評価方法 (総合)** I check the presentation in each class.

**連絡先・オフィスアワー** If you have any question, please send E-mail to me. nakama73@yamaguchi-u.ac.jp

|      |            |    |      |     |        |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Seminar IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |            | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 土生 英里      |    |      |     |        |

**授業の概要** The aim of this seminar is to understand the general feature of public administration.

**授業の一般目標** By taking this seminar, it is expected to understand the general feature of public administration including historical development of various concepts until arriving to the most recent development in this field

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** Understand the basic theories and concepts of Public Administration  
**思考・判断の観点:** To be able to do analysis concerning basic feature of the public administration.

**授業の計画 (全体)** 1st. week guidance 2nd. week to 14th. week seminar 15th. day report

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 guidance
- 第 2 回 項目 seminar
- 第 3 回 項目 seminar
- 第 4 回 項目 seminar
- 第 5 回 項目 seminar
- 第 6 回 項目 seminar
- 第 7 回 項目 seminar
- 第 8 回 項目 seminar
- 第 9 回 項目 seminar
- 第 10 回 項目 seminar
- 第 11 回 項目 seminar
- 第 12 回 項目 seminar
- 第 13 回 項目 seminar
- 第 14 回 項目 seminar
- 第 15 回 項目 report

**成績評価方法 (総合)** Evaluation will be made emphasising on presence at the classroom, participation and report.

**教科書・参考書 教科書:** Printed materials will be given at ad hoc basis.

**連絡先・オフィスアワー** 研究室:経済学部 A 棟 4F ( A410 ) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 平日随時

|      |                                 |    |      |     |        |
|------|---------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Seminar IIA(Thesis Instruction) | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                                 | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 仲間瑞樹                            |    |      |     |        |

授業の概要 Students who attend this class explain his or her Master dissertation every class.

授業の一般目標 To explain what you analyse in your Master dissertation.

連絡先・オフィスアワー If you have any question, please send E-mail. [nakama73@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:nakama73@yamaguchi-u.ac.jp)

|      |                                 |    |      |     |        |
|------|---------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Seminar IIA(Thesis Instruction) | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                                 | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 土生 英里                           |    |      |     |        |

**授業の概要** The aim of this seminar is to continue deepening understanding of general feature of public administration based on studies performed at Seminar IA and IB.

**授業の一般目標** By taking this seminar, it is expected to understand the general feature of public administration including historical development of various concepts and be able to reflect those insights into thesis elaboration

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** Understand the advanced theories and concepts of Public Administration **思考・判断の観点:** To be able to do analysis concerning determined feature of the public administration and come up with tangible results which is completion of each thesis.

**授業の計画 (全体)** 1st. week guidance 2nd. week to 14th. week seminar 15th. day report

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 guidance
- 第 2 回 項目 seminar
- 第 3 回 項目 seminar
- 第 4 回 項目 seminar
- 第 5 回 項目 seminar
- 第 6 回 項目 seminar
- 第 7 回 項目 seminar
- 第 8 回 項目 seminar
- 第 9 回 項目 seminar
- 第 10 回 項目 seminar
- 第 11 回 項目 seminar
- 第 12 回 項目 seminar
- 第 13 回 項目 seminar
- 第 14 回 項目 seminar
- 第 15 回 項目 report

**成績評価方法 (総合)** Evaluation will be made emphasising on presence at the classroom, participation and report.

**教科書・参考書** 教科書: Printed materials will be given at ad hoc basis.

**連絡先・オフィスアワー** 研究室:経済学部 A 棟 4F( A410 ) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp office hour: whenever possible



|      |                                 |    |      |     |        |
|------|---------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Seminar IIB(Thesis Instruction) | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                                 | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 馬田哲次                            |    |      |     |        |

授業の概要 We discuss the topic of the thesis.

授業の一般目標 1. To get a deep understanding on the topic of the thesis. 2. To learn how to write the thesis.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To explain the method and the concept of the topic of the thesis.

技能・表現の観点: To make clear the question, the answer and the proof of the thesis.

授業の計画(全体) We discuss the topics of the thesis.

成績評価方法(総合) Students have to attend the class and make presentations.

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

|      |                                 |    |      |     |        |
|------|---------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Seminar IIB(Thesis Instruction) | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                                 | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 尹春志                             |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文作成のための議論と作法について学ぶ。

授業の一般目標 修士論文を作成する。

授業の計画(全体) 毎回修士論文のテーマに則した報告を行い、議論する。

成績評価方法(総合) 報告の内容。

|      |                                 |    |      |     |        |
|------|---------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | Seminar IIB(Thesis Instruction) | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                                 | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 松井範惇                            |    |      |     |        |

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 鍋山祥子   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の作成に関する指導をおこなう。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

成績評価方法 (総合) 修士論文の作成過程を総合的に評価する。

# 企業経営専攻

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 企業管理組織の理論研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 長谷川光圀       |    |      |     |        |

授業の概要 この講義は、修士課程の学生を対象にし、企業管理組織の理論的發展を詳細に分析するものである。

それは、経営学関係の修士論文を作成する上で、必ず知っておかなければならない重要研究論文を、多数取り上げている。/ 検索キーワード 戦略、管理組織、状況、硬直的管理組織、弾力的管理組織

授業の一般目標 企業組織の重要理論について、正しい理解を修得させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門知識の正しい理解と活用、 思考・判断の観点：論理性、展開力

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業管理組織の意義
- 第 2 回 項目 古典的組織論（ウエバー）
- 第 3 回 項目 古典的組織論（ファイヨル）
- 第 4 回 項目 その他の管理組織論
- 第 5 回 項目 バーナードの近代的管理組織論
- 第 6 回 項目 バーナードの近代的管理組織論
- 第 7 回 項目 サイモンの管理組織論
- 第 8 回 項目 マーチとサイモンの管理組織論
- 第 9 回 項目 コンテインゼンシー理論
- 第 10 回 項目 コンテインゼンジー理論
- 第 11 回 項目 個別事例研究：戦略と組織
- 第 12 回 項目 個別事例研究：戦略と組織
- 第 13 回 項目 情報革命と組織：企業内ネットワーク
- 第 14 回 項目 情報革命と組織：企業間ネットワーク
- 第 15 回 項目 その他

教科書・参考書 教科書：占部都美, 近代管理論の展開,

メッセージ この講義は、出席を重視し、発言を評価し、新しい問題の提案を歓迎する。

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代企業組織の事例研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 長谷川光圀       |    |      |     |        |

授業の概要 企業管理組織の理論研究を踏まえて、この授業では、個別ケースと取上げる。 / 検索キーワード 経営組織の問題を扱うので、政治経済の議論は、期待できない。

授業の一般目標 個別の事例研究で、理論を越えた微妙なタイミング、交渉、駆け引き当が見えて来る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経営組織の基本的知識を前提にし、最近の経営組織問題について、理解を深める。 思考・判断の観点： 最近の戦略と組織問題について、思考し判断できる。

授業の計画（全体） 授業は、最近の欧米の経営管理の個別動向を紹介し、議論を求める。

米国企業の管理組織の動向

日本企業の管理組織の動向

中国への日本企業の進出

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 組織の再編 内容 事業部制の問題
- 第 2 回 項目 組織の再編 内容 事業部制の問題
- 第 3 回 項目 組織の再編 内容 職能別組織の問題
- 第 4 回 項目 組織の再編 内容 職能別組織の問題
- 第 5 回 項目 分社制組織
- 第 6 回 項目 分社制組織
- 第 7 回 項目 ナレッジ管理
- 第 8 回 項目 ナレッジ管理
- 第 9 回 項目 ネットワーク組織
- 第 10 回 項目 ネットワーク組織
- 第 11 回 項目 ネットワーク組織
- 第 12 回 項目 組織文化と開発
- 第 13 回 項目 組織文化と開発
- 第 14 回 項目 組織開発の方法
- 第 15 回 項目 組織開発の方法

メッセージ 授業は出席し、自分の考えるところを、述べる。

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 会計政策論研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 松浦良行    |    |      |     |        |

授業の概要 近年の会計基準の変更により、我が国の会計制度も国際会計基準にますます接近してきました。国際会計基準への接近は、情報利用者にとってどのような意義があるのかについては、海外（とりわけヨーロッパ）で多くの実証研究が行われています。本講義では、これらの研究蓄積を読んでいきます。 / 検索キーワード 国際会計基準、時価評価、回帰分析

授業の一般目標 国際的な会計基準統一の実態的な意義を理解します。また、代表的な実証分析のスタイルを理解します。

授業の計画（全体） おおよそ2週間に一本の割合で代表的な研究を読破し、また可能であればそれに関連した我が国企業に関する分析を行っていきます。

成績評価方法（総合） 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等はいりません。

教科書・参考書 教科書：受講生と相談の上、追って指示します。

メッセージ 検討していく論文は、日本語と英語のものが半々くらいになる予定ですが、皆さんの興味や理解度に応じて進度とあわせ柔軟に調整していくつもりです。ただし、それなりに英語文献を読める能力が必要です。

連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp(私は原則的に週一回しか吉田キャンパスに来ません。履修を希望される方は、事前に左記のアドレスまでメールして下さい。)



|      |                |    |      |     |        |
|------|----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 資本市場の財務情報の役割研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 松浦良行           |    |      |     |        |

授業の概要 近年、無形固定資産の株価説明力が注目されてきています。この講義では、下の教科書欄に示す本を中心として、研究開発活動と株価の関係を理解していきます。 / 検索キーワード 財務報告、R & D、資本市場

授業の一般目標 受講生の皆さんが、研究開発の経済的価値計算の基本フォーマットを把握し、その管理方法を含めた管理技法に関心を持てるようになれば、と思っています。

授業の計画（全体） 技術評価の方法の基本フォーマットを把握し、表計算ソフトを利用して実際に研究開発の財務的管理の概要を理解していきます。

成績評価方法（総合） 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等はありません。

教科書・参考書 教科書：技術経営と価値評価, P. ボイヤー, 日本経済新聞社, 2004 年

メッセージ 私は通常常盤キャンパスにあり、原則週に一回しか吉田キャンパスには来ません。履修を希望される方は、事前に下記のアドレスまでご連絡下さい。

連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp

|      |            |    |      |     |        |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 情報の蓄積と検索研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |            | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 橋本寛        |    |      |     |        |

授業の概要 情報管理の中で中心的位置をしめる情報検索 (Information Retrieval)、すなわち情報の蓄積と検索について、数学的モデルを構築し基礎的考察を行う。

授業の一般目標 情報検索の数学的モデルを構築し、その性質を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：情報検索の主要な概念を理解する。 思考・判断の観点：検索の効率等について議論できる。 技能・表現の観点：検索モデルの数学的操作に慣れる。

授業の計画 (全体) まず、必要な数学的準備をして、検索モデルを構築し、そのモデルの性質などについて議論する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報検索の概要
- 第 2 回 項目 情報検索の分類
- 第 3 回 項目 情報検索システム
- 第 4 回 項目 情報検索の数学的モデル
- 第 5 回 項目 数学的準備
- 第 6 回 項目 集合算の基本的性質
- 第 7 回 項目 検索式
- 第 8 回 項目 ブール代数
- 第 9 回 項目 ブールベクトル
- 第 10 回 項目 ブールベクトルによる集合の表現
- 第 11 回 項目 ブール行列の応用
- 第 12 回 項目 文献対キーワード行列
- 第 13 回 項目 検索質問式
- 第 14 回 項目 検索質問式の性質
- 第 15 回 項目 補足

成績評価方法 (総合) 出席およびレポートによる。

教科書・参考書 教科書：使用しない。

メッセージ 集合や論理について基礎的な知識があれば都合がよい。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

|      |                 |    |      |     |        |
|------|-----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 金融システムとファイナンス研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                 | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 兵藤隆             |    |      |     |        |

授業の概要 この講義では、金融工学(ファイナンス)理論や情報の経済学など、よりアドバンスト(発展的)な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。/検索キーワード 金融工学 ファイナンス 投資決定理論

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
- 第 3 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
- 第 4 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 5 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 6 回 項目 平均・分散アプローチ 1
- 第 7 回 項目 平均・分散アプローチ 2
- 第 8 回 項目 CAPM 理論 1
- 第 9 回 項目 CAPM 理論 2
- 第 10 回 項目 APT(価格裁定理論)
- 第 11 回 項目 行動ファイナンス理論
- 第 12 回 項目 デリバティブの概要
- 第 13 回 項目 オプション価格決定理論 1
- 第 14 回 項目 オプション価格決定理論 2
- 第 15 回 項目 予備

メッセージ 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 金融経済と貨幣理論研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 兵藤隆         |    |      |     |        |

授業の概要 この講義では、基礎的な金融経済理論および貨幣理論の考察を通じて、今後のわが国の金融システムがどのように変化すべきなのかを理論的・実証的に検証していくことを目的とする。 / 検索キーワード 金融理論、貨幣理論、マネー、Money、金融機関、金融制度、金融システム

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融の歴史：明治期から戦後復興期まで
- 第 3 回 項目 高度成長期の金融システム
- 第 4 回 項目 金融自由化
- 第 5 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (1)
- 第 6 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (2)
- 第 7 回 項目 公的金融と財政投融资制度
- 第 8 回 項目 公的金融と郵便貯金
- 第 9 回 項目 金融の現状
- 第 10 回 項目 貨幣の役割：貨幣理論の基礎
- 第 11 回 項目 貨幣需要
- 第 12 回 項目 利率の期間構造
- 第 13 回 項目 金融仲介機関と情報の非対称性
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

|      |              |    |      |     |        |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 高齢化社会の経済学的研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 植村高久         |    |      |     |        |

授業の概要 日本における高齢化の進展から生じる経済的問題を総合的多面的に考察する。

授業の一般目標 少子高齢化が及ぼす経済的效果について、様々な影響の回路を理解して、包括的・総合的に判断できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の少子高齢化の状況と見通し、その原因について概略説明できる。 思考・判断の観点：少子高齢化の作用について、推論できる。

授業の計画（全体） 資料を講読して、高齢化の作用を解説する。

成績評価方法（総合） 主に演習への参加度によって評価するが、最終レポートを補助的に利用する。

教科書・参考書 教科書：授業時にプリントを配布する。

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本経済史研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 木部和昭     |    |      |     |        |

授業の概要 テーマ：明治期の山口県経済 明治時代の日本は、資本主義化や産業革命が進行した時代といわれる。しかし、その全てが日本の全域で均質的に進行していたわけではない。「地方」における資本主義経済の発達や産業革命はどのような状況にあったのか。この授業では、山口県地域に焦点をあて、地方における経済社会の実情について、当時の史料を用いて分析してみたい。 / 検索キーワード 日本経済史、日本近代史、産業革命

授業の一般目標 ・山口県における資本主義経済の浸透状況、産業化の具体相を、全国的動向と比較しながら理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。 ・明治期の史料を通じて歴史を分析する能力を養う。

授業の計画(全体) 『山口県史・史料編 近代4』(明治期の産業・経済編)に掲載された諸史料の講読を行う。具体的には、割り当てられた項目の史料をもとに、受講者に報告を行ってもらいながら、授業を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス(授業の進め方)
- 第 2 回 項目 山口県の経済概況と勸業政策
- 第 3 回 項目 山口県の水産業(水産業振興)
- 第 4 回 項目 山口県の水産業(下関とトロール漁業)
- 第 5 回 項目 山口県の近代捕鯨業
- 第 6 回 項目 山口県の塩業
- 第 7 回 項目 山口県の鉱業(石炭)
- 第 8 回 項目 山口県の在来産業
- 第 9 回 項目 山口県における近代工業(小野田セメント)
- 第 10 回 項目 山口県における近代工業(日本舎密製造)
- 第 11 回 項目 山口県における近代工業(その他諸工業)
- 第 12 回 項目 山口県の金融業
- 第 13 回 項目 産業経済基盤の整備(道路・鉄道)
- 第 14 回 項目 産業経済基盤の整備(港湾・電気等)
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 課題の報告(45%)およびレポート(30%)による。この他、授業への取組み(15%)、出席(10%)。

教科書・参考書 教科書：山口県史・史料編 近代4, 山口県編, 山口県, 2003年; テキストは適宜プリントして配布する。 / 参考書：必要な参考文献は、講義の中で適宜紹介する。

メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西欧文化の研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 鴨川 啓信     |    |      |     |        |

授業の概要 批評家 Edward Said の代表的著書 ”Orientalism” を原書 (英語) で読んでいく。Said の言う「オリエンタリズム」の概念を理解することで、西洋文化の ( 隠された ) 一面を見ていく。また、オリエンタリズムの対象となる東洋に住む者としての自分についても、批評的意識を向けるようになることを目指す。

授業の一般目標 西洋文化への理解を深める。英語読解力の向上。

授業の計画 ( 全体 ) ”Orientalism” 全体を読むことは不可能であるので、Said の思想がよく表れていると思われる章 / 箇所を取り上げて精読していく。受講者には、十分な予習をしていくことが要求される。

成績評価方法 ( 総合 ) 毎回の授業参加度 + 期末課題

教科書・参考書 教科書： Orientalism, Edward Said, Vintage Books, 1979 年； 授業で取り上げる箇所は、プリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西欧文化の研究 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 鴨川 啓信     |    |      |     |        |

授業の概要 批評家 Edward Said の後期の著作を読んでいく。特に雑誌等に発表された、現在の世界情勢に関する記事を原文(英語)で読んでいくことで、そこで扱われている事態への理解を深めると共に、その背景に潜む文化的考え方を考察する。

授業の一般目標 西洋文化や世界のあり方への理解を深める。英語読解力の向上。

授業の計画(全体) Said の雑誌記事を毎回 1 つ取り上げ精読していく。受講者には、十分な予習をしていくことが要求される。

成績評価方法(総合) 毎回の授業参加度 + 期末課題

教科書・参考書 教科書: 教材はプリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207



|      |                |    |      |     |        |
|------|----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 環境変化と管理会計の課題研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 藤田 智丈          |    |      |     |        |

授業の概要 管理会計の伝統的な理解では、経営は、経営陣が担う戦略策定、管理職が担うマネジメント・コントロール、現場が担うオペレーション・コントロールと、階層に分けられてきました。その中で管理会計が主に担うのはマネジメント・コントロールであり、戦略についてはそれを所与として受け入れるだけでした。しかし、90年代頃から戦略の重要性が高まるにつれ、管理会計の役割も従来の戦略を所与とした考え方ではなく、戦略と密接に繋がり一体化したマネジメントとして捉え直されるようになりました。そこで、この授業では、バランスト・スコアカードと呼ばれる戦略的管理会計手法を中心として、現代的管理会計が直面する課題について検討します。

授業の一般目標 B S C ( バランスト・スコアカード ) の考え方を身につけ、戦略をマネジメント ( 戦術 ) へと落とし込むことや、財務パフォーマンス向上に繋がる財務指標と非財務指標の関連を考えることができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：管理会計の知識、および関連する戦略論の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点：抽象的な理論を覚えるのではなく、実際のビジネスでどのように用いられているのか、どのような意義があるのかということを考え、使える知識に発展させる。 関心・意欲の観点：使える知識を身につけることで、ビジネスに対する興味を深める。

授業の計画 ( 全体 ) B S C に関する文献を中心に、現代の戦略的マネジメント・コントロールに関して議論する。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 受講生の希望も考慮し、授業内容を決定
- 第 2 回 項目 経営学基礎 1 内容 管理会計の前提となる経営学
- 第 3 回 項目 経営学基礎 2 内容 管理会計の前提となる経営学
- 第 4 回 項目 管理会計基礎 1 内容 管理会計の役割
- 第 5 回 項目 管理会計基礎 2 内容 管理会計の役割
- 第 6 回 項目 管理会計 1 内容 現代的管理会計が抱える問題点
- 第 7 回 項目 管理会計 2 内容 戦略的管理会計
- 第 8 回 項目 管理会計 3 内容 戦略的管理会計
- 第 9 回 項目 B S C 1 内容 B S C の基礎
- 第 10 回 項目 B S C 2 内容 B S C の基礎
- 第 11 回 項目 B S C 3 内容 戦略マップ
- 第 12 回 項目 B S C 4 内容 B S C の事例
- 第 13 回 項目 B S C 5 内容 B S C の事例
- 第 14 回 項目 B S C 6 内容 B S C の事例
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法 ( 総合 ) 定期試験は行いません。授業での発表や議論、及び最終レポートで評価します。

教科書・参考書 教科書：初回の授業の際に決定します。 / 参考書：管理会計の基本的な考え方については、授業開始前に各自で学習しておくことが望ましい。浅田孝幸 他『管理会計・入門 新版 ( 有斐閣アルマ )』有斐閣、2005 年

|      |                      |    |      |     |        |
|------|----------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 戦略的コスト・マネジメントと管理会計研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                      | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 藤田 智丈                |    |      |     |        |

授業の概要 企業競争がますます激化する中で、勝ち組・負け組といった差がはっきりと現れ始めています。このような差が生まれる原因の一つに、戦略の策定と遂行の問題があります。戦略とは、組織の長期的目標に到達するためのビジョンであり行動計画でなければなりません。近年になり管理会計でも戦略性を伴うことが重要な課題となっています。そこで、この授業では戦略的管理会計、具体的には原価企画や ABC/ABM、ライフサイクルコストイングといった課題について検討します。

授業の一般目標 戦略を理解し、戦略的マネジメントを理解する。また、有効なコストマネジメントを検討する考え方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 伝統的な管理会計が持つ問題点を理解し、それを克服するための多様な手法を理解する。 思考・判断の観点： 抽象的な理論を覚えるのではなく、実際のビジネスでどのように用いられているのか、どのような意義があるのかということを考え、使える知識に発展させる。 関心・意欲の観点： 使える知識を身につけることで、ビジネスに対する興味を深める。

授業の計画（全体） まず、戦略とは何か、戦略的経営とは何かということについて学習します。そのうえで、戦略を実現するための様々な管理会計手法について詳しく学習します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 受講生の希望も考慮し、授業内容を決定
- 第 2 回 項目 戦略論基礎 1 内容 管理会計に関連する戦略論
- 第 3 回 項目 戦略論基礎 2 内容 管理会計に関連する戦略論
- 第 4 回 項目 戦略論基礎 3 内容 管理会計に関連する戦略論
- 第 5 回 項目 管理会計 1 内容 現代の管理会計が抱える問題点
- 第 6 回 項目 管理会計 2 内容 現代の管理会計が抱える問題点
- 第 7 回 項目 戦略的管理会計 1 内容 戦略的コストマネジメントとは何か
- 第 8 回 項目 戦略的管理会計 2 内容 ABC/ABM
- 第 9 回 項目 戦略的管理会計 3 内容 ABC/ABM
- 第 10 回 項目 戦略的管理会計 4 内容 ABC/ABM
- 第 11 回 項目 戦略的管理会計 5 内容 原価企画
- 第 12 回 項目 戦略的管理会計 6 内容 原価企画
- 第 13 回 項目 戦略的管理会計 7 内容 原価企画
- 第 14 回 項目 戦略的管理会計 8 内容 LCC
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験は行いません。授業での発表や議論、及び最終レポートで評価します。

教科書・参考書 教科書： 初回の授業の際に決定します。 / 参考書： 管理会計の基本的な考え方については、授業開始前に各自で学習しておくことが望ましい。浅田孝幸 他『管理会計・入門 新版（有斐閣アルマ）』有斐閣、2005 年

|      |                |    |      |     |        |
|------|----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 企業環境の変化と原価計算研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 中田範夫           |    |      |     |        |

授業の概要 企業の環境変化とともに伝統的原価計算技法は不適切になりつつあると言われている。製造業では大量生産を開始以降のコスト・マネジメントに対してその限界を感じている。これに対して、大量生産を開始する前の段階、すなわち、企画・設計・初期流動段階における原価管理に重点が置かれ出している。この段階におけるコスト・マネジメントを原価企画と呼んでいる。この原価企画について研究する。

授業の一般目標 コスト・マネジメントには狭義から広義までの意味が存在する。最広義のコスト・マネジメントの中心として原価企画が重要である。この原価企画のヒ素を勉強する。

授業の計画（全体） テキストを学生と一緒に読んでいく形で授業を進めたい。

成績評価方法（総合） 授業での態度や授業への参加度を評価の基準とする。

教科書・参考書 教科書：後日相談して決めたい。

連絡先・オフィスアワー 電話：933-5556（研究室）

|      |                       |    |      |     |        |
|------|-----------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 非物的経済財の資産化と原価計算<br>研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 中田範夫                  |    |      |     |        |

授業の概要 ソフトウェアは非物的経済財の典型である。財務会計においては近年ソフトウェアに関する取り扱いが変更されてきた。本講義では、管理会計の立場からソフトウェアの取り扱いについて研究する。

授業の一般目標 ソフトウェアといっても様々なバリエーションがある。大きくは販売用ソフトウェアと自社内利用ソフトウェアである。また、ソフトウェアを生み出す企業にも種類があるし、さらにソフトウェアが利用される企業環境にも違いがある。上記のようなソフトウェアの価値はどのように決定されるべきかについて研究する。

授業の計画(全体) テキストを決め、それを順番に報告してもらう形で授業を進める。

成績評価方法(総合) 授業への出席と報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：未定

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 情報伝達と財務会計研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 山下訓         |    |      |     |        |

授業の概要 本来、会計は情報伝達機能を内在するものであるが、今日では伝達機能を重視して情報会計という言葉まである。本講義では情報伝達の観点から、利害調整等、会計の基本機能について学んでいく。

授業の一般目標 欧州の財務会計理論を学ぶ。

授業の計画(全体) Financial Accounting Theory, european edition を読んでいく。前期開講の意志決定と財務会計研究で学んだ米国会計と欧州会計との対比を行う。

成績評価方法(総合) 輪読の発表等参加によって評価する。

教科書・参考書 教科書：Financial Accounting Theory, European Edition, Craig Deegan, Jeffrey Unerman, McGraw-Hill, 2006 年 / 参考書：Accounting Theory, Conceptual Issues in a Political and Economic Environment, Sixth Edition, Harry I. Wolk, James L.Dodd, Michael G. Tearney, Thomson south-western, 2004 年

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して決める。

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 財務諸表の基礎研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 篠原淳       |    |      |     |        |

授業の概要 企業会計に関連する諸テーマの基礎を検討分析する / 検索キーワード 会計基準 国際会計  
税法 商法

授業の一般目標 各テーマに関する報告やディスカッション能力の向上

授業の計画(全体) 参加者の関心あるテーマをもとに各自の論理的思考や報告能力の向上を図る

成績評価方法(総合) 各テーマに関し、積極的な取り組みと議論の質等を総合的に判断する

教科書・参考書 教科書：基本会計学, 吉田寛, 税務経理協会, 2002 年 ; 国際財務会計論, 氏原茂樹, 税務  
経理協会, 2005 年 ; 適宜指示する / 参考書：適宜指示する

メッセージ 取り扱うあらゆるテーマについて積極的に参加すること

連絡先・オフィスアワー 訪問される場合はメールでの事前連絡を。 a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 財務諸表の応用研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 篠原淳       |    |      |     |        |

授業の概要 企業会計に関連する諸テーマを検討分析する / 検索キーワード 会計基準 国際会計 税法 商法

授業の一般目標 各テーマに関する報告やディスカッション能力の向上

授業の計画(全体) 参加者の関心あるテーマをもとに各自の論理的思考や報告能力の向上を図る

成績評価方法(総合) 各テーマに関し、積極的な取り組みと議論の質等を総合的に判断する

教科書・参考書 教科書: 基本会計学, 吉田寛, 税務経理協会, 2002年; 国際財務会計論, 氏原茂樹, 税務経理協会, 2005年; 適宜指示する / 参考書: 適宜指示する

メッセージ 取り扱うあらゆるテーマについて積極的に参加すること

連絡先・オフィスアワー 訪問される場合はメールでの事前連絡を。 a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 税務会計研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 米谷 健司  |    |      |     |        |

授業の概要 税務会計の研究領域には主に3つのトピックが含まれます。1つは法人税法をベースにした課税所得の計算方法、いま1つは税引後利益（あるいは税引後キャッシュ・フロー）の最大化を目的としたタックス・プランニング（税務計画）、最後は会計利益と課税所得の差額の調整を目的とした税効果会計です。従来の税務会計研究は課税所得の計算規定に関する規範的あるいは解釈論的研究がほとんどでしたが、最近ではタックス・プランニングや税効果会計に関する実証的研究の重要性が高まっています。本講義では後者の実証的研究に焦点をあて、これまでに蓄積されてきた先行研究を読み進めるとともに、今後の税務会計研究の展望について議論します。/ 検索キーワード 企業価値、企業評価、実証研究、税金、財務分析

授業の一般目標 実証的研究を学習するうえで必要となる知識の習得をめざす。

授業の計画（全体） 代表的な論文を読み進めることで、サンプルの抽出方法、分析手法、分析結果の解釈など実証的会計研究のプロセスを理解する。2週間で1本の論文を読み進める予定であるが、学習状況に応じて判断する。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 本講義の内容など
- 第2回 項目 税務会計のフレームワーク (1) 内容 税務会計の範囲
- 第3回 項目 税務会計のフレームワーク (2) 内容 協議の税務会計（課税所得論）の限界点
- 第4回 項目 税務会計のフレームワーク (3) 内容 経営者の意思決定と税金の関係
- 第5回 項目 企業価値と税務戦略 (1) 内容 資本コストと税金の関係
- 第6回 項目 企業価値と税務戦略 (2) 内容 税金が資本構成に与える影響
- 第7回 項目 企業価値と税務戦略 (3) 内容 オールソンモデル
- 第8回 項目 財務報告コストと税務報告コスト (1) 内容 財務報告コストの種類
- 第9回 項目 財務報告コストと税務報告コスト (2) 内容 LIFO 研究
- 第10回 項目 財務報告コストと税務報告コスト (3) 内容 Book-Tax Difference 研究
- 第11回 項目 タックス・プランニング (1) 内容 税金と設備投資
- 第12回 項目 タックス・プランニング (2) 内容 Implicit Tax, Clienteles, Arbitrage
- 第13回 項目 タックス・プランニング (3) 内容 法的組織形態の選択
- 第14回 項目 財務諸表分析と限界税率 (1) 内容 限界税率の計算
- 第15回 項目 財務諸表分析と限界税率 (2) 内容 限界税率の産業分析

成績評価方法（総合） 試験は行いません。授業の取り組み姿勢や貢献度、レポートなどから総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書はとくに指定しません。/ 参考書：講義中に適宜、紹介します。

メッセージ 企業評価や実証研究に興味のある方は是非受講してください。



|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 企業評価分析研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 米谷 健司    |    |      |     |        |

授業の概要 企業価値を分析する上で必要となる概念や多角的な視点そして技法を習得し、実際にそれらを利用して企業評価を行う。また企業評価に関する代表的な実証論文を読むことで、企業評価研究が抱える課題を理解し、会計的視点からどのような貢献ができるのかを議論する。 / 検索キーワード 企業価値、企業評価、実証研究、財務分析

授業の一般目標 本講義では、アカウンティング、ファイナンス、マネジメントの3領域を融合した次のようなトピックを理解・議論する。(1) 経営戦略とファンダメンタル分析、(2) キャッシュフローと会計政策、(3) 会計情報と市場の効率性、(4) 資本構成と企業価値、(5) 配当政策と企業価値など。

授業の計画(全体) 企業評価に関する基本的なフレームワークを理解するために、ケースを利用して学習する。ケースについては、こちらで用意する。その後、特定の企業価値を実際に評価し、評価モデルの設定や将来予測の仮定に関する妥当性を議論する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 本講義の内容の説明
- 第 2 回 項目 企業評価分析のフレームワーク 内容 アカウンティング、マネジメント、ファイナンスの3つの視点について
- 第 3 回 項目 財務諸表分析 (1) 内容 財務比率の計算(クロスセクショナル分析への対応)
- 第 4 回 項目 財務諸表分析 (2) 内容 財務比率の計算(時系列分析への対応)
- 第 5 回 項目 財務諸表分析 (3) 内容 実際のケース分析
- 第 6 回 項目 企業価値 (1) 内容 オールソンモデル、DCF モデル、マルチプル
- 第 7 回 項目 企業価値 (2) 内容 企業価値と資本コスト
- 第 8 回 項目 企業価値 (3) 内容 企業価値と資本構成
- 第 9 回 項目 将来予測 (1) 内容 オールソンモデルによる評価方法と問題点
- 第 10 回 項目 将来予測 (2) 内容 DCF モデルによる評価方法と問題点
- 第 11 回 項目 将来予測 (3) 内容 マルチプルによる評価方法と問題点
- 第 12 回 項目 会計政策研究 (1) 内容 アクルーアルズ研究と企業価値
- 第 13 回 項目 会計政策研究 (2) 内容 保守主義と企業価値
- 第 14 回 項目 資本市場分析 (1) 内容 市場の効率性
- 第 15 回 項目 資本市場分析 (2) 内容 会計情報と資本市場

成績評価方法(総合) 試験は行いません。授業の取り組み姿勢や貢献度、レポートなどから総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書はとくに指定しない。 / 参考書：講義中に適宜、紹介する。

メッセージ 実証研究および企業分析に興味のある方は是非受講してください。

|      |            |    |      |     |        |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 経営数理システム研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |            | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 渋谷綾子       |    |      |     |        |

**授業の概要** "システム"の分析においては、システムを入出力モデルや目的追求モデルとしてとらえることが多い。このようなとらえ方はシステムズアプローチとして主に工学的分野で成果をみたが、本講義では、社会科学分野でのシステムズアプローチの適用の可能性を探る。

**授業の一般目標** ビジネスゲームを通して経営問題の数的考察の経験をつむ。そのことによって、経営全般を一つのシステムとして把握したうえで意思決定ができる経営者としての素養を養う。(ビジネスゲームに参加する場合) または(ビジネスゲームに参加しない場合)、研究対象を"組織"と仮定し、組織に関わる諸現象を数理的にとらえることを目標とする。たとえば、組織を入出力システムとみなしたときの、組織内システムの作用と外部(環境)との関係に注目し、組織の環境変化に対する指標として、たとえばアシュビーの「最小多様度の法則」等を理解する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 価格、売上高、費用、在庫、仕入、広告効果、投資効果等を、それらの相互関係を把握した上で分析できる知識と理解力。組織内で発生する様々な現象が全体にどのように影響を与えるかを分析できる知識。組織外の要因を、組織が制御可能なものと制御できないものに分け、特に制御できない要因(環境)への組織の対応に関する知識。  
**思考・判断の観点:** ある現象が影響を及ぼす範囲と程度について正しい思考と判断ができることを目指す。  
**関心・意欲の観点:** ビジネスゲームに参加する場合はラウンドごとの締切に合わせて意思決定をしなければならない。ルールに従ってゲームを進めていくには強い意志と積極性が不可欠である。文章で提示された問題から数的モデルを作り出すことに関心があれば、難しい授業ではありません。しかし、例えば、利益を最大にするには、現在提示されている数値をどのように組み合わせるべきか、というようなことを考えるのがつらいと感じるのであれば、受講しても得るものはありません。  
**態度の観点:** 履修手続きをしたあとで、自分にはこの授業は必要ないと感じた場合、単位をあきらめて受講を放棄するか、最後まで頑張るか、本人の意志を尊重しますが、緊張感のない態度で出席を続けることは、他の受講者へ悪影響を与えるので、避けてください。礼儀正しい態度での受講を切に願います。  
**技能・表現の観点:** 積極的に思考し、発表し、議論する態度と、そのための学習、思考、準備を確実に実行できることが望ましい。  
**その他の観点:** ビジネスゲームに参加するとチームでの意思決定を行うこととなります。チーム内のメンバーとどのように人間関係を築いていくか、ということもゲームの戦力に影響を与えます。

**授業の計画(全体)** ビジネスゲームに参加するか、または、ウィーナーのサイバネティクス、サイモンの組織論、アシュビーの研究などを概観し、組織へのシステムズアプローチの試みとして2004年以降に提案されたモデル(Organizational cybernetics theory 等)の発展方向を探る。

**成績評価方法(総合)** 授業時間内の活発さは、授業時間外の各自が自主的に行う学習が反映される。議論への参加、貢献度に重点を置き、総合的に評価する。

**教科書・参考書** 参考書: ・AN INTRODUCTION TO CYBERNETICS、W.ROSS ASHBY、JOHN WILEY & SONS、1956・サイバネティクス第2版、ノーバート=ウィーナー、岩波書店、1962・システムの科学第3版、ハーバート・A・サイモン、パーソナルメディア、1999・Applied General Systems Research on Organizations、S.Takahashi 他、Springer、2004

**連絡先・オフィスアワー** shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業時間中にお知らせします。

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 経営数理計画研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 渋谷綾子     |    |      |     |        |

授業の概要 制約条件と目的関数とで記述される数理計画問題のうち、特に線形計画問題について学習する。線形計画問題の解法そのものは比較的理解しやすいものなので、この講義では問題を定式化するまでの過程に重点を置く。/ 検索キーワード 数理計画法 ( mathematical programming ) 線形計画法 ( linear programming ) シナリオ法、分割解法、確率ネットワーク

授業の一般目標 アセット・アロケーションや為替相場での取引計画の解法のひとつに、問題をネットワーク図で表現したのち、数理計画問題として定式化する手法がある。1987年にMulveyらによって提案された確率ネットワークを用いると、問題を線形計画問題に定式化して解くことができる。本講義では、資産配分問題を例として、将来の資産運用環境を表現した複数のシナリオを確率ネットワークで表現し、さらに、線形計画問題として定式化する方法について研究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：線形計画法に関する知識、シナリオ法の理解、分割解法の理解 英文で書かれたこの分野の論文を読みこなせること 思考・判断の観点：資産運用での資産の増減、取引による資産の移動、キャッシュフローの整合性などをネットワーク図にどのように反映させられるか、ロジックをグラフィカルに表現し、さらに定式化する柔軟な発想力を求める。 関心・意欲の観点：問題を数式で表現する意欲は絶対に必要です。数値、数値同士の関わりなどについて日ごろから興味を抱いていることが重要です。定式化する問題文は日本語の長文であることが多いので、日本語の読解力も必要です。一つの要因について、なるべく長時間考える習慣を身につけるとよいと思います。 態度の観点：考える糸口は、ある程度、自分の力で発見することになります(他人が - 教員であっても - 説明して理解させることは不可能です)。その糸口が、当初、みつからなかったとしても、短気をおこさず、礼儀正しい態度を保ってください。授業回数が進行してから「自分にこの授業は必要ない」と感じた場合は、受講を放棄してください。

授業の計画(全体) 数理計画法の概略、とくに線形計画法について理解したのち、資産配分問題に適用される例としてシナリオ法と確率ネットワークを用いたモデルを研究する。英文文献を読んで、英文によるモデルの説明に慣れる。また、実際に小規模なシナリオを作成して問題を解く経験をつむ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数理計画問題について
- 第 2 回 項目 線形計画問題について
- 第 3 回 項目 資産配分問題と数理計画法
- 第 4 回 項目 シナリオについて
- 第 5 回 項目 シナリオについて
- 第 6 回 項目 確率ネットワークについて
- 第 7 回 項目 定式化について
- 第 8 回 項目 定式化について
- 第 9 回 項目 解法について
- 第 10 回 項目 線形計画問題の応用
- 第 11 回 項目 線形計画問題の応用
- 第 12 回 項目 英文文献研究 (STOCHASTIC NETWORK OPTIMIZATION MODELS FOR INVESTMENT PLANNING 等)
- 第 13 回 項目 英文文献研究など
- 第 14 回 項目 英文文献研究など
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 内容の量に比して授業回数が少ないので、授業時間外にも学習時間を確保すること。授業時に、準備状況や理解度が表れるので、それらを総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: STOCHASTIC NETWORK OPTIMIZATION MODELS FOR INVESTMENT PLANNING, (John M. MULVEY and Hercules VLADIMIROU, 1989) 他、必要な文献は授業時間内に入手方法を含めて指示します。

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業中にお知らせします。

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 情報処理基礎研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 成富敬      |    |      |     |        |

授業の概要 経済や経営におけるさまざまな問題に科学的手法を用いて対処するための、情報処理の基礎的事項について考察する。

授業の一般目標 経済や経営におけるさまざまな問題に科学的手法を用いて対処するための、情報処理の基礎的事項について理解する。

授業の計画(全体) 1.問題 2.モデル 3.情報処理の手法 4.最近のトピック 5.その他,受講生の関心領域についての話題等

成績評価方法(総合) 出席,レポート,授業への参加度合い等をもとに総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: 資料を配布する。

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 国際メディア研究A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | マルク・レール   |    |      |     |        |

授業の概要 国際比較に基づいて新聞の歴史的発展、新聞市場の現状や将来性について理論的に分析。

授業の一般目標 媒体論的アプローチによって新聞の特質を分析する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：新聞の歴史的発展とメディア的構造を理解する。 思考・判断の観点：新聞の媒体としての役割について判断ができる。 関心・意欲の観点：新聞に包括的に関心を持つ。 態度の観点：自分の研究分野に新聞を活かす。 技能・表現の観点：専門的なレベルで新聞に関して議論ができる。

授業の計画（全体） 1. 欧米と日本の新聞の歴史的発展。 2. 欧米と日本の新聞市場の現状。 3. 新聞紙面とジャーナリズム。 4. ニュースとニュースデザイン。 5. 新聞の将来。

成績評価方法（総合） 授業の参加度（40％）+レポート（60％）

メッセージ 毎回の授業の具体的な内容は、受講者の関心と専門知識レベルを参考にして調整する。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代日本の労使関係研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 濱島清史        |    |      |     |        |

授業の概要 (注) これは労使関係の国際比較のシラバスである。(筆者：浜島に与えられた書式そのものが元々間違えていると思われる。) 比較研究をすることによって対象への認識は深まるものであり、何らかの比較のないところでは対象の位置づけ自体が定まらなくなってしまう。本講義では労使関係の国際比較を行なうことによって、各自の専門(関心)領域に幅をもたせてもらうことをねらいとする。先進国日本 途上国の三段階の労使関係論を体系的に構築していく魁とならんことを期待したい。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。昨年後期は、奥林康司他(2000)『現代労務管理の国際比較』ミネルヴァ書房. を輪読し、報告してもらった。/ 検索キーワード 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使関係、日本的雇用慣行

授業の一般目標 世界の主要国ならびにアジア代表国の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解し、他国と比較検討できること。

授業の計画(全体) ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)(2)から何部か選択して輪読していき、毎回参加者にレジメを作成して報告してもらう。ゼミの後半は、各自が関心を持つ国に関して調べてきて発表してもらいたい。ただし、これまで同様、基本文献と関連文献をいくつか輪読し、各自の自由課題で締め括るという方向になるかもしれない。

成績評価方法(総合) 成績評価方法(総合) レジメ発表と学期末レポート。成績評価方法(観点別) 講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。定期試験(中間・期末試験) 基本的に発表形式(レポート、レジメ、プレゼン)を採る。小テスト・授業内レポート 基本的に発表形式(レポート、レジメ、プレゼン)を採る。宿題・授業外レポート 基本的に発表形式(レポート、レジメ、プレゼン)を採る。授業態度・授業への参加度 毎回、出席を確認する。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。受講生の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 基本的に発表形式(レポート、レジメ、プレゼン)を採る。出席 毎回、出席を確認する。

教科書・参考書 教科書：・テキスト候補(1) 桑原靖夫、グレッグ・バンバー、ラッセル・ランズベリー編(1994)『先進諸国の労使関係 国際比較：21世紀に向けての課題と展望』日本労働研究機構。(2)「特集 開発主義と労使関係」日本労働研究雑誌 1999年8月号、No.469。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(3) 稲上毅・H. ウィッタカー他(1994)『ネオ・コーポラティズムの国際比較 新しい政治経済モデルの探索』日本労働研究機構。(4) 日本労働協会編『海外調査シリーズ、 国の労働事情』日本労働協会(現日本労働研究機構)。・学生との相談の上、決める。/ 参考書： 適宜指示する。

メッセージ 共に学ばん!

連絡先・オフィスアワー tel: 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |                |    |      |     |        |
|------|----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代マーケティングの基礎研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 武居奈緒子          |    |      |     |        |

授業の概要 マーケティングとは、企業の対市場活動であり、市場競争の活動である。マーケティングの基本は、企業が、消費者のニーズを把握して、それに適合する商品・サービスを提供することである。具体的に言うと、ヒット商品は、どのようにしたら生まれるのか、どのようにしたら人の心を打つ広告を製作できるのか、価格をどのように設定するのか、販売ルートをどのように構築していくのかということが、マーケティングのメインとなるフォーカスである。最近では、マーケティングは、製造業者の分野に限定されるのではなくて、社会の様々な分野で、そのスキルの応用は有益であるということが言われた。そのため、地域産業、ひいては地方、地域間競争に打ち勝つために、どのようにマーケティング手法が応用可能であるかについても、考察していく予定である。

授業の一般目標 マーケティングの基本的文献を講読し、マーケティングの研究方法与諸問題に対する知識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：マーケティングの基本的知識について、理解を深める。 思考・判断の観点：マーケティングの諸問題に関して、思考・判断ができる。 関心・意欲の観点：日常のマーケティング現象について、関心を持つ。 態度の観点：積極的に議論に参加する。 技能・表現の観点：説得力のあるプレゼンテーションができる。

授業の計画（全体） マーケティングに関する基本的文献を輪読し、報告とディスカッションを行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 需要創造
- 第 3 回 項目 製品政策（ 1 ）
- 第 4 回 項目 製品政策（ 2 ）
- 第 5 回 項目 価格政策
- 第 6 回 項目 販売促進政策
- 第 7 回 項目 流通チャネル政策
- 第 8 回 項目 消費者行動（ 1 ）
- 第 9 回 項目 消費者行動（ 2 ）
- 第 10 回 項目 市場調査（ 1 ）
- 第 11 回 項目 市場調査（ 2 ）
- 第 12 回 項目 市場調査（ 3 ）
- 第 13 回 項目 双方向マーケティング
- 第 14 回 項目 地域のマーケティング
- 第 15 回 項目 地方自治体のマーケティング

教科書・参考書 教科書：消費行動, 武居 奈緒子, 晃洋書房, 2000 年



|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 流通システムの基礎研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 藤田健         |    |      |     |        |

授業の概要 流通は生産と消費の懸隔を架橋するために存在し、理論的には商人が流通機能の主たる担い手となっている。商人は取引を通じて複雑な流通構造を形作り、社会的な目的を達成しようとしている。この授業では、こうした複雑な流通システムの理論的理解を目指して文献の講読を行う。/ 検索キーワード 流通、商業、マーケティング

授業の一般目標 1. 流通理論を体系的に修得する。 2. 流通現象を理論的に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：流通理論を体系的に理解する。 思考・判断の観点：流通現象を理論的に説明できる。

授業の計画（全体）教科書の輪読をおこない、受講者とのディスカッションを通じて流通論を理解する。

成績評価方法（総合）報告内容・ディスカッションでの貢献（20%）、中間テスト（40%）、期末テスト（40%）で評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は受講者の希望をもとに決定する。候補として、次のようなものがある。  
・大阪市立大学商学部編『流通』、有斐閣。  
・高嶋克義『現代商業学』、有斐閣アルマ。  
・矢作敏行『現代流通』、有斐閣アルマ。  
・原田英生、向山雅夫、渡辺達朗『流通と商業』、有斐閣アルマ。  
・田村正紀『流通原理』、千倉書房。

|      |             |    |      |     |        |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 流通システムの応用研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |             | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 藤田健         |    |      |     |        |

授業の概要 わが国の流通は、情報技術の革新，ロジスティクスやサプライチェーン概念の普及，製販戦略提携などによって、調達・生産・物流・販売の各所でめざましい変貌を遂げている。それに対応して、流通研究の研究対象や方法も大きく変化している。そこで本講義では、現代の流通・営業戦略を学び、流通研究における現代的な研究課題を理解する。 / 検索キーワード 流通，マーケティング・チャネル，営業，物流，関係管理

授業の一般目標 1. 現代の流通・営業戦略の知識を習得する。 2. 流通研究における研究課題を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代の流通現象や流通理論を理解できるようになる。 関心・意欲の観点：現代の流通現象や流通研究に関心を示し、積極的にディスカッションに参加する。

授業の計画（全体）教科書の輪読をおこない、受講者とのディスカッションを通じて最新の流通研究を理解する。 1. イントロダクション 2. 流通・営業戦略の新視点 3. マーケティング・チャネルのマネジメント 4. 消費者起点の戦略的情報フロー管理 5. 顧客インターフェイス 6. 営業 7. ロジスティクス 8. 販売部門と生産部門のリンケージ 9. サプライヤー・マネジメント 10. 顧客関係マネジメント 11. 総括

成績評価方法（総合）報告内容（40％），ディスカッションへの参加（30％），レポート（30％）で評価する。

教科書・参考書 教科書：流通・営業戦略，小林哲・南知恵子，有斐閣アルマ，2004年 / 参考書：インターネット・マーケティングの原理と戦略，ワード・ハンソン著；長谷川真実訳，日本経済新聞社，2001年；流通ビジネスモデル，宮下淳・箸本健二編著，中央経済社，2002年；サプライチェーン経営革命，福島美明，日本経済新聞社，1998年；営業が変わる，石井淳蔵，岩波書店，2004年

メッセージ 「流通システムの基礎研究」を履修済みであることが望ましい。

|      |                |    |      |     |        |
|------|----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 人的資源管理の現代的課題研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 内田恭彦           |    |      |     |        |

授業の概要 この講義は人的資源管理論の中でも特に戦略的人的資源管理論に絞り、その類型、背景理論をまず概観する。その上で日本的経営における人的資源管理上の今日の問題点を明らかにし、人材ポートフォリオ・マネジメント論を検討する。 / 検索キーワード 戦略的人的資源管理、人材ポートフォリオ論、資源ベースの企業観 (RBV)、ダイナミック・ケイパビリティ

授業の一般目標 1. 戦略的資源管理論の諸理論の理解 2. 理論と現実を基に自ら考えていく力の涵養  
\*特に2番目を重視します。知識を持つだけでなく、知識を活用し一層知見を深めていけるようになることを第一の目標と考えています。

授業の計画(全体) 本講義は大きく3つから構成されている。第一にアメリカのSHRM論を概観し、戦略と人的資源管理の関係を検討する(戦略的資源管理の理論)。次いでこれらの理論の基礎となる理論を検討する(戦略的資源管理論の基礎理論)。その上で人材ポートフォリオ論の検討を行う(人材ポートフォリオ論の構築に向けて)。この際日本企業に適した人材ポートフォリオ論を検討し、構築していくことを意識的に行っていく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インストラクション 内容 本講義の概要などについての説明
- 第 2 回 項目 戦略的人的資源管理の理論 1 内容 戦略的人的資源管理論の全体像と類型
- 第 3 回 項目 戦略的人的資源管理の理論 2 内容 ユニバーサリスティック・アプローチについて
- 第 4 回 項目 戦略的人的資源管理の理論 3 内容 コンティンジェンシー・アプローチについて
- 第 5 回 項目 戦略的人的資源管理の理論 4 内容 コンフィギュレーション・アプローチについて
- 第 6 回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論 1 内容 取引費用理論
- 第 7 回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論 2 内容 人的資本論
- 第 8 回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論 3 内容 RBV
- 第 9 回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論 3 内容 企業文化論
- 第 10 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 1 内容 人的資源アーキテクチャー論について
- 第 11 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 2 内容 雇用ポートフォリオ論について
- 第 12 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 3 内容 日本企業の競争優位の構築法 - RBVからの検討
- 第 13 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 4 内容 日本企業の競争優位の構築法 - ダイナミック・ケイパビリティ論からの検討
- 第 14 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 5 内容 中核人材と周辺人材
- 第 15 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 6 内容 日本型経営における人材ポートフォリオのあり方

成績評価方法(総合) 知識・理解、思考・判断、態度・価値観を総合的に判断し評価する。知識・理解においてはレポート発表を、思考・判断においては授業内での発言内容を、態度・価値観では出席状況や授業への参加態度を主に考慮する。

教科書・参考書 教科書：授業の中で論文を指定します。 / 参考書：戦略的資源管理論の実相 - アメリカSHRM論研究ノート, 岩出博, 泉文堂

メッセージ この講義は議論を重視します。皆さんの活発な意見のやり取りから新たな知見を生み出したと考えています。

|      |                |    |      |     |        |
|------|----------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 人的資源管理の変化と展望研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 内田 恭彦          |    |      |     |        |

授業の概要 人的資源管理と企業の競争力の関係などについての研究所を輪読し、ディスカッションを行い、知識を深める

授業の一般目標 日本企業における人的資源管理と企業の競争優位との関係を理解する。また今後の進むべき方向についての洞察を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本企業の人的資源管理の諸特徴とその機能についての理解を深める 思考・判断の観点：今後の日本企業とその根幹をなす人的資源管理のあるべき方向についての自分なりの考えを持つ

授業の計画（全体） この授業では以下の3冊の研究書を読み、議論していく。1 『能力構築競争』藤本隆宏著、中公新書、2003年、 2 『中小企業の競争力基盤と人的資源』稲上毅、八幡成美編著、文眞堂、1999年（1,2,4,5,6章）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インストラクション 能力構築競争1章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 シラバスおよび『能力構築競争』1章を読んでくること
- 第 2 回 項目 能力構築競争2章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』2章を読んでくること
- 第 3 回 項目 能力構築競争3章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』3章を読んでくること
- 第 4 回 項目 能力構築競争4章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』4章を読んでくること
- 第 5 回 項目 能力構築競争5章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』5章を読んでくること
- 第 6 回 項目 能力構築競争6章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』6章を読んでくること
- 第 7 回 項目 能力構築競争7章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』7章を読んでくること
- 第 8 回 項目 能力構築競争8章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』8章を読んでくること
- 第 9 回 項目 能力構築競争9章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』9章を読んでくること
- 第 10 回 項目 能力構築競争10章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 『能力構築競争』10章を読んでくること
- 第 11 回 項目 中小企業の競争力基盤と人的資源1章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 中小企業の競争力基盤と人的資源1章
- 第 12 回 項目 中小企業の競争力基盤と人的資源2章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 中小企業の競争力基盤と人的資源2章
- 第 13 回 項目 中小企業の競争力基盤と人的資源4章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 中小企業の競争力基盤と人的資源4章
- 第 14 回 項目 中小企業の競争力基盤と人的資源5章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 中小企業の競争力基盤と人的資源5章
- 第 15 回 項目 中小企業の競争力基盤と人的資源6章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 中小企業の競争力基盤と人的資源6章

成績評価方法 (総合) 知識習得度合い、授業における報告および議論への参加度合い、事前準備状況などを総合的に判断する

教科書・参考書 教科書：能力構築競争, 藤本隆宏, 中公新書, 2003 年；中小企業の競争力基盤と人的資源, 稲上毅、八幡成美, 文真堂, 1999 年

メッセージ 深い洞察と積極的な議論への参加が求められます

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 投資論研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 城下賢吾  |    |      |     |        |

授業の概要 ポートフォリオ理論やオプション理論など現代投資理論の専門知識の習得

授業の一般目標 投資に関する専門知識の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代投資理論の専門的知識の習得 思考・判断の観点：現実への適用 技能・表現の観点：最終的にレポート等で文章表現の修得

授業の計画（全体） 分担報告

成績評価方法（総合） 発表と出席

教科書・参考書 教科書：未定

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 国際経営の基礎研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 有村貞則      |    |      |     |        |

授業の概要 多国籍企業や国際経営に関する諸理論を学習する。

授業の一般目標 多国籍企業論および国際経営論の重要理論の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：既存理論の正しい理解と評価 思考・判断の観点：既存理論の問題点や限界の発見

授業の計画（全体） 1．多国籍企業論 2．国際経営論

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル 理論 (1)
- 第 2 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル 理論 (2)
- 第 3 回 項目 ハイマーの対外 事業活動論 (1)
- 第 4 回 項目 ハイマーの対外 事業活動論 (2)
- 第 5 回 項目 フェアーフェザーの国際経営論 (1)
- 第 6 回 項目 フェアーフェザーの国際経営論 (1)
- 第 7 回 項目 ダニングの折衷 理論 (1)
- 第 8 回 項目 ダニングの折衷 理論 (2)
- 第 9 回 項目 多国籍企業の組織論 (1) : スト ッ プフォード & ウェルズ
- 第 10 回 項目 多国籍企業の組織論 (2) : パートレット & ゴシャル
- 第 11 回 項目 多国籍企業の組織論 (3) : ゴシャル
- 第 12 回 項目 グローバル戦略論 : マイケルポーター
- 第 13 回 項目 異文化経営論 (1) : ホフステッド
- 第 14 回 項目 異文化経営論 (2) : ホフステッド
- 第 15 回 項目 グローバル企業の戦略提携

成績評価方法（総合）出席および授業中の発表で評価します

教科書・参考書 参考書：資料を適時配布します

連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 国際経営の応用研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 有村貞則      |    |      |     |        |

授業の概要 この授業は、国際経営に関する近年の学術論文を通して、この分野の新しい理論展開やその問題点について考察することを目的とする。また、研究開発のグローバル化や国際マーケティング、国際人事など、様々なテーマを取り上げる予定である。

授業の一般目標 最新の国際経営理論を学習と新しい研究課題の発見

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：最新の国際経営諸理論の理解と評価 思考・判断の観点：最新の国際経営諸理論の問題点や限界の発見



|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 経営史の基礎研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 古川澄明     |    |      |     |        |

授業の概要 受講者の修士論文の作成を前提にして、受講者の経営学的基礎知識を深める。 / 検索キーワード 意欲的に議論に参加し、専門知識を学び取ろう。

授業の一般目標 修士論文の作成に繋がるような授業を行うので、受講者と相談の上で、テーマを選択する。目標は、修士論文の基礎となる経営学基礎知識の修得に置く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営学の専門知識の修得 思考・判断の観点：学術的論文を作成するための思考力や研究上のアイデア想像力を養うこと。 関心・意欲の観点：授業で取り上げる論題に対して、常に、積極的に関心を持ち、知識を深めようとする意欲が不可欠である。 態度の観点：授業は、パッシブな態度ではなく、ポジティブ、アクティブな姿勢が求められる。 技能・表現の観点：報告を行うことで、プレゼンテーション力を身に付けると同時に、論文の構想力を養うこと。 その他の観点：授業に自分の研究と結びつけた強い関心と、学ぼうとする意欲が求められる。

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、修士論文作成に役立つようなテーマで、授業を行う。

成績評価方法（総合） 受講態度を総合的に判断して評価する。

メッセージ 特定のテーマで修士論文を書くという明確な目標をもって授業に参加すること。

連絡先・オフィスアワー アポを取れば、随時。

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 国際比較経営史研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 古川澄明      |    |      |     |        |

授業の概要 受講者の修士論文の作成を前提にして、受講者の経営学的基礎知識を深める。とくに修士論文の作成についての相談にも応じながら、学べる形をとる。 / 検索キーワード 意欲的に議論に参加し、専門知識を学び取ろう。

授業の一般目標 修士論文の作成に繋がるような授業を行うので、受講者と相談の上で、テーマを選択する。目標は、修士論文の基礎となる経営学基礎知識の修得に置く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営学の専門知識の修得 思考・判断の観点：学術的論文を作成するための思考力や研究上のアイデア想像力を養うこと。 関心・意 関心・意欲の観点：授業で取り上げる論題に対して、常に、積極的に関心を持ち、知識を深めようとする意欲が不可欠である。 態度の観点：授業は、パッシブな態度ではなく、ポジティブ、アクティブな姿勢が求められる。 技能・表現の観点：報告を行うことで、プレゼンテーション力を身に付けると同時に、論文の構想力を養うこと。 その他の観点：授業に自分の研究と結びつけた強い関心と、学ぼうとする意欲が求められる。

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、修士論文作成に役立つようなテーマで、授業を行う。

成績評価方法（総合） 受講態度を総合的に判断して評価する。

メッセージ 特定のテーマで修士論文を書くという明確な目標をもって授業に参加すること。

連絡先・オフィスアワー アポを取れば、随時。

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 商品の経済環境研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 柳田卓爾      |    |      |     |        |

授業の概要 商品を調査、分析するための基礎となるような、修士のレベルで理解しておくべき理論的なフレームワークを学ぶ。

授業の一般目標 商品を調査、分析するための基礎となるような、理論的フレームワークを理解する。

授業の計画(全体) (1) 基礎的文献を読む (2) ジャーナル論文を読む

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 競争の戦略 5つの要因が競争を支配する (1)
- 第 3 回 項目 競争の戦略 5つの要因が競争を支配する (2)
- 第 4 回 項目 競争優位の戦略 「企業戦略」を再考する (1)
- 第 5 回 項目 競争優位の戦略 「企業戦略」を再考する (2)
- 第 6 回 項目 戦略クラフティング (1)
- 第 7 回 項目 戦略クラフティング (2)
- 第 8 回 項目 企業の未来 (1)
- 第 9 回 項目 企業の未来 (2)
- 第 10 回 項目 スケール・アンド・スコープ 産業成長の論理 (1)
- 第 11 回 項目 スケール・アンド・スコープ 産業成長の論理 (2)
- 第 12 回 項目 コア・コンピタンス経営 (1)
- 第 13 回 項目 コア・コンピタンス経営 (2)
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回 項目 おわりに

成績評価方法(総合) 宿題、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度、小テスト、定期試験等を総合して評価する。出席は、欠格条件である。

メッセージ 修士課程の学生が身に付けておくことが望ましい、基礎的な力を習得できるように授業を構成できるよう努力したいと思います。受講生の皆さんも、がんばってついてきて下さい。

|      |              |    |      |     |        |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 無形財商品の動向分析研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 柳田卓爾         |    |      |     |        |

授業の概要 無形財商品を調査、分析するための基礎となるような、修士のレベルで理解しておくべき理論的なフレームワークを学ぶ。

授業の一般目標 無形財商品を調査、分析するための基礎となるような、理論的フレームワークを理解する。

授業の計画(全体) (1) 基礎的文献を読む (2) ジャーナル論文を読む

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 製品・ブランド戦略と価値創造
- 第 3 回 項目 新製品開発のマーケティング
- 第 4 回 項目 製品開発における顧客志向と顧客代行
- 第 5 回 項目 戦略的アライアンスと製品開発
- 第 6 回 項目 ブランド価値のデザイン
- 第 7 回 項目 ブランド要素戦略
- 第 8 回 項目 サービスのブランド戦略
- 第 9 回 項目 ブランドと経験価値
- 第 10 回 項目 ブランディング・ケイパビリティ
- 第 11 回 項目 ブランド・マネジメント組織の現状と課題
- 第 12 回 項目 ジャーナル論文の輪読 (1)
- 第 13 回 項目 ジャーナル論文の輪読 (2)
- 第 14 回 項目 ジャーナル論文の輪読 (3)
- 第 15 回 項目 おわりに

成績評価方法(総合) 宿題、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度、小テスト、定期試験等を総合して評価する。出席は、欠格条件である。

教科書・参考書 教科書：製品・ブランド戦略 現代のマーケティング戦略(1), 青木幸弘・恩蔵直人編, 有斐閣アルマ, 2004 年

メッセージ 修士課程の学生が身に付けておくことが望ましい、基礎的な力を習得できるように授業を構成できるよう努力したいと思います。受講生の皆さんも、がんばってついてきて下さい。

|      |              |    |      |     |        |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 企業経営とリスク分析研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 石田成則         |    |      |     |        |

授業の概要 リスク・マネジメントの概念と手法を整理したうえで、製造物責任や公害補償責任を取り上げ、それに対応する保険システムとリスク・マネジメント手法の具体的活用について学習する。

授業の一般目標 テキストの輪読により、リスク・マネジメント手法の現実と、ファイナンシャル・リスク・マネジメントの中核をなす保険システムの理解を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： リスクマネジメント手法の理解 思考・判断の観点： 不確実な将来を見越して複線的な物の見方を涵養する。 態度の観点： 討論に積極的に参加する。

授業の計画（全体） 教科書の輪読

成績評価方法（総合） レポートと日常点

教科書・参考書 教科書： 保険とリスクマネジメント，米山高生，東洋経済新報社，2005 年

|      |              |    |      |     |        |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 企業経営とリスク管理研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 石田成則         |    |      |     |        |

授業の概要 事業活動リスクについて整理したうえで、ART（保険代替手段）、金融再保険、ファイナ  
イト保険、そして債権流動化のための保険スキームについて学習する。応用例として、国際プロジェクト・  
ビジネスにおけるリスク管理問題を取り上げる。

授業の一般目標 国際プロジェクト・ビジネスのリスク管理を事例に、リスクマネジメントの理論と実際  
を学ぶ。

授業の計画（全体） 企業経営における事業活動リスクについて整理したうえで、リスク管理の基礎理論と、  
応用事例について学習する。そのためにつぎのテキストを輪読する。S.E.Harrington & G.R.Niehaus,  
Risk Management and Insurance, McGraw-Hill, 1999

教科書・参考書 参考書：企業のリスク・ファイナンスと保険, 吉澤卓哉, 千倉書房, 2001 年

|      |         |    |      |     |        |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 地域経済論研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |         | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 齋藤英智    |    |      |     |        |

授業の概要 地域経済に関連する諸理論を学び、地域経済の現代的課題について検討する。 / 検索キーワード 地域経済、都市経済

授業の一般目標 地域経済に関する理論を理解するとともに、地域経済学的アプローチによって地域の現代的課題を考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：地域経済に関する理論についての報告・議論ができる。 思考・判断の観点：理論と現状に基づく問題の所在を述べるができる。 関心・意欲の観点：疑問点を自ら積極的に調査・分析し、報告・議論ができる。

授業の計画（全体） 地域経済に関する経済理論の文献を輪読する。毎回分担報告者がレジュメを作成し報告する。また、報告者は予めその日の報告に関連するトピックを準備し、自ら考察を加えたものを準備する。その日の報告に基づき、全員が参加して地域政策について討論する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業計画の説明・報告担当者の決定
- 第 2 回 項目 地域の課題（1） 内容 報告・討論：都市
- 第 3 回 項目 地域の課題（2） 内容 報告・討論：農山漁村
- 第 4 回 項目 都市集積（1） 内容 報告・討論：都市の集中
- 第 5 回 項目 都市集積（2） 内容 報告・討論：規模の経済
- 第 6 回 項目 都市の成長と衰退（1） 内容 報告・討論：成長モデル
- 第 7 回 項目 都市の成長と衰退（2） 内容 報告・討論：衰退モデル
- 第 8 回 項目 立地（1） 内容 報告・討論：中心地理論
- 第 9 回 項目 立地（2） 内容 報告・討論：産業立地
- 第 10 回 項目 産業連関（1） 内容 報告・討論：産業連関分析
- 第 11 回 項目 産業連関（2） 内容 報告・討論：地域間産業連関
- 第 12 回 項目 空間的相互作用 内容 報告・討論：重力モデル
- 第 13 回 項目 地域政策（1） 内容 報告・討論：地域経済活性化への諸方策
- 第 14 回 項目 地域政策（2） 内容 報告・討論：地域の持続可能性
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 総合討論：地域の持続的発展

成績評価方法（総合） 出席（30%）、報告（50%）、参加姿勢・発言内容など（20%）により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は最初の授業内で指定する。

メッセージ 報告者が提供するトピックでは、資料の収集やデータ分析などを各自で行ってもらおう。ワード、エクセルなどのソフトを利用し、分析できることが望まれる。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 観光経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 齋藤英智   |    |      |     |        |

授業の概要 観光に関連する経済理論を学び、観光の現代的課題について検討する。とりわけ、持続可能な観光のあり方を検討課題とし、エコツーリズムやグリーン・ツーリズムなどの概念を理解することによって、資源の持続性や環境的側面を考慮した観光の持続的発展について考える。 / 検索キーワード 観光経済、持続可能な観光

授業の一般目標 持続可能な観光に関する理論や考え方を理解するとともに、経済学的なアプローチによって観光の現代的課題を考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 持続可能な観光の概念を踏まえた議論ができる。 思考・判断の観点： 観光を取り巻く現状を理解し、観光のあるべき姿に対する意見を述べる事ができる。 関心・意欲の観点： 自らの疑問点を分析し、報告・討論することができる。

授業の計画（全体） 観光に関する経済理論の文献を輪読する。毎回分担報告者がレジюмеを作成し報告する。また、報告者は予めその日の報告に関連するトピックを準備し、自ら考察を加えたものを準備する。その日の報告に基づき、全員が参加して持続可能な観光のあり方について討論する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 ・授業計画の説明 ・報告担当者の決定
- 第 2 回 項目 マス・ツーリズム 内容 報告・討論：これまでの観光形態と持続可能性
- 第 3 回 項目 サステイナブル・ツーリズム 内容 報告・討論：これからの観光形態と持続可能性
- 第 4 回 項目 観光経済理論（1） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（需要面）
- 第 5 回 項目 観光経済理論（2） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（需要面）
- 第 6 回 項目 観光経済理論（3） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（需要面）
- 第 7 回 項目 観光経済理論（4） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（供給面）
- 第 8 回 項目 観光経済理論（5） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（供給面）
- 第 9 回 項目 観光経済理論（6） 内容 報告・討論：観光経済に関する理論（供給面）
- 第 10 回 項目 持続可能な観光（1） 内容 報告・討論：持続可能な観光の概念（経済面）
- 第 11 回 項目 持続可能な観光（2） 内容 報告・討論：持続可能な観光の概念（社会面）
- 第 12 回 項目 持続可能な観光（3） 内容 報告・討論：持続可能な観光の概念（環境面）
- 第 13 回 項目 持続可能な観光の形態（1） 内容 報告・討論：エコツーリズムを中心に
- 第 14 回 項目 持続可能な観光の形態（2） 内容 報告・討論：グリーン・ツーリズムを中心に
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 総合討論：持続可能な観光のあり方

成績評価方法（総合） 出席（30%）、報告（50%）、参加姿勢・発言内容など（20%）により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は最初の授業内で指定する。

メッセージ 報告者が提供するトピックでは、資料の収集やデータ分析などを各自で行ってもらおう。ワード、エクセルなどのソフトを利用し、分析できることが望まれる。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp



|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 陳建平    |    |      |     |        |

授業の概要 改革開放 20 年、中国が大きな変貌を遂げた。その中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握し、21 世紀の中国経済の展望について考える。

授業の一般目標 今日の中国経済の成長と社会主義計画経済時代の経済発展との関連性について正しく理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国経済の現状や課題について深く理解していること。

授業の計画（全体） 文献資料等を講読する。

成績評価方法（総合） 報告とレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは受講者と相談の上決める。

メッセージ 文献資料の多くが中国語であるため、中国語の理解力が求められる。

|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国産業政策研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 陳建平      |    |      |     |        |

授業の概要 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。

授業の一般目標 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。

授業の計画(全体) 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 50% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 50% 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：中国語資料を使うことがあるので、中国語の読解能力を有することが前提。

メッセージ 無断欠席しないこと。

|      |              |    |      |     |        |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 多国籍企業と世界経済研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 河野真治         |    |      |     |        |

授業の概要 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、M & A、戦略的提携。

授業の一般目標 直接投資に関する最新の情報を学ぶこと。

授業の計画(全体) World Investment Report 2007、を読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論 (以下同じ)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

教科書・参考書 教科書： World Investment Report 2007, UNCTAD

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 国際産業研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 河野真治   |    |      |     |        |

授業の概要 いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討するのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となるのは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。

授業の一般目標 国際間の寡占企業間の競争の実態について学ぶ。

授業の計画（全体） 学生が自分で産業を選び、国際競争の実態について報告する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論（以下同じ）

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 経済法研究 | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 土生 英里 |    |      |     |        |

授業の概要 モノやサービスの輸出入、知的所有権から紛争解決まで、国際取引のルールを概観し、経済のグローバル化が国内法構造に及ぼす影響を検証する。 / 検索キーワード グローバリゼーション、国際取引、国際貿易

授業の一般目標 経済がグローバル化するにつれて、国境を越えた様々な取引を規律するには国内法だけでは対応できない時代である。そのため、様々な国際間の合意や協定が国内法化され、適用されており、国際経済法と呼称されている。ここではとくに国際経済法の中核を占める国際貿易ルールについて、その種類、適用対象、内容、効果を概観する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際貿易の主要なルールを理解する 思考・判断の観点： 経済のグローバル化が国内法に及ぼす影響を認識する 関心・意欲の観点： 具体的な企業行動にかかわる国際経済法の構造を理解する

授業の計画(全体) 第1週 ガイダンス 第2週 国際経済法の概要 第3週 国際経済法発展の軌跡 第4週 商品貿易と無差別原則 第5週 商品貿易と自由化 第6週 ダumping防止措置 第7週 補助金相殺措置 第8週 セーフガード措置 第9週 原産地規則 第10週 農業貿易と繊維貿易 第11週 サービス貿易 第12週 知的所有権の構造 第13週 政府調達と地域統合 第14週 紛争解決手続き 第15週 試験

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 企業の国際化と国際取引
- 第2回 項目 国際経済法の概要 内容 国際経済法の意義と特色
- 第3回 項目 国際経済法発展の軌跡 内容 保護貿易主義とブロック経済、国際経済法の歴史
- 第4回 項目 商品貿易と無差別原則 内容 最恵国待遇原則
- 第5回 項目 商品貿易と自由化 内容 内国民待遇原則
- 第6回 項目 ダumping防止措置 内容 ダumping防止の意義と効果
- 第7回 項目 補助金相殺措置 内容 補助金の性質と相殺措置
- 第8回 項目 セーフガード措置 内容 GATT セーフガード規定と WTO セーフガード協定
- 第9回 項目 原産地規則 内容 原産地規則の概要
- 第10回 項目 農業貿易と繊維貿易 内容 WTO 農業協定と WTO 繊維協定
- 第11回 項目 サービス貿易 内容 WTO サービス貿易協定と分野別サービス交渉の実態
- 第12回 項目 知的所有権の構造 内容 知的所有権と GATT/WTO および TRIPS 協定
- 第13回 項目 政府調達と地域統合 内容 WTO 政府調達協定と地域統合の実際
- 第14回 項目 紛争解決手続き 内容 WTO 紛争解決手続きと適用
- 第15回 項目 試験 内容 論述式

成績評価方法(総合) 出席と授業への参加・発言を重視します。成績評価は上記に論述式の試験の結果を加えたものとします。

教科書・参考書 教科書：ゼミナール「国際経済法入門」、小室程夫、日本経済新聞社、2003年 / 参考書：世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO、外務省経済局監修、日本経済問題研究所、1997年

メッセージ 内容的に非常に膨大な領域をカバーします。テキストの事前の復習が鍵となります。質問は随時受け付けます。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F ( A410 ) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

|      |           |    |      |     |        |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 韓国経済論研究 B | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |           | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 横田伸子      |    |      |     |        |

授業の概要 1997 年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をどのように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れる。  
 / 検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー

授業の一般目標 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点： 1 . テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。  
 技能・表現の観点： 1 . 客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。

授業の計画 ( 全体 ) 韓国の構造改革に関する学術書や学術論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。報告を中心に討論を行う。

成績評価方法 ( 総合 ) 1 . 報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。4 回以上欠席した場合、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：テキストは適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けません。E-mail:y nobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp  
 電話：083-933-5559

|      |                              |    |      |     |        |
|------|------------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 文化心理学研究                      | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |                              | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO |    |      |     |        |

授業の概要 人間は自分の個人的な価値観に基づいて、自分の個人的な利便性を追及するために、合理的な経済活動を行っており、社会的な圧力がなければ誰もこのような合理的な個人主義者になるという欧米的な考え方が、全ての文化経済に当てはまると思われてきた。社員はできるだけ自分の能力を発揮できる職場を求めたながら、自分の能力を雇用者に売っているというのが雇用関係の基本だとも主調される。一方では、日本・中国などアジア諸国では、先述した欧米合理個人主義に当てはまらない経済的システムが形成されてきた。近年の文化心理学という実験・社会心理学は、個々人間の独立性・価値観の独立性・合理性を欧米諸国の文化思想(神話)に過ぎないということを実証的に論じ始めた。本授業では、皆さんの経済学的研究との関係を考えながら、このような新しい社会心理学的な実験研究を紹介する。/ 検索キーワード 心理学・文化・集団主義・個人主義・欧米化

授業の一般目標 文化心理学の最新の実験的研究や下記の理論を理解すること 1) 集団主義と個人主義がどのように定義されてきたか 2) 相互依存主義の新しい見解がどのような問題を呈しているか 3) 自己高揚の普遍性についての論争 4) アジア諸国における道徳(あるいはそのなさ) 5) 全体的・分析的思考の理論 これらの研究が経済学的研究にどのように影響するかを考えることにある。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 文化心理学の理論を理解する 思考・判断の観点: 文化心理学の理論を自らの経済学的研究に応用する 技能・表現の観点: どのようにして自分の研究の心理的な前提の検証法

授業の計画(全体) 文化心理学では特に欧米と東洋(特に中国・韓国・日本)との間にある考え方の違いをいくつかの理論的観点から説明してきました。この授業では、各理論を考察してから、主張された違いがどのように他の心理学の分野に及ぶか、また経済学にどのような影響を与えているかについて考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文化心理学の紹介 内容 Richard Shwederなどを参照して文化心理学がなんぞや紹介します。授業記録 PPT
- 第 2 回 項目 集団主義と個人主義(1/3) 内容 Geert Hofstedeの個人主義対集団主義の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 3 回 項目 集団主義と個人主義(2/3) 内容 Hazel Markusと北山忍の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 4 回 項目 集団主義と個人主義(3/3) 内容 結城正樹の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 5 回 項目 ナレーション(物語)の心理学 内容 言葉を使うことは思考にどのような影響を与えているか 授業記録 PPT
- 第 6 回 項目 自己高揚(自惚れ)の心理学 内容 欧米人は自惚れやであるのに対して、日本人はある種の劣等感をもつことで、反省し自己改善する 授業記録 PPT
- 第 7 回 項目 文化心理学と認知 内容 全体的思想と分析的思想という Richard Nisbettの理論 授業記録 PPT
- 第 8 回 項目 思考の媒体と心理学 内容 自己意識の主要媒体(チャンネル)が欧米と日本では異なっているという私設 授業記録 PPT
- 第 9 回 項目 ホラーの文化心理学 内容 ホラーやタブーについての諸理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 10 回 項目 ホラーと文化心理 内容 実際に昔話を読んで映画を見て 社会におけるタブー対象の影響 授業記録 PPT
- 第 11 回 項目 文化心理学の応用 内容 精神療法と文化心理学 授業記録 PPT
- 第 12 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT

- 第 13 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT
- 第 14 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT
- 第 15 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT

成績評価方法 (総合) 出席・授業参加も重視しながら、文化心理学が自分の研究への影響を考察するレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：パワーポイントスライドをインターネットで配布する / 参考書：社会心理学：アジア的視点から、山口勸編著、放送大学教材、1998 年；木を見る西洋人 森を見る東洋人、ニスベツト、R. E. , ダイヤモンド社、2004 年；(3) 日本人らしさ」の発達社会心理学 自己・社会的比較・文化、高田 利武、ナカニシヤ出版、2004 年；文化行動の社会心理学 文化を生きる人間のこころと行動、金児 暁嗣、結城 雅樹、北大路書房、2005 年；参考書を購入する必要はありませんが、文化心理学をもっと詳しく勉強したい学生にお貸しします。

メッセージ 話し合いながら、欧米文化普遍主義を考え直しましょう。

連絡先・オフィスアワー 083-933-5555 にお電話いただければいつでもどうぞ A 棟の 4 階まで



|      |          |    |      |     |        |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 外国文献研究 A | 区分 | 講義   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |          | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 城下賢吾     |    |      |     |        |

授業の概要 英文文献を読み専門知識の習得

授業の一般目標 ファイナンスに関する専門知識の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門知識の習得

授業の計画（全体） 分担して報告

成績評価方法（総合） 報告内容と出席

教科書・参考書 教科書： 未定

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 長谷川光圀 |    |      |     |        |

授業の概要 各学生の個人テーマに沿って、基本文献を輪読し、要点をレポートしてもらう。 / 検索キーワード 問題の解決方法は、多様であること。

授業の一般目標 論文を書くための、専門的基礎知識の習得。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門理論が正しく理解されているか。 思考・判断の観点：問題の複眼的見方ができているか。 関心・意欲の観点：専門書をよく読んで、理解し、報告しているか。

授業の計画（全体） 論文を書くに必要な専門知識の習得度合い。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 2 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 3 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 4 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 5 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 6 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 7 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 8 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 9 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 10 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 11 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 12 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 13 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 14 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 15 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート

成績評価方法（総合） 研究報告とその内容、演習出席率。

メッセージ プロトタイプな思考から、脱却。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 内田 恭彦 |    |      |     |        |

授業の概要 戦略的資源管理論もしくは知的資本経営論に関係し、ゼミ所属メンバー各人の関心のある論文（英語もしくは日本語）を読み、ディスカッションすることで、当該論文内容を理解・検討すると同時に、基本的な研究の進め方、論文の書き方、調査方法についての知識を深める。

授業の一般目標 経営学の研究者として、研究の行い方に関する基礎的知識を身につけること、および修士論文テーマを発見し、アプローチ法を定め、修士論文を仕上げるまでの具体的スケジュールを作り上げることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 戦略的資源管理論もしくは知的資本経営論に関する基礎知識の習得、 2 . 基本的な研究の進め方などに関する知識の習得 関心・意欲の観点： 積極的にゼミでの議論に参加し、経営現象や論文に関する深い洞察を得ることに寄与することができるようになること

授業の計画（全体） 事前学習として毎週 1 - 2 本の指定論文を読んだ上で、発表担当者が論文内容を発表し、全員で議論し 1 ) 内容理解、 2 ) 研究方法理解、 3 ) 参考点、 4 ) 問題点を明確にする。その後学問上および研究方法論上必要と思われる知識について共有する。

成績評価方法（総合） ゼミにおける発表内容、学習内容、研究（修士論文）への取り組みなどを総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書： 毎回論文が指定されます。

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 有村貞則  |    |      |     |        |

授業の概要 各自の修士論文テーマに関連した既存研究のサーベイと発表

授業の一般目標 既存研究の整理とその問題点の発見

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 既存研究の理解 思考・判断の観点： 既存研究の問題点の発見  
 関心・意欲の観点： 自ら設定した修士論文テーマへの研究意欲・関心の高揚

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 城下賢吾  |    |      |     |        |

授業の概要 専門知識の取得

授業の一般目標 ファイナンスに関する知識の習得

教科書・参考書 教科書：未定

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 橋本寛   |    |      |     |        |

授業の概要 ネットワーク問題に関する基礎的な代数理論について考察する。 / 検索キーワード ネットワーク、行列

授業の一般目標 ネットワーク問題の定式化と基本的事項の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的用語の理解 関心・意欲の観点：現実の問題との関連に興味を持つ。 技能・表現の観点：問題の定式化ができる。

授業の計画（全体） この演習 I A ではネットワークの基礎的事項を中心に取り上げる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の進め方、注意事項、参考書
- 第 2 回 項目 概要紹介 内容 ネットワーク問題
- 第 3 回 項目 数学的準備（ 1 ） 内容 グラフ
- 第 4 回 項目 数学的準備（ 2 ） 内容 ネットワーク
- 第 5 回 項目 数学的準備（ 3 ） 内容 行列
- 第 6 回 項目 数学的準備（ 4 ） 内容 代数的手法
- 第 7 回 項目 数学的準備（ 5 ）
- 第 8 回 項目 文献講読（ 1 ）
- 第 9 回 項目 文献講読（ 2 ）
- 第 10 回 項目 文献講読（ 3 ）
- 第 11 回 項目 文献講読（ 4 ）
- 第 12 回 項目 文献講読（ 5 ）
- 第 13 回 項目 発表討論
- 第 14 回 項目 発表討論
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 今後の計画

成績評価方法（総合） 出席、報告、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 古川澄明  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 成富敬   |    |      |     |        |

授業の概要 研究テーマに関連する専門的な知識を習得するとともに，文献の紹介や研究内容の発表をおこなう．

授業の一般目標 専門的な知識を習得し，関連文献の収集，研究についてのより深い議論ができる．

授業の計画（全体） 研究の進捗状況による．

成績評価方法（総合） 研究に取り組む姿勢，研究成果等により総合的に判断する．



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 渋谷綾子  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 篠原淳   |    |      |     |        |

授業の概要 企業会計に関する興味のあるテーマにつき調査・研究を行い修士論文作成に役立つ基礎力をつける / 検索キーワード 企業会計 税法 商法 会計基準

授業の一般目標 必要な文献調査と各文献の熟読による論点の理解

授業の計画(全体) 企業会計に関する興味のあるテーマにつき調査・研究を行い修士論文作成に役立つ基礎力をつける

成績評価方法(総合) 演習時の報告や討論に関する的確性により評価

教科書・参考書 教科書：適宜指示する / 参考書：適宜指示する

メッセージ 積極的取り組みを期待します。

連絡先・オフィスアワー あらかじめコンタクトをメールでとってください。 a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 山下訓   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文作成の基礎力を養うために、テキストを輪読したり、修士論文の中間発表を行う。

授業の一般目標 修士論文作成の基礎を固める。

授業の計画(全体) 受講生と相談して決めるが、第一に財務諸表をきちんと作成できること。最低限日商1級の水準を確保するように指導する。第二に米国会計理論の基礎としてBATICを学ぶ。したがって、基礎力が求められる上、課題も多いので、そのつもりで参加すること。

成績評価方法(総合) 参加と、会計の基礎が出来ているかの確認によって評価する。

教科書・参考書 参考書：700点突破BATICパーフェクト攻略 第3版, , 中央経済社, 2005年

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 武居奈緒子 |    |      |     |        |

授業の概要 本演習では、マーケティングについての基本的枠組み、研究に必要な基本的知識を学習する。

授業の一般目標 マーケティングについての基本的知識・研究方法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： マーケティングについての理解を深める。 思考・判断の観点： マーケティングに関する問題意識をクリヤーにする。 関心・意欲の観点： マーケティングの諸問題について、主体的に考える。 態度の観点： 課題に対して、積極的に取り組む。 技能・表現の観点： 説得力のあるプレゼンテーションができる。

授業の計画（全体） マーケティングに関する理論的研究を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 マーケティングの概要（ 1 ）
- 第 3 回 項目 マーケティングの概要（ 2 ）
- 第 4 回 項目 マーケティングの概要（ 3 ）
- 第 5 回 項目 マーケティングの概要（ 4 ）
- 第 6 回 項目 マーケティングの概要（ 5 ）
- 第 7 回 項目 製品政策（ 1 ）
- 第 8 回 項目 製品政策（ 2 ）
- 第 9 回 項目 流通チャネル政策（ 1 ）
- 第 10 回 項目 流通チャネル政策（ 2 ）
- 第 11 回 項目 販売促進政策（ 1 ）
- 第 12 回 項目 販売促進政策（ 2 ）
- 第 13 回 項目 価格政策（ 1 ）
- 第 14 回 項目 価格政策（ 2 ）
- 第 15 回 項目 研究報告

教科書・参考書 教科書： 消費行動, 武居 奈緒子, 晃洋書房, 2000 年

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 中田範夫  |    |      |     |        |

授業の概要 学生の研究テーマに従い、管理会計論や原価計算論の領域を研究する。

授業の一般目標 2年次の修士論文につながるような講義を行う。

授業の計画(全体) 修士論文のテーマにつながるような授業を行う。

成績評価方法(総合) 授業への出席と報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：学生と相談して決める。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 柳田卓爾  |    |      |     |        |

授業の概要 経営学の基礎理論を学ぶ。

授業の一般目標 経営学の基礎理論を理解する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 企業のマネジメントとは
- 第 3 回 項目 戦略とは何か (1)
- 第 4 回 項目 戦略とは何か (2)
- 第 5 回 項目 競争優位とビジネスシステム (1)
- 第 6 回 項目 競争優位とビジネスシステム (2)
- 第 7 回 項目 多角化と事業ポートフォリオ (1)
- 第 8 回 項目 多角化と事業ポートフォリオ (2)
- 第 9 回 項目 企業構造の再編成 (1)
- 第 10 回 項目 企業構造の再編成 (2)
- 第 11 回 項目 国際化戦略 (1)
- 第 12 回 項目 国際化戦略 (2)
- 第 13 回 項目 資本構造のマネジメント
- 第 14 回 項目 雇用構造のマネジメント
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：『ゼミナール経営学入門第3版』, 伊丹敬之、加護野忠男, 日本経済新聞社, 2003 年

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 石田成則  |    |      |     |        |

授業の概要 リスクマネジメントの手法について事例研究を通じて修得する。

授業の一般目標 効率的リスク管理手法に精通し、企業や金融機関においてリスクマネジャーとなりうる資質を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： リスクマネジメント手法の理解 思考・判断の観点： リスクマネジメント手法の事例に則した活用、リスク解析・シミュレーション手法の習得

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 長谷川光圀 |    |      |     |        |

授業の概要 特定の専門領域について、これまでに研究してきた成果を、論文としてまとめる。

授業の一般目標 修士論文を完成し、専門のプレゼンテーションができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文に関係する分野では、高度な理解に達し、議論できることを求める。 思考・判断の観点：正論といわれる、観点で議論ができること、加えて独自の思考展開をできることを求める。 関心・意欲の観点：重要文献を、よく読み、理解できることである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 専門領域の限定
- 第 2 回 項目 研究報告
- 第 3 回 項目 研究報告
- 第 4 回 項目 研究報告
- 第 5 回 項目 研究報告
- 第 6 回 項目 専門領域の修正
- 第 7 回 項目 研究報告
- 第 8 回 項目 研究報告
- 第 9 回 項目 研究報告
- 第 10 回 項目 専門領域の修正
- 第 11 回 項目 研究報告
- 第 12 回 項目 研究報告
- 第 13 回 項目 研究報告
- 第 14 回 項目 研究報告
- 第 15 回 項目 研究報告



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 古川澄明  |    |      |     |        |
|      |       |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 藤田健   |    |      |     |        |

授業の概要 流通・サプライチェーンマネジメント (SCM) 関係の基礎的な文献の輪読を行い，流通論を体系的に理解する。

授業の一般目標 1．流通論もしくは SCM 論の基礎的な知識を習得する。 2．流通論もしくは SCM 論を体系的に理解する。

授業の計画（全体） 基本的には文献の輪読を行う。報告者担当者がレジュメを作成して報告し，ディスカッションを行う。

成績評価方法（総合） 報告（40％），ディスカッション（60％）

教科書・参考書 教科書：輪読する文献は受講者の希望をもとに決定する。候補として、次のようなものがある。・高嶋克義『現代商業学』，有斐閣アルマ。・矢作敏行『現代流通』，有斐閣アルマ。・田村正紀『流通原理』，千倉書房。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 城下賢吾  |    |      |     |        |

授業の概要 専門知識の習得

授業の一般目標 専門知識をいかして修士論文を書くための準備作業

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 有村貞則  |    |      |     |        |

授業の概要 各自の修士論文のテーマに関連した既存研究のサーベイと発表

授業の一般目標 既存研究の整理とその問題点の発見

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 既存研究の理解 思考・判断の観点： 既存研究の問題点や限界の発見 関心・意欲の観点： 自らの修士論文テーマに対する研究意欲・関心の高揚

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 内田 泰彦 |    |      |     |        |

授業の概要 ゼミ生各人の研究テーマの進捗状況を報告し、周囲から研究上のアドバイスをもらうことを主とする。この時期は研究テーマに関する既存研究のレビューを行い、リサーチ・クエスションの設定と仮説構築、理論・量的調査・質的調査などの研究方法の絞込みとその実施計画を作り上げていくことを目標とする。

授業の一般目標 修士論文のテーマ、リサーチ・クエスション、仮説、研究方法などを明確にする。また既存研究レビューを進める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関するこれまでの研究の状況を整理し、自らが行うべき具体的研究テーマを理解する 思考・判断の観点： 既存研究に対し、一人の研究者としてすこしでも評価できるようになる 関心・意欲の観点： 修士論文作成へ向けて具体的な研究を自ら推進できるようになる

授業の計画（全体） ゼミ参加者は報告担当日を決め、研究の進捗報告を行った上で、全員でディスカッションし、アドバイスを受ける。その内容を後日まとめ、またそのアドバイスを参考に研究を進めていく。報告担当でない人は関心のある研究論文を参加者に紹介し、内容についてディスカッションを行い知見を深める。このことを繰り返していく。

成績評価方法（総合） ゼミへの参加状況、発表内容、研究進捗状況などをもとに総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 山下訓   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文作成の基礎力を養うために、テキストを輪読したり、修士論文の中間発表を行う。

授業の一般目標 修士論文作成の基礎を固める。

授業の計画(全体) 受講生と相談して決めるが、第一に財務諸表をきちんと作成できること。最低限日商1級の水準を確保するように指導する。第二に米国会計理論の基礎としてBATICを学ぶ。したがって、基礎力が求められる上、課題も多いので、そのつもりで参加すること。

教科書・参考書 参考書：880点突破BATICパーフェクト攻略 第3版, , 中央経済社, 2005年

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 篠原淳   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文作成のために必要な情報の提供ならびに論理的思考の訓練の訓練を継続して行いながら修士論文の内容を段階的に構築させる。 / 検索キーワード 企業会計 会計基準 税法 商法 時価

授業の計画(全体) 1. 修士論文のテーマの設定と基礎資料の収集 2. 論文の概略(主張したい点や章立て) 3. 論文の各部分で必要となる文献や理論面についても理解

成績評価方法(総合) 研究指導に基づいて計画的に論文作成に取り組んでいるかについて評価する。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

メッセージ メール等を有効に活用し、演習時だけでなく逐次連絡をとりながら論文作成を円滑に進めて欲しい。

連絡先・オフィスアワー 訪問は連絡により調整してください。 a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 中田範夫  |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文のテーマにつながるような授業を行う。

授業の一般目標 修士論文のテーマを確定すること。

授業の計画（全体） 修士論文のテーマの確定を授業の第一目標とする。

成績評価方法（総合） 授業への出席と報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書： 学生と相談して決める。



|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 武居奈緒子 |    |      |     |        |

授業の概要 本演習では、グローバル・ロジスティクスの生成・発展について、主として考察する。企業の世界戦略の中で、グローバル・ロジスティクスの果たす役割について、検討していく。さらに、個別テーマについて、研究経過を報告してもらい、論文作成を指導する。

授業の一般目標 自分の研究テーマについての問題意識を明確化する。長期トレンドを視野に入れて、現象を分析する能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：戦略物流、グローバル・ロジスティクスについて理解を深める。  
 思考・判断の観点：戦略物流、グローバル・ロジスティクスに関する問題意識をクリヤーにする。関心・意欲の観点：戦略物流、グローバル・ロジスティクスの諸問題について、主体的に考える。態度の観点：戦略物流、グローバル・ロジスティクスの諸課題に積極的に取り組む。技能・表現の観点：説得力のあるプレゼンテーションができる。

授業の計画（全体） ・戦略物流、グローバル・ロジスティクスに関する文献を輪読し、報告とディスカッションを行う。 ・個別テーマについて、研究の進捗状況を報告し、論文作成の指導をする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 流通部門形成の基本原則（ 1 ）
- 第 3 回 項目 流通部門形成の基本原則（ 2 ）
- 第 4 回 項目 流通部門形成の基本原則（ 3 ）
- 第 5 回 項目 戦略物流（ 1 ）
- 第 6 回 項目 戦略物流（ 2 ）
- 第 7 回 項目 戦略物流（ 3 ）
- 第 8 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 1 ）
- 第 9 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 2 ）
- 第 10 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 3 ）
- 第 11 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 4 ）
- 第 12 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 5 ）
- 第 13 回 項目 研究報告（ 1 ）
- 第 14 回 項目 研究報告（ 2 ）
- 第 15 回 項目 研究報告（ 3 ）

教科書・参考書 教科書： その都度指示する。 , ,

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 柳田卓爾  |    |      |     |        |

授業の概要 経営学の基礎理論を学ぶ。

授業の一般目標 経営学の基礎理論を理解する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 組織と個人、経営の働きかけ (1)
- 第 2 回 項目 組織と個人、経営の働きかけ (2)
- 第 3 回 項目 組織構造 (1)
- 第 4 回 項目 組織構造 (2)
- 第 5 回 項目 インセンティブシステム (1)
- 第 6 回 項目 インセンティブシステム (2)
- 第 7 回 項目 計画とコントロール：プロセスとシステム (1)
- 第 8 回 項目 計画とコントロール：プロセスとシステム (2)
- 第 9 回 項目 経営理念と組織文化 (1)
- 第 10 回 項目 経営理念と組織文化 (2)
- 第 11 回 項目 リーダーシップ (1)
- 第 12 回 項目 リーダーシップ (2)
- 第 13 回 項目 人の配置、育成、選抜 (1)
- 第 14 回 項目 人の配置、育成、選抜 (2)
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：『ゼミナール経営学入門第3版』, 伊丹敬之、加護野忠男, 日本経済新聞社, 2003 年

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 石田成則  |    |      |     |        |

授業の概要 演習 I A に同じ。

授業の一般目標 演習 I A に同じ。

成績評価方法 (総合) 演習 I A に同じ。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 藤田健   |    |      |     |        |

授業の概要 流通・サプライチェーンマネジメント (SCM) 関係の個別研究領域の文献を輪読する。

授業の一般目標 1 . 特定研究分野の研究課題を認識する。 2 . 特定研究分野の理論を理解する。

授業の計画 ( 全体 ) 基本的には文献の輪読を行う。報告者担当者がレジュメを作成して報告し , ディスカッションを行う。

成績評価方法 ( 総合 ) 報告 ( 40 % ) , ディスカッション ( 60 % )

教科書・参考書 教科書 : 輪読する文献は受講者の希望をもとに決定する。候補として、次のようなものがある。・加藤司『日本的流通システムの動態』, 千倉書房, 2006 年。・アラン・ハリソン, レムコ・ファン フック『ロジスティクス経営と戦略』, ダイヤモンド社, 2005 年。・「Diamond ハーバードビジネス」 「流通研究」 「マーケティング・ジャーナル」誌などの掲載論文。

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 橋本寛   |    |      |     |        |

授業の概要 ネットワーク問題に関する代数的理論の応用について考察する。 / 検索キーワード ネットワーク、アルゴリズム

授業の一般目標 ネットワーク問題の解法やアルゴリズムについて学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門用語の理解 思考・判断の観点： 解法について考える。 技能・表現の観点： アルゴリズムの作成

授業の計画（全体） この演習 I B では応用面について考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 取り上げる問題、報告の仕方
- 第 2 回 項目 問題の検討（ 1 ）
- 第 3 回 項目 問題の検討（ 2 ）
- 第 4 回 項目 課題説明
- 第 5 回 項目 報告
- 第 6 回 項目 課題説明
- 第 7 回 項目 報告
- 第 8 回 項目 課題説明
- 第 9 回 項目 報告
- 第 10 回 項目 課題説明
- 第 11 回 項目 報告
- 第 12 回 項目 課題説明
- 第 13 回 項目 報告
- 第 14 回 項目 補足
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 結果の検討

成績評価方法 (総合) 出席、報告、レポート

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 渋谷綾子  |    |      |     |        |

|      |       |    |      |     |        |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |       | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 成富敬   |    |      |     |        |

授業の概要 研究テーマに関連する専門的な知識を習得するとともに，文献の紹介や研究内容の発表をおこなう．

授業の一般目標 専門的な知識を習得し，関連文献の収集，研究についてのより深い議論ができる．

授業の計画（全体） 研究の進捗状況による．

成績評価方法（総合） 研究に取り組む姿勢，研究成果等により総合的に判断する．

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 長谷川光圀  |    |      |     |        |

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 特定領域の設定
- 第 2 回 項目 研究報告
- 第 3 回 項目 研究報告
- 第 4 回 項目 研究報告
- 第 5 回 項目 研究報告
- 第 6 回 項目 特定領域の再設定
- 第 7 回 項目 研究報告
- 第 8 回 項目 研究報告
- 第 9 回 項目 研究報告
- 第 10 回 項目 研究報告
- 第 11 回 項目 研究報告
- 第 12 回 項目 特定領域の再設定
- 第 13 回 項目 研究報告
- 第 14 回 項目 研究報告
- 第 15 回 項目 研究報告



|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 古川澄明   |    |      |     |        |

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 有村貞則   |    |      |     |        |

授業の概要 各自の修士論文の発表と指導

授業の一般目標 修士論文の完成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文テーマに関する知識のさらなる習得 思考・判断の観点：  
 既存データや学説、オリジナルデータをどのように評価するかについての深い考察 技能・表現の観点：  
 学術論文にふさわしい文章表現

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 城下賢吾   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の作成

授業の一般目標 専門知識を生かして修士論文の作成

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 成富敬    |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の作成を目標に、研究内容についての発表とディスカッションをおこなう。

授業の一般目標 修士論文を書くための材料を揃え、修士論文の大枠を構成する。

授業の計画(全体) 研究の進捗状況による。

成績評価方法(総合) 研究に取り組む姿勢、研究成果等により総合的に判断する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 渋谷綾子   |    |      |     |        |

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 篠原淳    |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文作成を実践的に学ぶ(トライアンドエラー) / 検索キーワード 企業会計 会計基準  
税法 商法 時価

授業の一般目標 文献収集と資料の熟読による理解 論文作成

成績評価方法 (総合) 修士論文作成の基本をもとに骨子を固めて論文作成に入っていく。

教科書・参考書 教科書： 適宜指示する / 参考書： 適宜指示する

メッセージ 毎回自分の研究テーマに関する事項の理解を少しずつでも深める努力をしてください。

連絡先・オフィスアワー メールでコンタクトをとってください。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 山下訓    |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の作成指導を行う。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

授業の計画(全体) 受講者と相談する。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIA | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期     |
| 担当教官 | 石田成則   |    |      |     |        |

授業の概要 リスクマネジメントの応用研究

授業の一般目標 企業や金融機関のリスクマネージャーの資格取得を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： リスクマネジメントの応用事例の理解 思考・判断の観点： リスクマネジメントの応用事例の活用



|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 長谷川光圀  |    |      |     |        |

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 詳細研究報告
- 第 2 回 項目 詳細研究報告
- 第 3 回 項目 報告詳細研究
- 第 4 回 項目 詳細研究報告
- 第 5 回 項目 詳細研究報告
- 第 6 回 項目 詳細研究報告
- 第 7 回 項目 詳細研究報告
- 第 8 回 項目 詳細研究報告
- 第 9 回 項目 詳細研究報告
- 第 10 回 項目 詳細研究報告
- 第 11 回 項目 詳細研究報告
- 第 12 回 項目 詳細研究報告
- 第 13 回 項目 詳細研究報告
- 第 14 回 項目 詳細研究報告
- 第 15 回 項目 詳細研究報告

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 古川澄明   |    |      |     |        |

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 有村貞則   |    |      |     |        |

授業の概要 各自の修士論文の発表と指導

授業の一般目標 修士論文の完成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文テーマに関連した知識のさらなる習得 思考・判断の観点： 既存データや学説、オリジナルデータをどのように評価するかについての深い考察 その他の観点： 学術論文にふさわしい文章表現

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 城下賢吾   |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の作成

授業の一般目標 専門知識を使って修士論文の作成

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 成富敬    |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の作成を目標に、研究内容についての発表とディスカッションをおこなう。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

授業の計画(全体) 研究の進捗状況による。

成績評価方法(総合) 研究に取り組む姿勢, 研究成果等により総合的に判断する。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 渋谷綾子   |    |      |     |        |

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 篠原淳    |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文の本格的作成 / 検索キーワード 企業会計 会計基準 税法 商法 時価

授業の一般目標 論理的思考による論文の組み立て

授業の計画(全体) 修士論文の作成

成績評価方法(総合) 修士論文の組み立てと論文作成の取り組みにより評価

教科書・参考書 教科書：適宜指示する / 参考書：適宜指示する

メッセージ 進捗状況を把握しながら無理なく論文を組み立てていきましょう。

連絡先・オフィスアワー メールでコンタクトをとってください。

|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 山下訓    |    |      |     |        |

授業の概要 修士論文作成を指導する。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

授業の計画（全体） 受講者と相談して決める。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp



|      |        |    |      |     |        |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 演習 IIB | 区分 | 演習   | 学年  | 配当学年なし |
| 対象学生 |        | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期     |
| 担当教官 | 石田成則   |    |      |     |        |

授業の概要 演習 II A に同じ。

授業の一般目標 演習 II A に同じ。

成績評価方法 (総合) 演習 II A に同じ。